Panasonic®

取扱説明書

デジタルカメラ / レンズキット
デジタルカメラ / ボディ

品番 **DMC-L10K**
DMC-L10

LEICA
D VARIO-ELMAR

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（4 ～ 7 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

VQT1G27-M

もくじ

はじめに

準備

基本

応用・撮る

「安全上のご注意」を必ずお読みください (4 ~ 7 ページ)

応用・見る

他の機器との接続

その他・Q & A

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、区分表示しています。**

	危険	「死亡や重傷など、危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	警告	「死亡や重傷などの可能性が想定される」内容です。
	注意	「傷害や物的損害のみ発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**

	してはいけない「禁止」内容です。		必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

バッテリーチャージャー(充電器)**/AC アダプターは、本機専用のバッテリーにのみ使用する**

バッテリーパック※は、誤った使いかたをしない（※以降は、「バッテリー」と表記）

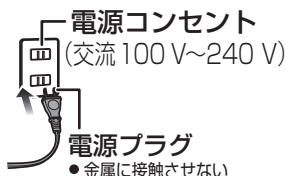
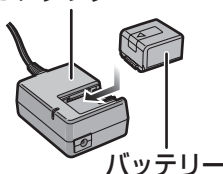
- 指定外のものは使わない
- 分解や加工（はんだづけなど）、加圧、加熱、火中投入などをしない
- 炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない
- 右図の端子部（⊕・⊖）に金属を接触させない

バッテリーは、正しく使う

- 専用のバッテリーチャージャー/AC アダプターで充電する

■ **バッテリーの液もれが起こったら**

・お買い上げの販売店にご相談ください。
・液が身体や衣服についたら、水でよく洗い流してください。
・液が目に入ったら、失明のおそれがあります。
　すぐにきれいな水で洗い、医師にご相談ください。

⚠警告

バッテリーチャージャー /AC アダプターは、誤った使いかたをしない

● たこ足配線や定格外（交流 100 V ～ 240 V 以外）で使わない

雷が鳴ったら、触れない

本体やバッテリーチャージャー /AC アダプターには、金属部があります。

分解や改造はしない、ぬらさない、異物を入れない

内部には、電圧の高い部分があります。

異常時には、バッテリーを外す

● 内部がぬれたり、金属や異物が入ったとき
● 外装ケースが破損したとき
● 煙や異臭、異音が出たとき

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

● 加工しない・傷つけない・熱器具に近づけない
● 無理に曲げない・ねじらない・引っ張らない
● 重い物を載せない
● 束ねたりしない
● 傷んだら使わない
● 差し込みがゆるい電源コンセントには使わない
● ぬれた手で抜き差ししない

電源プラグは定期的に乾いた布でふいてください。（ほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります）
電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。

⚠警告

乗り物を運転しながら使わない

- 歩行中も周囲や路面の状況に十分注意してください。

電源を入れたまま長時間、直接触れて使用しない

本機の温度の高い部分に長時間、直接触れていると低温やけど※の原因になります。長時間ご使用の場合は、三脚などをお使いください。

※ 血流状態が悪い人（血管障害、血液循環不良、糖尿病、強い圧迫を受けている）や皮膚感覚が弱い人（高齢者）などは、低温やけどになりやすい傾向があります。

メモリーカード / アイピースキャップ / アイカップ / マグニファイヤーアイカップは乳幼児の手の届くところに置かない

- 万一、飲み込んだら、すぐ医師にご相談ください。

目の傷害や、やけど、事故を防ぐために

フラッシュ発光部は、至近距離（数 cm）で直接見ない

AF補助光も直接見ない、発光直後に直接触らない

病院内や機内では、病院や航空会社の指示に従う

本機からの電磁波などが、計器類に影響を及ぼすことがあります。

メモリーカード（別売）

⚠注意

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災の原因になることがあります。

次のような場所に放置しない

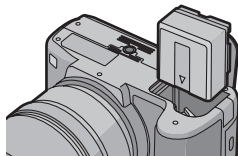
- 異常に温度が高くなるところ（特に真夏の車内やトランクなど）
- 油煙や湯気の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 重いものの下
- 足元など、誤って踏んでしまうようなところ

下記により、火災や感電、けがの原因になることがあります。

- 高温になる場所や重量物の下などに置くことによる製品の劣化や破損
- 油や水分、ほこりによる通電
- 本機に乗っての転倒

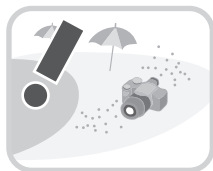
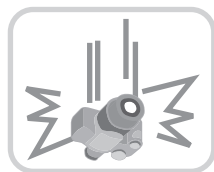
次のときは、バッテリーを取り出す

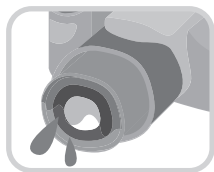
- 長期間使わないとき
- お手入れのとき

バッテリーを入れたまま放置すると、絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因になることがあります。

■ 不要（寿命）になったバッテリーは、リサイクル協力店へ (P165)

■ 修理や点検、異常時は、そのまま使わず、お買い上げの販売店にご相談ください

ご使用の前に

■ 本機の取り扱いについて…

- **落下などによる強い振動や衝撃を与えないでください。**
  誤動作や、画像が記録できなくなる、またはレンズや液晶モニターが破壊される可能性があります。
- **下記の場所では、故障などの原因になることがありますので、特にお気をつけください。**
  ・砂やほこりの多いところ
  ・雨の日や浜辺など水がかかるところ
- **本機は防水構造ではありません。**
  万一、水や海水がかかったときは、柔らかい乾いた布でふいてください。
- **ミラー内に手を入れないでください。**シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロワーなどで強く吹いたりしないでください。傷、変形、破損の原因になりますのでお気をつけください。

■ つゆつきについて（レンズやファインダーがくもるとき）…

- つゆつきは、温度差や湿度差があると起こります。レンズ汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気をつけください。
- つゆつきが起こった場合、電源を [OFF] にし、2 時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

■ 「使用上のお願い」も、あわせてお読みください。(P163)

■ 事前に必ずためし撮りをしてください

大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影されていることを確かめてください。

■ 撮影内容の補償はできません

本機およびカードの不具合で撮影されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気をつけください

あなたが撮影したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

■ カードの画像について

- 以下の画像は、本機で再生できない場合があります。
  - ・他機で記録、作成した画像
  - ・パソコンで編集された画像
- 本機で記録、作成した画像は他機で正常に再生できない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

■ 本機で使用できるカードは

SDメモリーカード、SDHCメモリーカードおよびマルチメディアカードです。

- 本書では以下のカードのことを「カード」と記載しています。
  - ・SDメモリーカード(8 MB～2 GB)
  - ・SDHCメモリーカード（4 GB、8 GB、16 GB）
  - ・マルチメディアカード
- 4 GB以上のメモリーカードはSDHCメモリーカードのみ使用できます。
- SDHCロゴのない4 GB(以上)のメモリーカードは、SD規格に準拠していません。

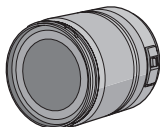
最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

- Four Thirds™ は商標です。
- SDHCロゴは商標です。
- miniSDロゴは商標です。
- microSDロゴは商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Windowsは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の登録商標または商標です。
- LEICA/ライカはライカマイクロシステムズIR GmbHの登録商標です。
- ELMAR/エルマーはライカカメラ社の登録商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

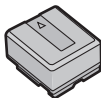
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

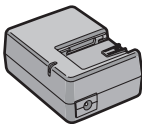
同梱品

デジタルカメラボディ
（本文中では**本体**と表記します）

交換レンズ
（LEICA D VARIO-ELMAR
14–50 mm/F3.8–5.6 ASPH./
MEGA O.I.S.）
（本文中では**レンズ**と表記します）

付属品をご確認ください。

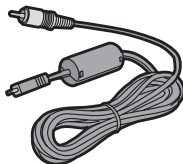
- **交換レンズ、レンズフード、レンズキャップ、レンズリアキャップ、レンズ収納袋は DMC-L10K（キット商品）をお買い上げの場合に同梱されています。**
- 記載の品番は 2007 年 10 月現在のものです。
- 付属品をなくされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P178 ～ 180）にお問い合わせください。

□

バッテリーパック
DMW-BLA13
（本文中では**バッテリー**と表記します）

□

バッテリーチャージャー / AC アダプター
DE-A38E
（本文中では**チャージャー**と表記します）

□

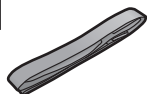
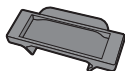
電源コード
K2CA2CA00019

□

ビデオケーブル
K1HA08CD0018

□

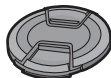
USB 接続ケーブル
K1HA08CD0016

□

CD-ROM

□
ストラップ
VFC4268

□
アイピースキャップ
VGQ8990
（お買い上げ時はストラップに装着されています）

□
ボディキャップ
VKF4091
（お買い上げ時はデジタルカメラボディに装着されています）

□
レンズフード
VYC0972

□
マグニファイヤーアイカップ
VYC0973

□
レンズキャップ
VYF3160
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□
レンズリアキャップ
VFC4185
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□
レンズ収納袋
VFC4206

- **カードは別売です。**
- 別売品については142 ページを参照してください。
- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- **本書では DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. を用いて説明をしています。**

各部の名前

■ デジタルカメラボディ

ドライブモードレバー
- □ ：単写（P40）
- ⧉ ：連写（P82）
- ⧉ ：オートブラケット（P84）
- ◌ ：セルフタイマー（P86）

フラッシュ発光部（P74）

レンズロックピン

シャッターボタン（P40）

FILM MODE（フィルム モード）ボタン（P105、106 ）

ストラップ取付部（P20）

前ダイヤル（P46、47、50、58）

カード扉（P25）

DCケーブル扉（P147）

AF補助光ランプ（P120）
セルフタイマーランプ（P86）

レンズ取り外しボタン（P18）

ミラー

レンズ取り付けマーク（P17）

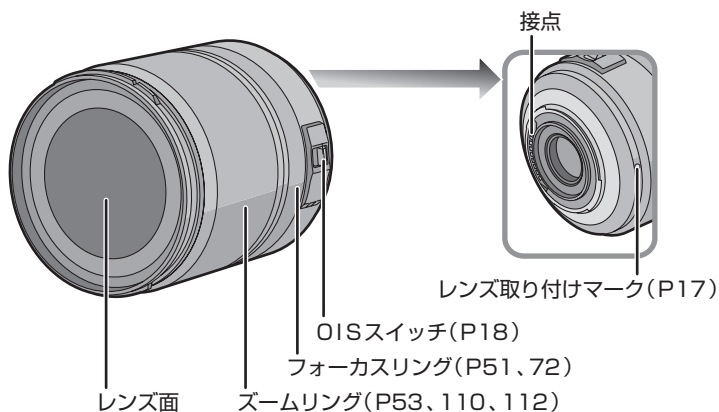
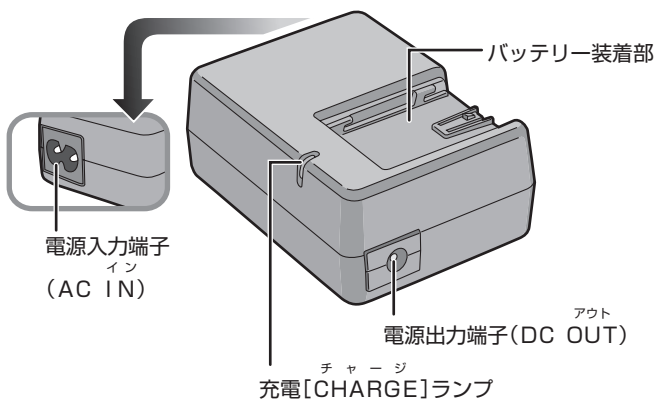
マウント

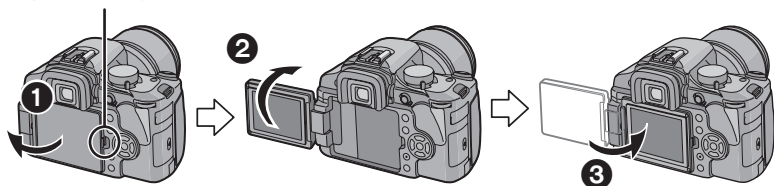
※三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。

つづく

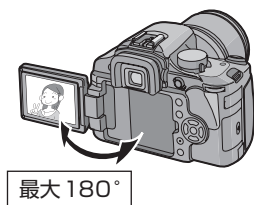
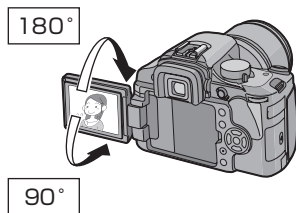
視度調整ダイヤル（P39）
ホットシュー（P143）
ファインダー（P36、38、151）
アイカップ（P21）
LIVE VIEW ボタン（P37、61）
フォーカスモードレバー（P40、44、51、67、69、72）
AFS
AFC
MF
AFL
AEL
AFL/AEL ボタン（P80）
モードダイヤル（P29）
電源スイッチ（P27）
電源表示ランプ（P27）
後ダイヤル
（P47、49、58、59、132）
再生ボタン（P54、56、58、59、60、141）
DISPLAY（P39、55、62）/LCD MODE（P64）ボタン
液晶モニター（P36、39、55、61、62、64、65、151）
FUNCボタン（P104）
削除ボタン（P56）
MENU/SET ボタン（P28）
DIGITAL
V. OUT
REMOTE
カーソルボタン
▲/ ISO（P91）
◀/AF モード（P69）
▶/測光モード（P94）
▼/WB（ホワイトバランス）（P88）
フラッシュOPENレバー（P74）
撮影距離基準マーク（P52）
DIGITAL/V. OUT端子（P134、137、141）
REMOTE端子（P146）
端子扉

■ 同梱レンズ

（LEICA D VARIO-ELMAR 14－50 mm/F3.8－5.6 ASPH./MEGA O.I.S.）

■ バッテリーチャージャー/ACアダプター（P22、147）

液晶モニターを回転させる

お買い上げ時、液晶モニターは収納状態になっています。
液晶モニターを下図のようにして液晶面を表にします。

❶ 液晶モニターオープンノブに指をかけて、液晶モニターを開く
（最大 180°開きます）
❷ レンズ方向に 180°回転させる
❸ 元の位置へ閉じる
- 液晶モニターの回転範囲については、下記をお読みください。

液晶モニターの回転範囲

■ 左右開き方向

■ 前後回転方向

- レンズ方向に 180° まで回転します。
- 手前に 90° まで回転します。

本機に使用可能なレンズ

本機は、DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 以外にフォーサーズ TM システムのレンズマウント規格に準拠した専用レンズ（フォーサーズマウント）を使うことができます。
撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
専用レンズ以外では、オートフォーカスや正確な測光はできません。
また、働かない機能があります。

■ フォーサーズマウント

フォーサーズシステムのレンズマウント規格のことです。デジタルカメラの特性に合わせて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

■ DMC-L10K(キット商品)に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 以外を使用する場合

- レンズの種類によってコントラストAF（P67）、縦位置検出機能（P38）、OISモード（P109）などの使用できない機能があります。
- お使いのレンズの絞り値によって、フラッシュ撮影可能範囲などが異なります。
- 撮影の前にお使いのレンズでためし撮りをして確認してください。
- コントラスト AF（P67）に対応していないレンズをお使いの場合は、カスタムメニューの [LIVE VIEW時 AF]（P120）をコントラスト AF［ ］（P67）に設定していても、自動で位相差 AF[ ]（P68）に切り換わります。
  対応レンズについては、下記を確認してください。

■ コントラスト AF/ 縦位置検出機能に対応しているレンズ

（2007 年 10 月現在）

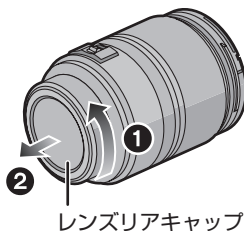
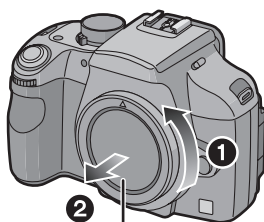
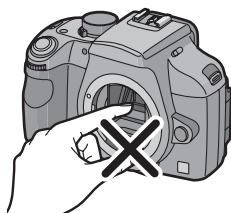
> 対応レンズは L-RS014050（DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S.）および L-RS014150（2007 年 11 月発売予定）です。
> 最新の情報は、カタログ / ホームページなどをご覧ください。
> http://panasonic.jp/support/dsc/

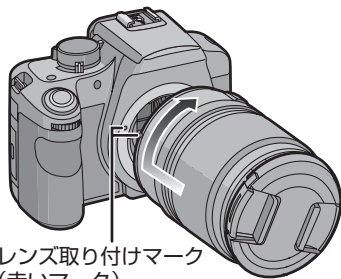
レンズを付ける・取り外す

つづく

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

■ 本体にレンズを付ける場合

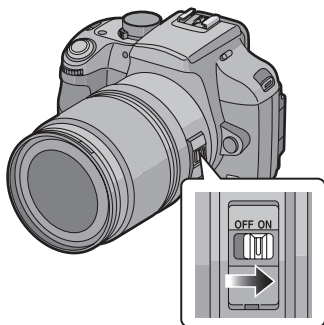
1 レンズリアキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外す

- ミラー内に指を入れないでください。

2 本体とレンズのレンズ取り付けマーク（赤いマーク）を合わせて、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す

- レンズを付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズを本体に対して傾いた状態で付けようとすると、本体のレンズ取付部を傷つける恐れがありますのでお気をつけください。
- レンズが正しく付いていることを確認してください。

3 レンズキャップを外す

■ 手ブレを補正するために

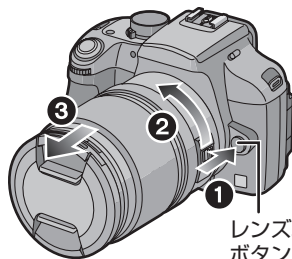
DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. には、手ブレ補正機能があります。
本体にレンズを付けたときに、手ブレ補正機能が働くように設定します。

レンズの OIS スイッチを [ON] にする

- 撮影メニューの[OISモード]で、手ブレ補正のモードを [MODE1]、[MODE2] または [MODE3] に切り換えることができます。（P109）お買い上げ時は、[MODE1] に設定されています。
- 三脚を使用するときは、OISスイッチを [OFF] に設定することをおすすめします。[OFF] に設定すると、液晶モニターに [ ] が表示されます。

■ 本体からレンズを取り外す場合

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。

1 レンズキャップを付ける

2 レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して外す

- 本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、必ずボディキャップを付けてください。
- レンズの接点を傷つけないように、必ずレンズリアキャップを付けてください。

お知らせ

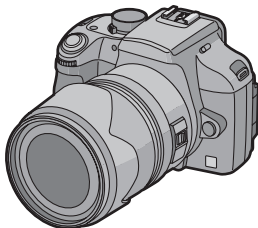
- レンズの交換は、ごみやほこりの少ない場所で行ってください。
- 電源を [OFF] にしているときや持ち運びするときは、レンズ面の保護のため、レンズキャップを付けてください。
- レンズキャップを外して撮影してください。
- **ボディキャップ、レンズキャップ、レンズリアキャップの紛失にお気をつけください。**

レンズフードを付ける

日差しの強い中、逆光時にゴーストやフレアを軽減します。余分な光をさえぎり、より美しく撮れます。

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

レンズフードの短いほうを上下にしてレンズに挿入し、矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す

2 レンズフードの向きを逆にし、左記と同じ操作でレンズフードを付ける

- レンズキャップを付けてください。
- 仮収納時は、確実にレンズフードが付いていることを確認して、画像にレンズフードが映っていないことを確認してください。

■ 一時的にレンズフードを外して運ぶ場合（仮収納）

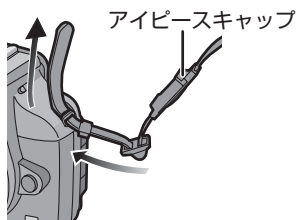
1 レンズフードを矢印の方向に回して取り外す

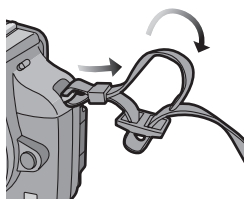
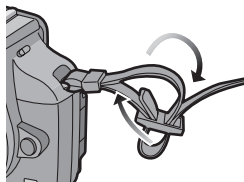
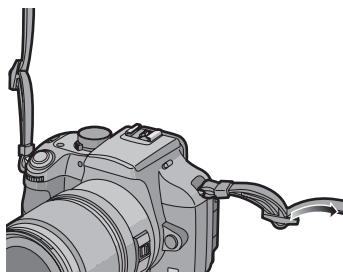
○○(お知らせ)○○

- レンズフードの付け外しは、レンズフードの短いほうを持って行ってください。
- フラッシュ使用時にレンズフードを付けていると、フラッシュ光がレンズフードにさえぎられ、画面の下が暗く（ケラレ）なり、調光もできなくなります。レンズフードを外して使用することをおすすめします。
- 暗いところでAF補助光を使用するときは、レンズフードを外してください。
- MCプロテクターとPLフィルターの取り付けかたについては 145 ページをお読みください。

準備

ストラップを付ける

1 ストラップを本体のストラップ取付部にとおす

- アイピースキャップが装着されているほうをファインダーに近くなるように付けてください。

2 矢印に従って、ストラップの端をリングにとおしたあと、止め具にとおす

3 ストラップの端を止め具のもう一方の穴にとおす

4 ストラップのもう一方を引いて、抜けないことを確認する

- 手順 **1** ～ **4** の操作を行って、もう片方のストラップも取り付けてください。

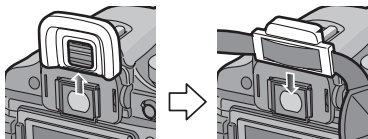
○○お知らせ○○

- ストラップは必ず手順に従って正しく取り付けてください。
- ストラップがしっかり付けられていることを確認してください。
- LUMIX のロゴが外側になるように付けてください。

アイピースキャップを付ける / マグニファイヤーアイカップを付ける

■ アイピースキャップを付けるときは

ファインダーから目を離して撮影する場合、ファインダーに光が入って正確な露出が得られないことやピントが合わなくなることがあります。
ライブビュー（P61）やセルフタイマー（P86）撮影時、またシャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）（P146）使用時など、ファインダーから目を離して撮影するときに、ファインダーに光が入らないようにアイピースキャップを付けます。

❶ アイカップを下からスライドさせて外す
❷ アイピースキャップを上からスライドさせる

- アイピースキャップはストラップに装着されています。

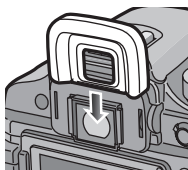
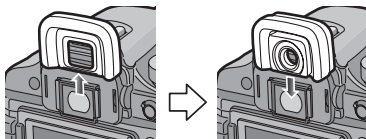
■ マグニファイヤーアイカップを付けるときは

ファインダー内の視野を約 1.2 倍に拡大して見ることができます。
マニュアルフォーカスや接写時にピントが合わせやすくなります。

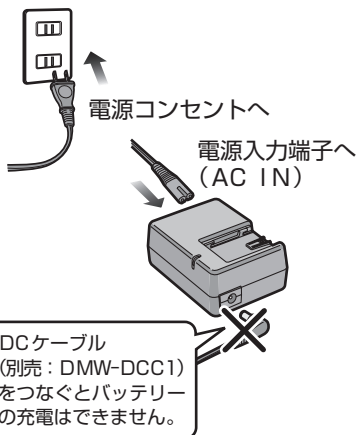
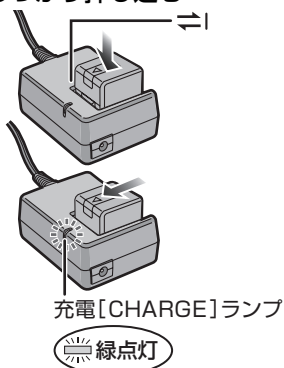
❶ アイカップを下からスライドさせて外す
❷ マグニファイヤーアイカップを上からスライドさせる

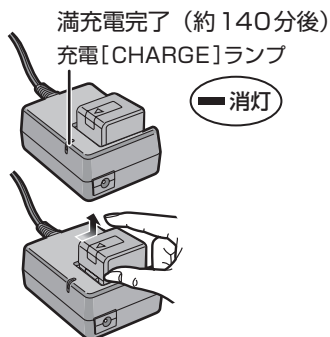
■ アイカップを付けるときは

アイカップを上からスライドさせてください。

〇〇お知らせ〇〇

- アイカップの紛失にお気をつけください。
- アイカップ（VYQ4130）をなくされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P178 ～ 180）にお問い合わせください。

バッテリーをチャージャーで充電する

- お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。

1 電源コードをつなぐ

2 バッテリーをチャージャーのマークに沿って水平に乗せ、しっかり押し込む

- 充電中は、充電 [CHARGE] ランプが緑色に点灯します。

3 充電が完了したら、バッテリーを取り外す

- 満充電完了後（約 140 分後）、充電 [CHARGE] ランプが消灯します。

お知らせ

- 充電完了後、電源コンセントから外してください。
- 使用後、充電中や充電後はバッテリーが温かくなります。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
- 充電完了後にバッテリーを長期間放置すると、バッテリーは消耗します。その場合は、再度充電し直してください。
- バッテリー残量を使い切らなくても、継ぎ足し充電することができます。
- **本機専用のチャージャーとバッテリーを使用してください。**
- **チャージャーは海外でも使うことができます。****(P148)**
- **チャージャーは屋内で使用してください。**

バッテリーについて（充電・記録可能枚数）

■ 残量表示について

残量表示が液晶モニターに表示されます。

表示が赤色に変わり点滅します。
（液晶モニターが消灯しているときは、電源表示ランプが点滅します）
バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。

[AC アダプター（P147）につないで使用するときは表示されません]

■ 電池寿命について

ファインダー使用時の撮影枚数
（条件はCIPA規格でプログラムAEモード時）

記録可能枚数	約 450 枚 （約 225 分相当）

CIPA 規格による撮影条件

- 温度23 ℃/湿度50%、液晶モニターを点灯※
- 当社製の SD メモリーカード（128 MB）使用
- 付属バッテリー使用
- DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ ASPH./MEGA O.I.S. 使用
- 電源を入れてから 30 秒経過後、撮影を開始（手ブレ補正 [MODE1] 使用）
- **30 秒間隔で 1 回撮影**、フラッシュを 2 回に 1 回フル発光
- １０枚撮影ごとに電源をいったん切る

※オートパワー LCD またはパワー LCD モード（P64）時は記録可能枚数が減少します。

- CIPAは、カメラ映像機器工業会（Camera & Imaging Products Association）の略称です。

記録可能枚数は撮影間隔によって変わります。撮影間隔が長くなると記録可能枚数は減少します。

- **例えば 2 分に 1 回撮影した場合は、約 120 枚に減少します。**

液晶モニター使用時（ライブビュー）の撮影枚数
（条件は左記 CIPA 規格と同じ）

記録可能枚数	約 280 枚 （約 140 分相当）

再生時間

再生時間	約 280 分

撮影枚数/再生時間はバッテリーの保存状態や使用条件によって多少変わります。

■ 充電について

充電時間	約 140 分

別売のバッテリーパック（DMW-BLA13）の充電時間と記録可能枚数は、付属のバッテリーパックの場合と同じです。

- 充電が始まると、充電 [CHARGE] ランプが点灯します。

■ 充電ランプが点滅するときは

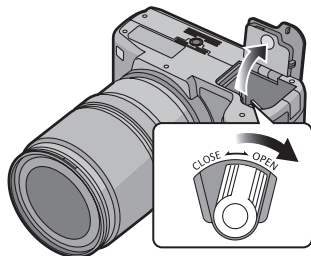
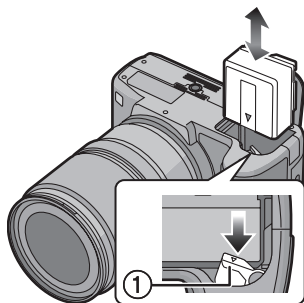
- 充電時にバッテリーが過放電（極端に放電した状態）しています。しばらくすると点灯し、通常の充電になります。
- バッテリーの温度が高すぎる、あるいは低すぎます。充電時間が通常よりも長くなります。または充電が完了しない場合があります。
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

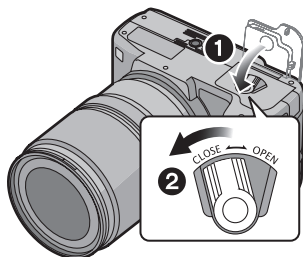
■ 充電する環境について

- 充電は周囲の温度が 10 ℃～35 ℃（バッテリーの温度も同様）のところで行ってください。
- スキー場などの低温下では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。
- バッテリーは、充電回数が増えると、使用時間が短くなり、膨らむ特性をもっています。長く使用するためには、頻繁な継ぎ足し充電を避けてお使いいただくことをおすすめします。

バッテリーを入れる・取り出す

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

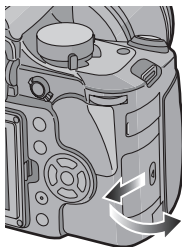
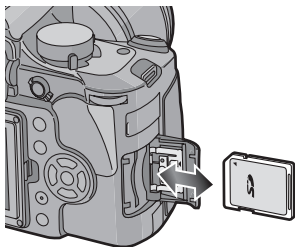
1 開閉レバーを矢印の方向(OPEN側)にスライドさせて、バッテリー扉を開く

2 バッテリーを入れるときは、カチッと音がするまで確実に入れる
取り出すときは①のレバーを矢印の方向に押して取り出す

- バッテリーを入れるときは、バッテリーの[▼]マークの向きに気をつけて入れてください。

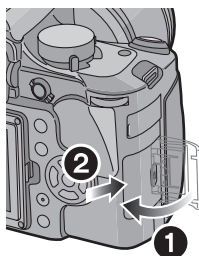
3 ❶バッテリー扉を閉じる
❷開閉レバーを矢印の方向(CLOSE側)にスライドさせて確実に閉じる

お知らせ

- 使用後は、バッテリーを取り出しておいてください。
- カードのデータが破壊される可能性がありますので、アクセス中はカードやバッテリーを取り出さないでください。(P26)
- カメラの設定が正しく保存されない可能性がありますので、電源を [ON] にしたままバッテリーを取り出さないでください。
- 付属のバッテリーは、本機専用です。
本機以外で使わないでください。
- 専用バッテリー(DMW-BLA13)をお使いください。

カード（別売）を入れる・取り出す

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。
- カード（別売）を用意する。

1 カード扉をスライドさせて開く

2 カードを入れるときは「カチッ」と音がし、ロックするまで奥まで入れる
取り出すときは「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く

- カードの向きを確認してください。
- カードの裏の接続端子部に触れないでください。
- カードを奥まで入れないと、カードが壊れる原因になることがあります。

3 ❶カード扉を閉じる
❷最後までスライドさせて確実に閉じる

- カード扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れ直してください。

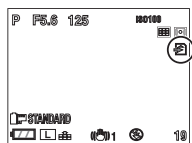
○○お知らせ○○

- **必ず電源を [OFF] にしてから、カード扉を開けてください。**
- **電源を [ON] にしたままカードを入れたり、取り出したりすると、カードやカードのデータが壊れる原因になることがあります。**
- **カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。**

カード（別売）について

■ カードアクセス中は･･･

カードに画像を記録しているときは、カードアクセス表示が点灯します。

ライブビュー撮影時

カードアクセス表示の点灯中、画像の読み出しや削除、カードのフォーマット（P35）中などは、以下のことをお守りください。

- 電源を [OFF] にしない
- バッテリーやカードを取り出さない
- 本機に振動や衝撃を与えない
- AC アダプター使用時（P147）は DC ケーブル（別売：DMW-DCC1）を抜かない

カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。

■ カード(別売)について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカードおよびマルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。使用できるカードについては 9 ページをお読みください。
- SDHC メモリーカードは 2006 年に SD アソシエーションにより策定された、2 GB を超える大容量メモリーカードの新規格です。
- SD メモリーカードおよび SDHC メモリーカードは記録 / 読み出し速度が速く、カードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備えています。（スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなり、戻すと可能になります）

SDメモリーカード

- 本機（SDHC 対応機器）は SD 規格に準拠した FAT12、FAT16 形式でフォーマットされた SD メモリーカード、および FAT32形式でフォーマットされたSDHC メモリーカードに対応しています。
- 本機は SD メモリーカード /SDHC メモリーカード両方に対応しています。SDHCメモリーカードはSDHCメモリーカード対応の機器で使用できますが、SD メモリーカードのみに対応した機器では使用することができません。（必ずお使いの機器の説明書をお読みください。お店にプリントを依頼する場合も、事前にお問い合わせください。）（P9）
- カードの記録可能枚数については 167 ページを参照してください。

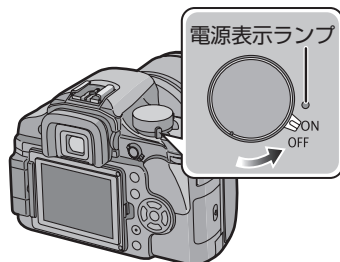
■ miniSDカード/microSDカード（別売）について

- miniSDカードやmicroSDカードを本機で使用する場合は、専用のアダプターを必ず装着してお使いください。
- アダプターのみを本機に挿入すると、正常に動作しません。
  必ず、カードを入れてお使いください。

◯◯お知らせ◯◯

- カードに記録されたデータは電磁波、静電気、本機やカードの故障などによりデータが壊れたり消失することがあります。大切なデータはパソコンなどに保存することをおすすめします。
- パソコンやその他の機器でフォーマットした場合、もう一度本機でフォーマットしてください。（P35）

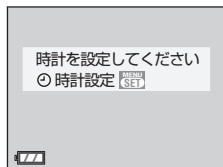
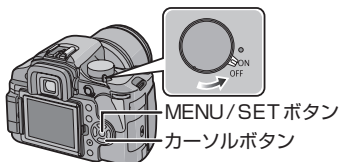
電源を入れる

電源スイッチを [ON] にする

- 電源を[ON]にすると電源表示ランプが点灯します。バッテリー残量が少なくなると、電源表示ランプは点滅します。
- 電源を[OFF]にすると電源が切れます。

ダストリダクション機能について
本機は、撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクション機能を備えています。
この機能は、電源を [ON] にすると自動的に働きます。

時計を設定する

■ **お買い上げ時は・・・**

時計設定はされていませんので、電源を [ON] にすると、下のような画面が表示されます。

1 [MENU/SET] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ で年月日、時刻、表示の順番を合わせせる

◀/▶：合わせたい項目（年・月・日・時・分・表示順）を選ぶ

▲/▼：年月日、時刻、表示順を設定する

- 表示順を変えると、以下のように表示されます。
  （例;2007年12月1日10時00分）
  [年/月/日]:2007.12.1 10:00
  [日/月/年]:10:00 1.DEC.2007
  [月/日/年]:10:00 DEC.1.2007

🗑：　時計を設定せずに中止する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも設定できます。

3 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

- 時計設定終了後、一度電源を [OFF] にしてからもう一度 [ON] にして、設定どおり表示されているか確認してください。

時計設定を変更する場合

❶ [MENU/SET] ボタンを押して、メニュー画面を表示する

❷ ▲/▼/◀/▶ でセットアップメニュー［🔧］の［時計設定］を選び、▶ を押す（P32）

❸ 手順**2**、**3**の操作で設定する

❹ [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

お知らせ

- 満充電されたバッテリーを挿入して約 24 時間経過すると、時計用の内蔵電池の充電が完了するため、バッテリーを取り出して放置しても、約3ヵ月は時計設定を記憶しています。(十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は、記憶時間は短くなることがあります)
  しかし、それ以上時間が経過すると設定が消えますので、もう一度時計設定をしてください。
- 年は2000年から2099年まで設定できます。時刻は 24 時間表示です。
- 時計設定を行っていないと、お店にプリントを依頼するときに、正しい日付をプリントすることができませんのでお気をつけください。(P128)
- 時計設定を行っていれば、カメラの画面上に日付が表示されていなくても、正しく日付をプリントできます。

モードダイヤルについて

電源を［ON］にしてモードダイヤルを回すと、目的に適した撮影ができるシーンモードなどに切り換えることができます。

モードダイヤルを切り換える

の部分に使用したいモードを合わせる

モードダイヤルはゆっくり回して確実に各モードに合わせてください。（モードダイヤルは360° 回転します）

基本

P プログラムAEモード P40
露出をカメラまかせで撮影します。

S シャッター優先AEモード P46
シャッタースピードを決めて撮影します。

A オートモード P44
初心者におすすめのモードです。

M マニュアル露出モード P47
絞り値とシャッタースピードを決めて撮影します。

A 絞り優先AEモード P46
絞り値を決めて撮影します。

応用

CUSTOM カスタムモード P96
あらかじめ登録しておいた設定で撮影します。
※本書では、CUSTOM カスタムモードを［C］と表しています。

SCN シーンモード P101
撮影シーンに合わせて撮影できます。

アドバンスシーンモード

人物モード P98
人物を撮影します。

スポーツモード P99
スポーツシーンを撮影します。

風景モード P98
風景を撮影します。

夜景&人物モード P100
夜景や夜景を背景にした人物を撮影します。

マクロモード P98
被写体に近づいて撮影します。

メニューを設定する

■ メニュー画面を表示するには

[MENU/SET] ボタンを押す

※カスタムメニューの[メニュー位置メモリー]（P121）を[ＯＮ]に設定していると、前回終了したメニュー項目を選択状態の画面になります。

■ メニューアイコンについて

撮影メニュー（P104）

再生メニュー（P122）

セットアップメニュー（P32）

カスタムメニュー（P118）

SCN シーンモードメニュー（P101）

モードダイヤルが[SCN]のときに表示されます。

C カスタムモードメニュー（P96）

モードダイヤルが[C]のときに表示されます。

C：モードダイヤルの CUSTOM を表しています。

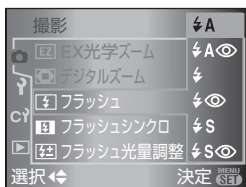
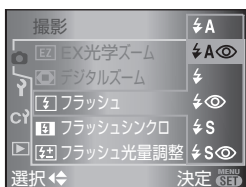
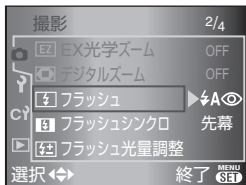
■ メニュー項目を設定する

- ここでは、プログラム AE モード [P] で、[フラッシュ] を設定する例で説明しています。

1 ▲/▼ でメニュー項目を選ぶ

ここで▼を押すと次の画面に切り換わります。

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

2 ▶ を押す

3 ▲/▼ で設定内容を選ぶ

4 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

■ メニュー画面を終了するには

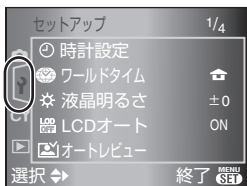
[MENU/SET] ボタンを押す

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

■ 他のメニューとの切り換え

（画面はセットアップメニューとの切り換え例）

1 メニュー画面で ◀ を押す

2 ▼ でセットアップメニュー [ ] を選ぶ

3 ▶ を押す

- 続けてメニュー項目を選んで設定してください。
- 他のメニューに切り換える場合は、上記手順 2 でそれぞれのメニューアイコンを選んでください。

準備

セットアップメニューを使う

- 必要に応じて設定してください。
- メニュー設定をお買い上げ時の状態に戻すには、[設定リセット] を実行してください。(P33)

MENU/SETを押してメニューを表示し、セットアップメニュー[ ]から各項目を選んでください。(P30)
▶ はお買い上げ時の設定です。
[時計設定]、[オートレビュー]、[パワーセーブ] は大切な項目です。
ご使用の前に設定を確認してください。

日付や時刻を変更する 時計設定 (P28)

日付や時刻を変更するときに設定します。

撮影画像を表示する オートレビュー

撮影後に撮影画像を表示させる時間を設定します。

レビュー： 画面全体の構図の確認に便利です。
- OFF
- 1 秒
- ▶ 2 秒
- 3 秒
- ホールド： 撮影画像が表示されたままになります。

ズーム： 撮影画像が4倍に拡大表示されます。ピントの確認に便利です。
連写、オートブラケット撮影時は、拡大表示されません。
- OFF
- 1 秒
- ▶ 2 秒
- 3 秒

○○お知らせ○○

- ズームを[OFF]に設定した場合、単写(P40)、セルフタイマー撮影（P86）時は、オートレビュー中に再生画面の表示切り換え（P55）などができます。
- [ホールド] に設定した場合、ズーム時間の設定は無効になります。
- [ホールド] に設定した場合、オートレビューを解除するには、シャッターボタンを半押ししてください。
- 連写 (P82)、オートブラケット撮影 (P84) 時は、オートレビューの設定にかかわらず、オートレビューされます。（拡大はされません）
- [ハイライト表示] (P34) を [ON] に設定していると、オートレビュー時に白とびの起こっている部分が黒と白の点滅で表示されます。

自動的に電源を切る パワーセーブ

設定した時間の間に何も操作しないと、パワーセーブモード（電源を自動的に切り、バッテリーの消耗を防ぐ）になります。

- OFF
- 1 分
- 2 分
- ▶ 5 分
- 10 分

○○お知らせ○○

- 解除するには、シャッターボタンを半押しするか、電源を [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。
- 以下の場合、パワーセーブは働きません。
  - ・AC アダプター使用時（P147）
  - ・パソコンまたはプリンター接続時
  - ・スライドショー中

つづく

ワールドタイム (P149)

お住まいの地域と海外などの旅行先の時刻を設定します。

: 旅行先の地域
▶ : お住まいの地域

液晶明るさ

液晶の明るさを 7 段階に調整できます。

LCD オート

[ON] に設定すると、ファインダー撮影時のシャッターボタン半押し中に、液晶モニターが消灯します。

OFF
▶ ON

電子音

フォーカス音、セルフタイマー作動音、警告音を設定します。

OFF
▶ ON

番号リセット

次に撮影される画像のファイル番号を 0001 にします。

○○お知らせ○○

- フォルダー番号が更新され、ファイル番号が 0001 から始まります。(P136)
- フォルダー番号は 100 ～ 999 まで作成されます。フォルダー番号が 999 になると番号リセットができなくなりますので、データをパソコンなどに保存してフォーマットすることをおすすめします。
- フォルダー番号を 100 にリセットするには、カードをフォーマット (P35) してから、番号リセットを実行し、ファイル番号をリセットしてください。そのあと、フォルダー番号のリセット画面が表示されますので、[はい] を選んでフォルダー番号をリセットしてください。

設定リセット

以下の設定をお買い上げ時の状態に戻します。

撮影設定 /
セットアップ / カスタム設定

○○お知らせ○○

- セットアップ設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。また、再生メニューの [お気に入り] (P124) は [OFF]、[回転表示] (P125) は [ON] になります。
  - ・シーンモードの [赤ちゃん] (P102)、[ペット] (P103) の誕生日設定
  - ・フィルムモード (P105)
  - ・ワールドタイム (P149) の設定内容
- フォルダー番号、時計の設定は変わりません。

準備

USB USB モード

USB 接続ケーブル（付属）を使って本機をパソコンやプリンターに接続する際に、USB 通信方式を設定します。（P134、137）

▶ **接続時に選択：**
パソコンまたはPictBridge対応プリンターに接続したときに、[PC]または[PictBridge (PTP)]のいずれかを選択します。

PC：
パソコンに接続する場合に設定します。

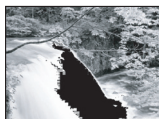
PictBridge (PTP)：
PictBridge対応プリンターに接続する場合に設定します。

○○お知らせ○○

- [PC] に設定すると､USB の Mass Storage（マス ストレージ）通信方式で接続されます。
- [PictBridge (PTP)] に設定すると、USB の PTP（Picture Transfer Protocol（ピクチャー トランスファー プロトコル））通信方式で接続されます。

HL ハイライト表示

▶ **OFF：** ハイライト表示しません。
ON： オートレビューまたは再生時に、白とびの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。

ハイライト表示[ON]

ハイライト表示[OFF]

- 白とびが起こっている場合は、ヒストグラム（P63）を参考に、露出をマイナス方向に補正して（P49）再度撮影することをおすすめします。
- フラッシュ撮影時、被写体からの距離が近すぎると白とびが起きる場合があります。このとき、ハイライト表示を[ON] に設定していると、フラッシュ光が当たったところが白とびとなって、黒と白の点滅で表示されます。

ビデオ出力

各国のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

▶ **NTSC：**日本やアメリカなど
PAL： ヨーロッパなど

○○お知らせ○○

- 再生モード時のみビデオ出力できます。

TV アスペクト (P141)

テレビの種類に合わせて設定します。

16:9： 画面が 16:9のテレビと接続時
▶ **4:3**： 画面が 4：3 のテレビと接続時

○○お知らせ○○

- ビデオ出力時のみ TV アスペクトの設定が有効です。

言語設定

画面表示の言語を設定します。

▶ **日本語**
ENGLISH

○○お知らせ○○

- 誤って英語に設定した場合は、メニューアイコンの [ ] を選び言語を設定してください。

Ver. バージョン表示

本体とレンズのファームウェアバージョンを確認できます。

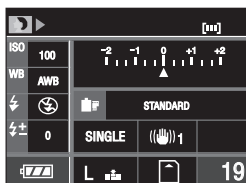
◯◯お知らせ◯◯

- レンズを取り付けていないときは、レンズファームウェアは [–.–] と表示されます。

SCN シーンメニュー (P97、101)

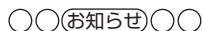
モードダイヤルを SCN、、、、、 に合わせたときに表示される画面を設定します。

OFF：	現在選択されているアドバンスシーンモードやシーンモードの撮影画面が表示されます。
▶ AUTO：	アドバンスシーンモードやシーンモードのメニュー画面が表示されます。

[OFF] 設定時

[AUTO] 設定時

フォーマット

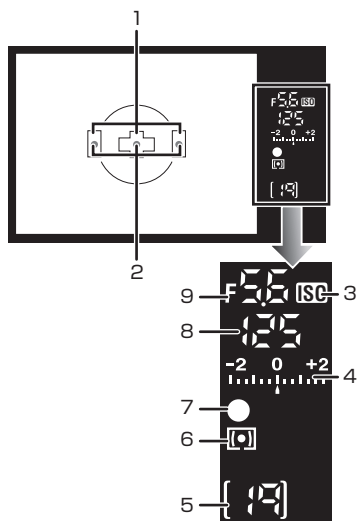
通常、カードはフォーマットする必要はありません。「メモリーカードエラー 」とメッセージが表示された場合などにフォーマットしてください。

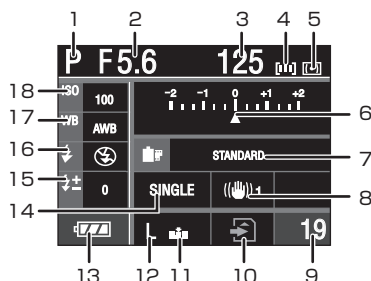
◯◯お知らせ◯◯

- プロテクトされた画像も含めてすべてのデータは一度フォーマットすると元に戻すことができません。よく確認してからフォーマットしてください。
- パソコンやその他の機器でフォーマットされた場合、もう一度本機でフォーマットしてください。
- フォーマットするときは、十分に充電されたバッテリー（P23）または AC アダプター（P147）を使用してください。
- フォーマット中は電源を [OFF] にしないでください。
- SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしているときは、フォーマットできません。
- フォーマットできないときはお買い上げの販売店へご連絡ください。

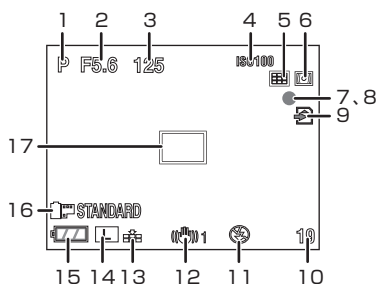
準備

ファインダー / ライブビューの表示と切り換え

■ プログラム AE モード [P] 時の画面表示(お買い上げ時)(P38)

ファインダー表示

1 AF フレーム(P39、40、41)
2 AF-LED(P120)
3 ISO 感度(P91)
ISOがAUTO以外のときに点灯します。
4 露出補正値(P49)
5 記録可能枚数
ファインダーには 99 枚までしか表示されません。
6 測光モード(P40、94)
7 フォーカス(P40)
8 シャッタースピード(P40、46、47)
9 絞り値(P40、46、47)

液晶モニターの情報表示
(ファインダー撮影時)

1 撮影モード(P29)
2 絞り値(P46、47)
3 シャッタースピード(P46、47)
4 AF フレーム設定(P41)
5 測光モード(P94)
6 露出補正(P49)
7 フィルムモード(P105)
8 手ブレ補正(P18、109)
9 記録可能枚数
10 カードアクセス(P26)
11 クオリティ(P107)
12 記録画素数(P107)
13 バッテリー残量(P23)
14 単写 (P40):SINGLE
15 フラッシュ光量調整(P78)
16 フラッシュ設定(P74)
17 ホワイトバランス(P88)
18 ISO 感度(P91)

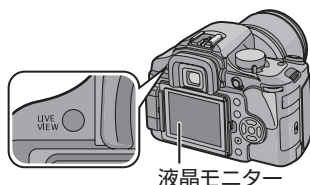
■ ライブビュー時の液晶モニター表示（P61）

1 撮影モード（P29）
2 絞り値（P67）
3 シャッタースピード（P67）
4 ISO 感度（P91）
5 AF モード（P69）
6 測光モード（P94）
7 記録動作
　赤点滅します。
8 フォーカス（P67）
　緑点灯します。
9 カードアクセス（P26）
　赤点灯します。
10 記録可能枚数
11 フラッシュ設定（P74）
12 手ブレ補正（P18、109）
13 クオリティ（P107）
14 記録画素数（P107）
15 バッテリー残量（P23）
16 フィルムモード（P105）
17 AF エリア（P67、69）

お知らせ

- その他の画面表示については、151 ページをお読みください。

■ 画面表示の切り換え

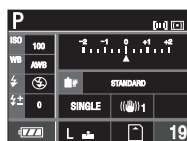
[LIVE VIEW] ボタンを押して、画面表示を切り換えることができます。
画面表示を切り換えることによって、被写体をファインダーに写して撮影したり、液晶モニターに写して撮影することができます。

液晶モニター

詳しくは、「ファインダーで撮影する」（P38）、「ライブビューで撮影する」（P61）をお読みください。

準備

ファインダーで撮影する

被写体をファインダーに写して撮影することができます。

ライブビューで撮影していた場合は、[LIVE VIEW] ボタンを押してファインダー撮影画面に切り換える

ファインダー時の本機の構えかた

- 両手で本機を軽く持ち、脇を締め足を開いて構えてください。
- 撮影時には、足場が安定していることを確認し、ボールや競技者などと衝突する恐れがある場所では周囲に十分お気をつけください。
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。

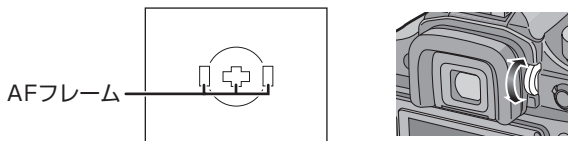
縦に構える場合

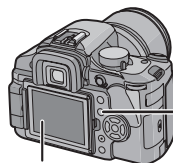
■ 縦位置検出機能について

本機を縦に構えて撮影した画像を、再生時に自動で縦向きに表示することができる機能です。（[回転表示]（P125）を [ON] に設定している場合のみ）

- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、画像を縦向きに表示できない場合があります。
- 縦位置検出機能は、対応したレンズ（P16）を使用しているときのみ使えます。（対応レンズについては、カタログ / ホームページなどをご覧ください）

ファインダーを見やすくする（視度調整）

明るい場所でファインダーをのぞき、AF フレームの線がはっきり見えるところまで視度調整ダイヤルを回して調整する

液晶モニターの情報画面を切り換える

[DISPLAY] ボタンを押して切り換える

● 液晶モニターを見ながら撮影することもできます。（ライブビュー）詳しくは、61 ページをお読みください。

液晶モニターの画面を見やすくする

[LCD MODE] ボタンを 1 秒間押し、▲/▼ でモードを選ぶと液晶モニターの画面を見やすくすることができます

○○お知らせ○○

● 詳しくは、64 ページをお読みください。

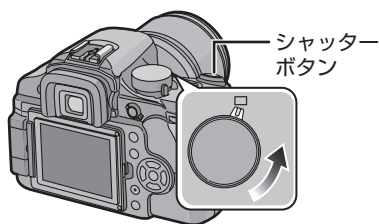
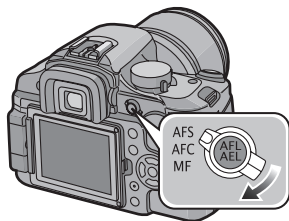
自動でピントと露出を合わせて撮る
（AF：オートフォーカス / プログラム AE モード [P]）

モードダイヤルを P に合わせてください。

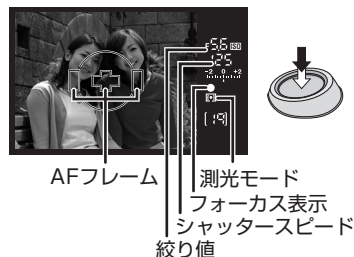
被写体の明るさに応じて、絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に設定します。

AF：「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能です。
　　ファインダー撮影時は、位相差 AF になります。

AE：「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能です。

- レンズキャップを外す。
- 電源を [ON] にする。（P27）
- ドライブモードレバーを ［□］ に合わせる。

1 フォーカスモードレバーを [AFS] に合わせる

- AFS とは「Auto Focus Single」の略で、シャッターボタンを半押しすると、ピントが固定される機能です。

2 ピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しする

ファインダー表示

- 絞り値とシャッタースピードを確認できます。
- ピントが合うと、フォーカス音が鳴り、フォーカス表示が点灯します。
- ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
- ピントが合いにくい被写体については、43 ページをお読みください。

つづく

- ピントは、AF フレームの左、中央、右の 3 点いずれかに合わせ、ピントが合った場所にランプ（AF-LED 表示）が点灯します。AF-LED 表示は、カスタムメニューで設定を変更することができます。（P120）
- プログラムシフトについては42 ページをお読みください。
- **ピントの合う範囲は、0.29 m ～∞［DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8– 5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着時］です。**
- シャッタースピードは、[ISO100]、開放絞り値F3.8［DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着時］の場合、約 15 秒～ 1/4000 秒の間で自動的に設定されます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- ピントが合うまで、撮影できません。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの［フォーカス優先］を [OFF] に設定してください。（P119）

お知らせ

- 撮影前に、時計設定を確認することをおすすめします。（P28）
- パワーセーブの時間が設定されているとき（P32）は、設定された時間内に本機の操作をしないと自動的に電源が切れます。再び本機の操作をするときは、シャッターボタンを半押しするか、電源を [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。

■ 位相差 AF の AF フレームを設定するには

ファインダー撮影時に ◀ を押すと、AF フレーム設定画面になります。
◀/▶ を押すと、AF フレームの設定を［AUTO］（左、中央、右の 3 点いずれか）、［左固定］、［中央固定］、［右固定］から選択することができます。

- AUTO を選択すると、カメラが自動的に判断した位置にピントが合うので、ピントが合う位置は決まっていません。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、AUTO 以外を選択してください。

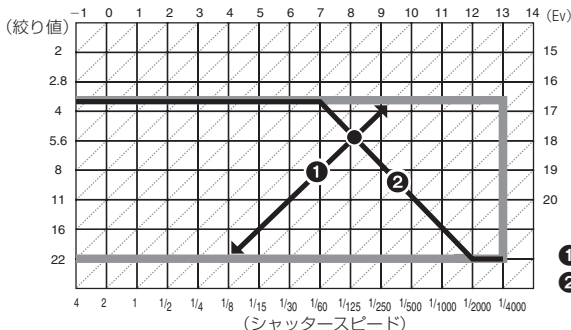
■ プログラムシフトについて

プログラム AE で本機が自動的に設定した絞り値とシャッタースピードの組み合わせを、同じ露出のままで変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
プログラム AE での撮影時に、より背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）、動きを表現したい（シャッタースピードを遅くする）などの設定が可能です。

- シャッターボタンを半押しして、ファインダーに絞り値とシャッタースピードの数値が表示されている間に（約 10 秒間）、前ダイヤルを回してプログラムシフトしてください。

ファインダー表示

- プログラムシフトされている場合は、画面にプログラムシフト表示が出ます。
- プログラムシフトを解除するには、電源を [OFF] にするか、プログラムシフト表示が消えるまで、前ダイヤルを回してください。

<同梱レンズ使用時のプログラムシフトの例>

❶プログラムシフト量
❷プログラム線図

◯◯(お知らせ)◯◯

- カスタムメニューの［前後ダイヤル設定］（P119）でダイヤルの操作方法を変更できます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出でない場合は、液晶モニター（情報表示画面）の絞り値とシャッタースピードが赤色で表示されます。ファインダー内の絞り値とシャッタースピードの表示は点滅します。（フラッシュ発光時は除く）
- プログラムシフトが有効になってから、10 秒以上経過すると、プログラムシフト設定可能な状態は解除され通常のプログラム AE に戻りますが、プログラムシフトされた設定は維持されています。
- 被写体の明るさによっては、プログラムシフトできない場合があります。

つづく

上手に撮影するために

■ ピントについて

- **オートフォーカスでピントが合う範囲は0.29 m～∞［DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S.装着時］です。**
- 撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示が点灯していてもピントが合っていない場合があります。
- 以下のような場合はピントがうまく合いません。
  - ・遠くと近くのものを同時に撮る
  - ・汚れたガラスの向こうのものを撮る
  - ・キラキラと光るものが周りにある
  - ・暗い場所を撮る
  - ・動きの速いものを撮る
  - ・コントラスト（濃淡）の低いものを撮る
  - ・手ブレしている
  - ・高輝度（非常に明るいもの）を撮る
  - ・ビルの窓など、連続した繰り返しのパターンのものを撮る

  AF/AE ロック（P80）を使って撮影することをおすすめします。暗い場所では、ピント合わせのために AF 補助光（P120）が点灯します。
- フォーカス表示が出てピントが合っても、シャッターボタンを離すとピントが解除されます。もう一度半押ししてピントを合わせてください。

■ 手ブレを防ぐために

- シャッターボタンを押し込む際の手ブレにお気をつけください。
- 三脚の使用をおすすめします。または撮る姿勢（P38）にお気をつけください。三脚使用時にはセルフタイマー（P86）またはシャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）（P146）を使うと、シャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐことができます。
- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をおすすめします。
  - ・スローシンクロ（P75）
  - ・赤目軽減スローシンクロ（P75）
  - ・夜景 & 人物モード（P100）
  - ・シャッタースピードを遅くしたとき（P46、47）

■ 露出について

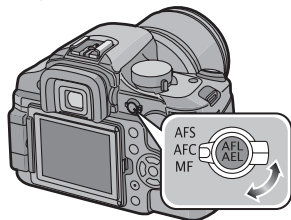
- セットアップメニューの［LCD オート］を［OFF］に設定すると、適正露出にならない場合にシャッターボタンを半押ししたときに、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。ファインダー内の絞り値とシャッタースピードの表示は点滅します。（フラッシュ発光時は除く）

- 晴天や雪など、明るい被写体が画像の大半を占めると、暗く撮影される場合があります。その場合は、露出をプラス方向に補正してください。（P49）

動きに合わせて連続的にピントを合わせる(AFC)（ファインダー撮影時のみ）

シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きに合わせて常にピント合わせを行うので、構図が決めやすくなります。
動いている被写体を撮影する場合は、予測してピント合わせを行います。(動体予測)

- ファインダー撮影になっていることを確認してください。ライブビュー撮影時は、[LIVE VIEW] ボタンを押してファインダー撮影に切り換えてください。(P38)

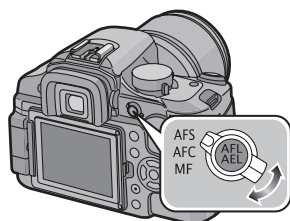
フォーカスモードレバーを[AFC]に合わせる

○○お知らせ○○

- AFC とは「Auto Focus Continuous」の略で、シャッターボタンを半押ししている間、被写体に合わせて常にピント合わせを行う機能です。
- ズームリングをW端からT端に回したり､急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまで時間がかかることがあります。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
- 連写時のピント合わせについては 83 ページをお読みください。
- ライブビュー撮影時は、フォーカスモードの [AFC] は働きません。
  フォーカスモードレバーを [AFC] に切り換えると､「AFS になります」とメッセージが表示され､フォーカスモードは [AFS] になります。

オートモードで撮る
（オートモード [A]）

モードダイヤルを A に合わせてください。

初心者でも簡単に撮影できます。必要な項目だけが表示されますので、迷うことがありません。

フォーカスモードレバーを [AFS] または [AFC] に切り換えてください。

■ 設定を変更する

[MENU/SET] ボタンを押して撮影メニュー、セットアップメニューまたはカスタムメニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

設定できる項目

メニュー	項目
撮影メニュー	画像アスペクト（P107）
	記録画素数（P107）
	クオリティ（P107）
	フラッシュ（P74）
セットアップメニュー	セットアップメニューを使う（P32 ~ 35）
カスタムメニュー	カスタムセット登録（P118）
	表示設定（P121）

■ オートモード時の設定内容

オートモード時は、その他の設定項目が次のように固定されます。詳しくは、それぞれのページをお読みください。

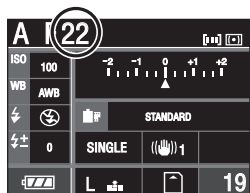
項目		設定内容
ISO 感度（P91）		AUTO
測光モード（P94）		評価測光
ホワイトバランス（P88）		AWB
AF モード（P69）		3 点（ファインダー撮影時）
		顔認識（ライブビュー撮影時）
フィルムモード（P105）		スタンダード
OIS モード（P109）		MODE1
EX 光学ズーム（P110）		OFF
デジタルズーム（P112）		OFF
フラッシュシンクロ（P79）		先幕
フラッシュ光量調整（P78）		0
連写速度（P82）		高速
オートブラケット（P84）	補正幅	1/3EV
	ブラケット順序	0/−/+
セルフタイマー（P86）		10 秒
ミラーアップ（P116）		ON
色空間（P117）		sRGB

項目	設定内容
長秒ノイズ除去（P117）	ON
AF/AE ロック切替（P118）	AE
AF/AE ロック維持（P118）	OFF
感度上限設定（P118）	OFF
フォーカス優先（P119）	ON
AF 補助光（P120）	ON
AF+MF（P120）	OFF
AF-LED 表示（P120）	ON
LIVE VIEW 時 AF（P120）	
メニュー位置メモリー（P121）	ON
レンズ無しレリーズ（P121）	OFF

絞り / シャッタースピードを決めて撮る
（絞り優先 AE モード [A]/ シャッター優先 AE モード [S]）

モードダイヤルを A に合わせてください。

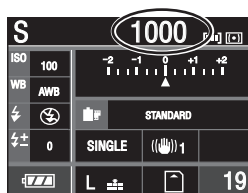
背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。

1 前ダイヤルを左右に回して絞り値を設定する

前ダイヤル

2 撮影する

モードダイヤルを S に合わせてください。

動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。

1 前ダイヤルを左右に回してシャッタースピードを設定する

前ダイヤル

2 撮影する

お知らせ

- カスタムメニューの［前後ダイヤル設定］（P119）でダイヤルの操作方法を変更できます。
- セットアップメニューの［LCD オート］を［OFF］に設定すると、適正露出にならない場合にシャッターボタンを半押ししたときに、液晶モニター（情報表示画面）の絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。ファインダー内の絞り値とシャッタースピードの表示は点滅します。（フラッシュ発光時は除く）
- 晴天や雪など、明るい被写体が画像の大半を占めると、暗く撮影される場合があります。その場合は、露出をプラス方向に補正してください。（P49）

絞り優先 AE モードの場合

- 絞りリングのあるレンズを使用するときは、絞りリングの位置を[A] にすると前ダイヤルの設定が有効になり、[A] 以外では絞りリングの設定が優先されます。

シャッター優先 AE モードの場合

- フラッシュ発光時は、シャッタースピードが 1/160 秒より速い設定はできません。（P77）
- シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚の使用をおすすめします。
- スローシンクロ [ ]、赤目軽減スローシンクロ [ ] の設定はできません。（P76）
- インテリジェント ISO の設定はできません。
- インテリジェントISOからシャッター優先AEモードに切り換えた場合、ISO感度は自動的に[AUTO] になります。

手動で露出を合わせて撮る(マニュアル露出モード[M])

つづく

モードダイヤルを M に合わせてください。

絞り値とシャッタースピードを手動で設定して露出を決定します。

1 前ダイヤル、後ダイヤルを左右に回して、絞り値とシャッタースピードを設定する

前ダイヤル

後ダイヤル

前ダイヤル	絞り値を設定します。
後ダイヤル	シャッタースピードを設定します。

2 シャッターボタンを半押しする

ファインダー表示

- 露出の状態の目安を示す、マニュアル露出アシストが約10秒間表示されます。
- 適正露出にならない場合は、絞り値とシャッタースピードの設定を確認してください。
- ファインダー撮影やライブビュー撮影時の液晶モニターでもマニュアル露出アシストを確認できます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

■ マニュアル露出アシストについて

-2 -1 0 +1 +2	適正露出になります。
-2 -1 0 +1 +2	シャッタースピードを速くするか、絞り値を大きくしてください。
-2 -1 0 +1 +2	シャッタースピードを遅くするか、絞り値を小さくしてください。

- マニュアル露出アシストは目安です。オートレビューで確認しながら撮影することをおすすめします。

基本

■ B(バルブ)について

シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、シャッターボタンを全押ししている間、シャッターが開いた状態になります。（最大約8分間）
シャッターボタンを離すと、シャッターが閉じます。
花火や夜景撮影などで、長時間シャッターを開けておきたいときに使います。

- シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、ファインダーに［bulb］、液晶モニターに［B］が表示されます。
- バルブ撮影時は、十分に充電されたバッテリー（P23）を使用してください。
- バルブ撮影時は、三脚やシャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては146ページをお読みください。
- バルブ撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、撮影メニューの［長秒ノイズ除去］を［ON］にして撮影することをおすすめします。（P117）
- マニュアル露出アシストは表示されません。

◯◯お知らせ◯◯

- カスタムメニューの［前後ダイヤル設定］（P119）でダイヤルの操作方法を変更できます。
- シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚の使用をおすすめします。
- セットアップメニューの［LCDオート］を［OFF］に設定すると、適正露出にならない場合にシャッターボタンを半押ししたときに、液晶モニター（情報表示画面）の絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。ファインダー内の絞り値とシャッタースピードの表示は点滅します。
- マニュアル露出のとき以下の設定はできません。
  - ・オート［⚡A］、赤目軽減オート［⚡A◎］、スローシンクロ［⚡S］、赤目軽減スローシンクロ［⚡S◎］
  - ・ISO感度のインテリジェントISOまたは［AUTO］（インテリジェントISOや［AUTO］からマニュアル露出に切り換えた場合は、自動的に［ISO100］になります）
  - ・露出補正
- 絞りリングのあるレンズを使用するときは、絞りリングの設定が優先されます。

露出を補正して撮る

モードダイヤル設定：P A S C SCN

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

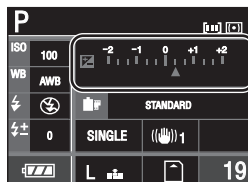
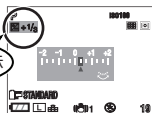
露出オーバー

露出をマイナス方向に補正してください。

適正露出

露出アンダー

露出をプラス方向に補正してください。

1 後ダイヤルを回して、露出を補正する

ファインダー表示　　ライブビュー撮影時

- −2 EV から +2 EV の範囲で 1/3 EV ごとに補正できます。
- 露出を補正しない場合は、“0” を選んでください。
- ファインダーには、[ ]と設定した露出補正値が表示されます。
- ライブビュー撮影時は、液晶モニターに露出補正値が表示されます。ライブビューについては、61 ページをお読みください。

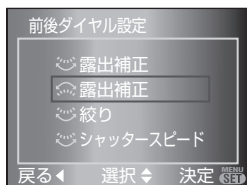
2 シャッターボタンを半押しして、設定を確定する

■ 前ダイヤルを使って露出を補正する場合

カスタムメニューの［前後ダイヤル設定］(P119) を［露出補正］にすると、前ダイヤルで露出を補正できます。
（お買い上げ時は［露出補正］に設定されています）

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ でカスタムメニュー［C］の［前後ダイヤル設定］を選び、▶ を押す

3 ▼ で［露出補正］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

● シャッターボタン半押しでも終了できます。

● 手順 1 ～ 4 の操作を行ったあと、前ダイヤルを回して露出を補正してください。

お知らせ

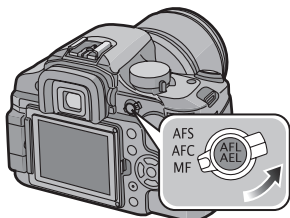
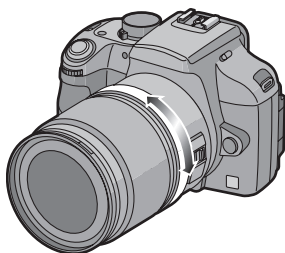
● EV とは「Exposure Value」の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化すると EV が変化します。
● 設定した露出補正量は、電源を [OFF] にしても記憶しています。
● 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。
● ダイヤルの誤操作にお気をつけください。
● 以下の場合、露出補正できません。
・マニュアル露出モード

手動でピントを合わせて撮る（MF: マニュアルフォーカス）

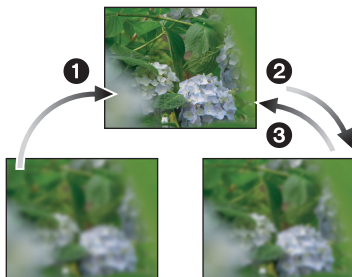
つづく

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

ピントを固定したい場合や、被写体との距離が固定されていて、オートフォーカスを働かせたくない場合などに使います。

1 フォーカスモードレバーを [MF] に合わせる

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる

- フォーカスリングを回してピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示が点灯します。ピントが合う位置は、AF フレームの中央に固定されます。

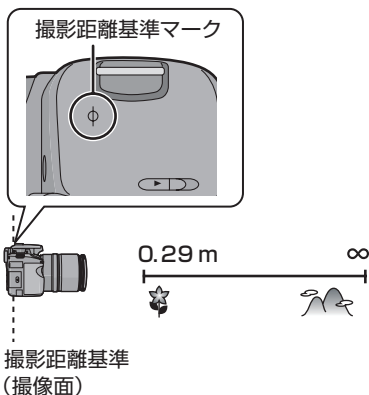
3 撮影する

■ マニュアルフォーカスのテクニック

❶ フォーカスリングを回す
❷ さらに少し回す
❸ ゆっくり戻しながら微調整する

〇〇お知らせ〇〇

- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- 電源を入れ直したときやパワーセーブ解除後は、必ずピントを合わせ直してください。

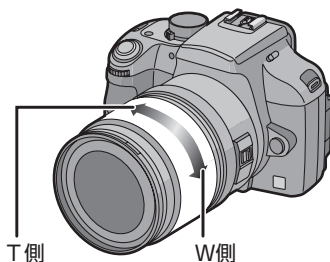
■ 撮影距離基準について
[DMC-L10K(キット商品)に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. の場合]

撮影距離基準マークは撮影距離の基準となるマークです。マニュアルフォーカスや接写の目安にしてください。

◯◯(お知らせ)◯◯

- 撮影可能範囲外で使用している場合は、フォーカス表示が点灯していても、ピントが合っていないことがあります。
- フラッシュで撮影できる範囲は、約2.0 m ～約 5.5 m です。(W 端、[ISO AUTO] 設定時) 近距離を撮影する場合は、フラッシュを発光禁止 [⚡︎] にすることをおすすめします。
- 近距離を撮影する場合は…
  - ・三脚を使用し、セルフタイマー(P86)を使って撮影することをおすすめします。
  - ・ピントの合っている範囲(被写界深度)が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
  - ・画像の周辺部の解像度が少し低下することがありますが、故障ではありません。

大きく（望遠）または広く（広角）撮る

モードダイヤル設定： P A S M C SCN

DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. では、14 mm ～ 50 mm までの範囲（35 mm フィルムカメラ換算：28 mm ～ 100 mm）で、人や物を大きく撮ったり（光学ズーム 3.6 倍まで）風景などを広角に撮ることができます。

■ 大きく（望遠）撮る

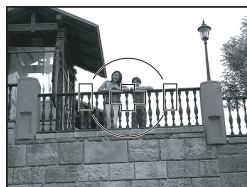
ズームリングを T 側へ回す

50 mm
（35 mmフィルムカメラ換算：100 mm）

3.6倍

■ 広く（広角）撮る

ズームリングを W 側へ回す

14 mm
（35 mmフィルムカメラ換算：28 mm）

1倍

○○お知らせ○○

- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。

基本

画像を見る

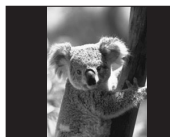
1 [▶] ボタンを押す

2 ◀/▶ または前ダイヤルで画像を選ぶ

前の画像へ　　次の画像へ

前ダイヤル　　前ダイヤル

◀ : 前の画像へ　　▶ : 次の画像へ

- 最後に撮影した画像の次は、最初の画像になります。
- [回転表示] を [ON] にしている場合、本機を縦に構えて撮影した画像は縦で再生されます。(P125)
  (縦位置検出機能 (P38) に対応したレンズ (P16) を使用しているときのみ使えます)

- ◀/▶ を押したままにすると、画像を連続して送ることができます。

■ 再生を終了するには

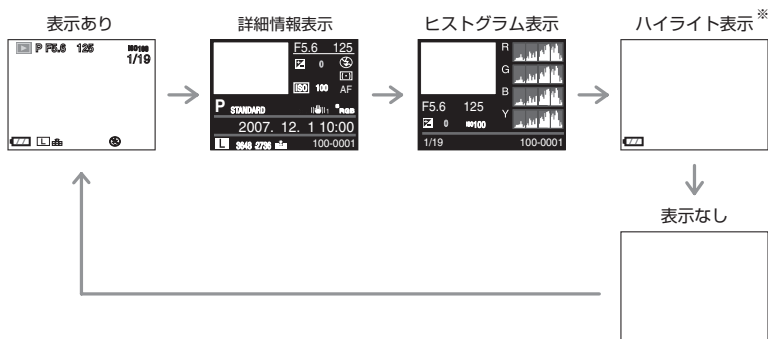
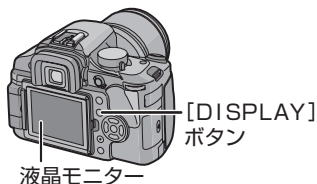
再度 [▶] ボタンを押すか、シャッターボタンを半押ししてください。

○○お知らせ○○

- 本機は (社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) にて制定された統一規格 DCF (Design rule for Camera File system)に準拠しています。
- 本機の液晶モニターでは、撮影画像の細部を表示できない場合があります。再生ズーム (P58) を使うことにより、画像の細部も確認できます。
- 他機で撮影された静止画を再生すると、再生される画像の画質が劣化して表示される場合があります。(画面上に「サムネイル表示」と表示されます)
- パソコンでフォルダー名やファイル名を変更すると再生できない場合があります。
- 規格外のファイルを再生したときは、フォルダー・ファイル番号が [—] で表示され、画面が黒くなる場合があります。

再生画面の表示情報を切り換える

[DISPLAY] ボタンを押して切り換える

● メニュー画面表示時は[DISPLAY]ボタンは働きません。再生ズーム時（P58）、スライドショー中（P123）は、表示ありと表示なしの切り換えになります。
● ヒストグラムについては 63 ページをお読みください。

※ セットアップメニューの［ハイライト表示］（P34）を［ON］にしているときのみ表示されます。

○○お知らせ○○
● 以下の場合、詳細情報表示、ヒストグラム表示およびハイライト表示は表示されません。
・再生ズーム時
・マルチ再生時
・カレンダー再生時

基本

画像を削除する

[▶] ボタンを押す

■ **1 枚削除**

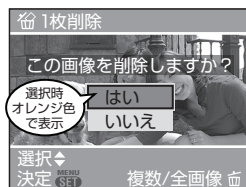
1 ◀/▶ または前ダイヤルで画像を選ぶ

前の画像へ　　次の画像へ

前ダイヤル　　前ダイヤル

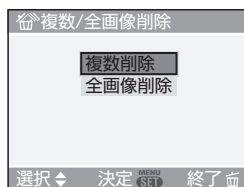
◀：前の画像へ　　▶：次の画像へ

2 [🗑] ボタンを押す

3 ▲ で［はい］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 画像削除中は、画面に [🗑] が表示されます。

■ **複数/全画像削除**

1 [🗑] ボタンを 2 回押す

2 ▲/▼ で［複数削除］または［全画像削除］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [複数削除] を選んだ場合は、57 ページ **3** から操作をしてください。
- [全画像削除］を選んだ場合は、57 ページ **5** から操作をしてください。
- [お気に入り](P124)を [ON] に設定しているときは、[★以外全削除] が表示されます。
  [★以外全削除］を選んだ場合は、57 ページ**5**から操作をしてください。（ただし、[お気に入り] を [ON] に設定していても、[★］の付いた画像が 1 枚もない場合は、[★以外全削除] を選択できません）

3 ◀/▶ で画像を選び、▼ で設定する（[複数削除] 選択時のみ）

- この手順を繰り返します。
- 設定した画像に [🗑] が表示されます。もう一度 ▼ を押すと設定が解除されます。
- プロテクトされていると、設定した画像の [🔑] アイコンが赤く点滅し、画像削除できません。プロテクト設定を解除してから削除してください。（P129）

4 [🗑] ボタンを押す

5 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

（[複数削除] 選択時の画面）

- [全画像削除]の場合、「メモリーカード上の全ての画像を削除しますか？」、[★以外全削除] の場合、[★以外の全ての画像を削除しますか？]とメッセージが表示されます。
- [全画像削除] または [★以外全削除] 中に [MENU/SET] ボタンを押すと、途中で削除が中止されます。

○○お知らせ○○

- 画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。
- 削除中は電源を [OFF] にしないでください。
- 削除するときは、十分に充電されたバッテリー(P23)または AC アダプター(P147）を使用してください。
- [複数削除] で一度に削除できるのは 50 枚までです。
- 枚数が多ければ多いほど、削除するのに時間がかかります。
- 以下の場合は、[全画像削除] または [★以外全削除] をしても削除されません。
  - ・SD メモリーカードまたは SDHC メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしている場合（P26）
  - ・DCF 規格外のファイル（P54）
  - ・プロテクト [🔑] された画像（P129）

基本

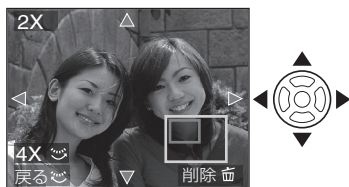
再生画面を拡大する（再生ズーム）

1 [▶] ボタンを押す

2 後ダイヤルを右側に回して画像を拡大する

1倍 ⇨ 2倍 ⇨ 4倍 ⇨ 8倍 ⇨ 16倍

- 拡大したあと、後ダイヤルを左側に回すと、倍率が小さくなります。右側に回すと大きくなります。
- 倍率を変えると、約 1 秒間ズーム位置表示が表示され、拡大部分の位置を確認することができます。

3 ▲/▼/◀/▶で位置を移動させる

- 表示する位置を移動させると、約1秒間ズーム位置表示が表示されます。

■ 再生ズームをやめるには

後ダイヤルを左側に回すか、[MENU/SET] ボタンを押してください。

■ 再生ズームのまま表示画像を切り換えるには

再生ズームのズーム倍率、ズーム位置を保持したまま表示画像を切り換えることができます。

再生ズーム中に、前ダイヤルを回して画像を送る

前の画像へ 前ダイヤル　次の画像へ 前ダイヤル

■ 再生ズーム中に画像を削除する

❶ [🗑] ボタンを押す
❷ ▲ で［はい］を選ぶ
❸ [MENU/SET] ボタンを押す

〇〇お知らせ〇〇

- 通常の再生で液晶モニターの表示を「表示なし」にしていても (P55)、再生ズーム時は、倍率や操作方法が表示されます。
  [DISPLAY] ボタンを押すと、表示ありと表示なしを切り換えることができます。1倍に戻すと、通常の再生での表示に戻ります。
- 再生ズームは、拡大するほど画像が粗くなります。
- 撮影した画像を拡大して保存したい場合は、トリミングを行ってください。(P132)
- 他機で撮影した画像は再生ズームできない場合があります。
- ズーム倍率とズーム位置は、電源が切れると（パワーセーブを含む）解除されます。
- 以下の画像は、ズーム位置が中央に戻ります。
  ・画像アスペクトが異なる画像
  ・記録画素数が異なる画像
  ・回転方向が異なる画像（[回転表示］を[ON] にしている場合）

複数の画像を一覧表示する（マルチ再生）

1 [▶] ボタンを押す

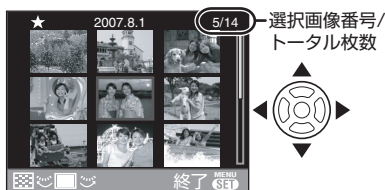
2 後ダイヤルを左側に回して画像を複数画面表示にする

（9 画面表示時の画面）

後ダイヤル

1 画面 ⇨ 9 画面 ⇨ 25 画面
⇨ カレンダー画面表示（P60）

● 複数画面表示にしたあと、後ダイヤルをさらに左側に回すと 25 画面表示、カレンダー画面表示（P60）になります。後ダイヤルを右側に回すと、一つ前の画面に戻ります。

3 ▲/▼/◀/▶ で画像を選ぶ

● 選択されている画像の撮影日、選択画像番号 / トータル枚数が表示されます。
● 撮影画像や設定によって、以下のアイコンが表示されます。
・お気に入り [★]
・シーンモードの［赤ちゃん][ ]、[ペット][ ]
● 前ダイヤルでも選択できます。

■ 25 画面表示の例

■ 1 画面表示に戻すには

後ダイヤルを右側に回すか、[MENU/SET] ボタンを押してください。

● オレンジ色の枠で表示された画像が1画面表示されます。

■ マルチ再生中に画像を削除する

❶ ▲/▼/◀/▶ で画像を選び､[🗑] ボタンを押す
❷ ▲ で［はい］を選ぶ
❸ [MENU/SET] ボタンを押す

○○お知らせ○○

● 通常の再生で液晶モニターの表示を「表示なし」にしていても（P55）、マルチ再生時は、撮影情報などが表示されます。1 画面に戻すと、通常の再生での表示に戻ります。
● [回転表示] を [ON] にしていても回転表示されません。（P125）

基本

画像を撮影日ごとに表示する（CAL：カレンダー再生）

カレンダー再生機能を使うと、撮影した日付ごとに画像を表示させることができます。

1 [▶] ボタンを押す

2 後ダイヤルを左側に回して、カレンダー画面表示にする

後ダイヤル

- はじめに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーは月単位で表示されます。

3 ▲/▼/◀/▶ で再生する日付を選ぶ

◀/▶ ：日を選択
▲/▼ ：月を選択

- 撮影した画像が1枚もない月は表示されません。

4 [MENU/SET]ボタンを押して、選択した日付に撮影された画像を表示する

- 選択した日付に撮影された画像が9画面で表示されます。
- カレンダー画面表示に戻すには、後ダイヤルを左側に回してください。

5 ▲/▼/◀/▶ で画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 選択された画像が 1 画面表示されます。

■ カレンダー再生を終了するには

カレンダー画面表示にしたあと、後ダイヤルを右側に回すと 25 画面表示、9画面表示（P59）、1 画面表示になります。

〇〇お知らせ〇〇

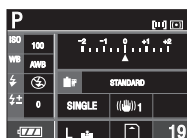
- [回転表示]を[ON]にしていても回転表示されません。（P125）
- カレンダーの表示できる範囲は、2000 年 1 月から 2099 年 12 月までです。
- マルチ再生の 25 画面表示で選んでいた画像が、2000 年 1 月から 2099 年 12 月以外に撮影された画像の場合、表示範囲内のもっとも古い日付に撮影された画像を選択します。
- パソコンや他機で加工した画像などは、実際の撮影日とは異なった表示になる場合があります。
- [時計設定]（P28）を行わずに撮影した場合、2007 年 1 月 1 日に表示されます。
- [ワールドタイム]（P149）で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

ライブビューで撮影する

つづく

被写体を液晶モニターに写して撮影することができます。これをライブビューといいます。
液晶モニターで構図を確認することができ、便利です。

[LIVE VIEW] ボタンを押してライブビュー撮影画面に切り換える

ファインダー撮影時

ライブビュー撮影時

■ ライブビュー撮影でできること

機能	効果
ガイドライン表示（P63）	被写体のバランスを見ながら、意図的な構図で撮影できます。
ヒストグラム表示（P63）	露出状況をグラフで表示できます。
LCD モード（P64）	液晶モニターの画面を通常よりも明るくするパワー LCD や、屋外などの明るい場所で自動的にパワー LCD が働くオートパワー LCD に設定できます。
AF モード設定（P69）	撮影状況や撮りたい構図に合わせてピントを合わせることができます。[LIVE VIEW 時 AF]（P120）を [▦] に設定している場合のみ、顔認識などを選択できます。
MF アシスト（P72）	ピントを合わせる部分を拡大できます。
画像アスペクト（P107）	ワイド感を演出した撮影ができます。
EX 光学ズーム（P110）	画質を劣化させずに拡大できます。
デジタルズーム（P112）	さらに高倍率で拡大できます。

◯◯お知らせ◯◯

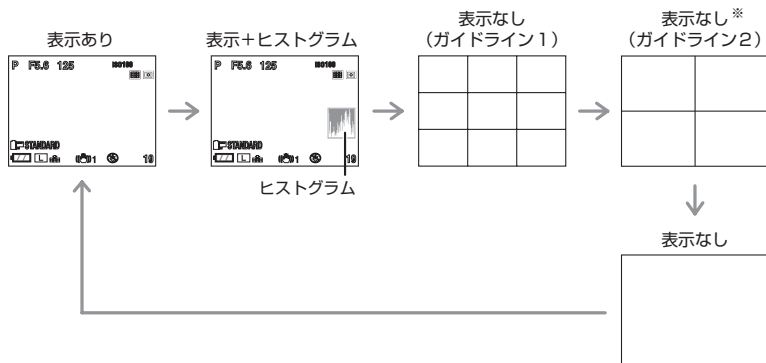
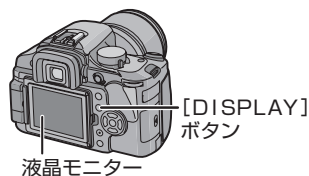
- ライブビュー撮影時の画面表示については、152 ページをお読みください。
- ライブビュー撮影時は、アイピースキャップを付けてください。（P21）
- ライブビュー撮影とファインダー撮影では、露出や色調が異なる場合があります。
- ライブビュー撮影時は、フォーカスモードの [AFC] は働きません。（P44）
  フォーカスモードレバーを [AFC] に切り換えると、「AFS になります」とメッセージが表示され、フォーカスモードは [AFS] になります。

ライブビュー時の本機の構えかた

- 両手で本機を軽く持ち、脇を締め足を開いて構えてください。
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。
- AF 補助光ランプを指などでふさがないでください。
- 太陽光などが液晶モニターに反射して画面が見にくい場合は、手などでさえぎってご使用いただくことをおすすめします。

液晶モニターの表示情報を切り換える

[DISPLAY] ボタンを押して切り換える

- メニュー画面表示時は [DISPLAY] ボタンは働きません。
- 液晶モニターに表示させる情報を設定することができます。（P121）

※ カスタムメニューの[表示設定]（P121）の[ガイドライン2]にあらかじめガイドラインの位置を設定しておくことができます。

つづく

■ ガイドライン表示について

被写体を縦横の交点上やライン上に配置すると、被写体の大きさや傾き、バランスを見ながら、意図的な構図で撮影することができます。

ガイドライン１

■ ヒストグラムについて

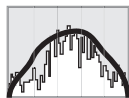
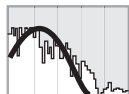
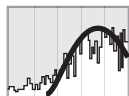
ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。
撮影した画像のヒストグラムの形状（グラフの分布）を見ることによって、その画像の露出状況を判断することができます。

❶ 中央を中心とした山になっている場合は、暗い部分、中間調、明るい部分がバランスよく分布し、撮影するのに適した画像となります。
❷ 極端に左に寄っている場合は、暗い部分が多すぎる露出アンダー気味の画像となります。夜景など黒いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。
❸ 極端に右に寄っている場合は、明るい部分が多すぎる露出オーバー気味の画像となります。白いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。

ヒストグラムの表示例

❶ 適正な明るさの画像

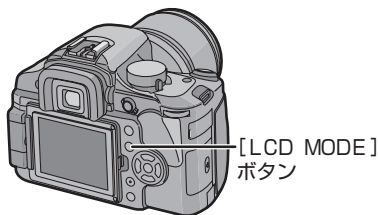
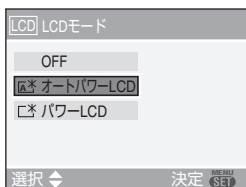
ヒストグラム

❷ 暗い画像

❸ 明るい画像

○○(お知らせ)○○

- **撮影画像とヒストグラムが以下の条件で一致しない場合はヒストグラムがオレンジ色で表示されます。**
  ・フラッシュが発光するとき
  ・フラッシュが閉じているとき
  　- 暗いところで、液晶モニターの明るさが正確に表示できないとき
  　- 適正露出にならないとき
- 撮影時のヒストグラムは目安です。
- パソコンの画像編集ソフトなどで表示されるヒストグラムとは一致しません。
- 白とびは、オートレビュー時のハイライト表示で確認してください。（P34）

液晶モニターの画面を見やすくする

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

1 [LCD MODE] ボタンを 1 秒間押す

2 ▲/▼ でモードを選ぶ

項目	設定内容
: オートパワーLCD	屋外などの明るい場所で、自動的にパワーLCD が働きます。パワーLCDが働くと[ ]から[ ]に変わります。
: パワーLCD	液晶モニターの画面が通常より明るくなり、屋外でも見やすくなります。
OFF	液晶モニターの画面を通常の明るさに戻します。

3 [MENU/SET] ボタンを押す

- アイコンが表示されます。

■ 設定を解除するには

[LCD MODE] ボタンを再度 1 秒間押したままにすると、手順 **2** の画面になります。設定を解除するときは [OFF] に設定してください。

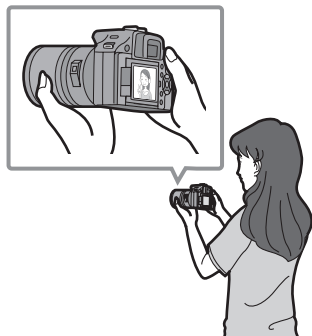
○○お知らせ○○

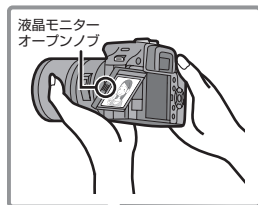
- オートパワーLCDまたはパワーLCDは、液晶モニターの画面に表示される画像の明るさを強調しています。被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。
- パワーLCD の液晶モニターの画面は、撮影時、30 秒間何も操作しないと、自動的に通常の明るさに戻ります。いずれかのボタンを押すと、再び明るく点灯します。
- 太陽光などが反射して画面が見にくい場合は、手などでさえぎってください。
- 以下の場合、オートパワーLCD は働きません。
  ・再生モード [▶]

つづく

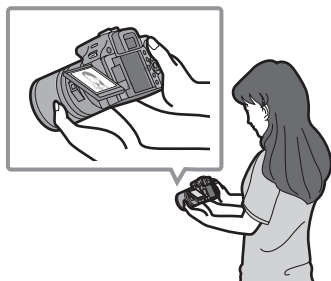
液晶モニターについて

ライブビュー撮影時は、液晶モニターの角度を調節することにより、さまざまなアングルからの撮影が可能になり便利です。

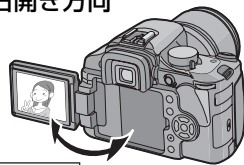
■ 通常撮影時

■ ハイアングル撮影時

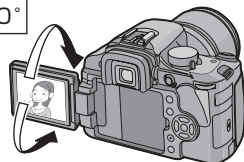
液晶モニターオープンノブに指をかけて手前に 180° 開き、角度を調節する

- 前に人がいて、被写体に近づけないときなどに便利です。

■ ローアングル撮影時

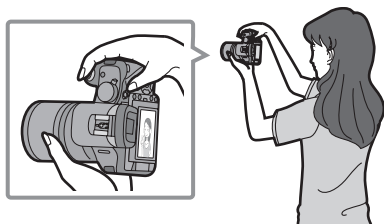
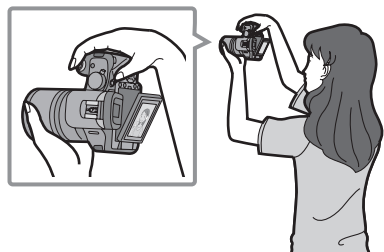
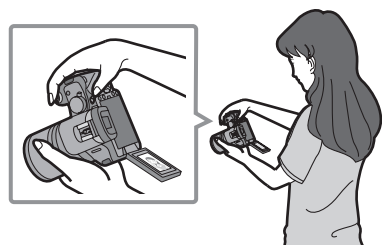
液晶モニターオープンノブに指をかけて手前に 180° 開き、角度を調節する

- 低い位置にある花などを撮影するときなどに便利です。

液晶モニターの回転範囲

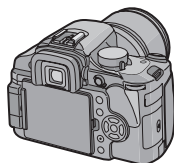
■ 左右開き方向

最大 180°

■ 前後回転方向

■ 縦撮影時

液晶モニターオープンノブに指をかけて開き、見やすい角度に回転させる。(最大 270° まで回転可能)

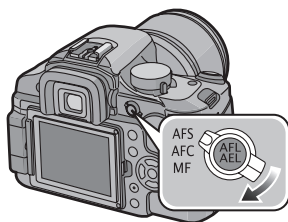
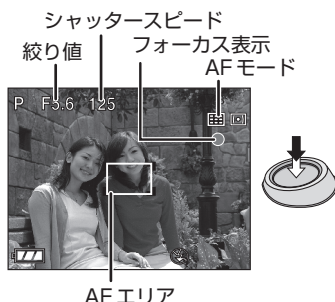
通常撮影時

ハイアングル撮影時

ローアングル撮影時

○○(お知らせ)○○

- **液晶モニターは十分開いてから回転させ、無理な力を加えないようお気をつけください。故障の原因になります。**
- 液晶モニターの周囲を持つと、液晶モニターにムラが発生しますが、故障ではありません。また、撮影画像や再生画像にも影響はありません。
- 液晶モニターを使用しないときは、汚れや傷防止のため液晶モニターを内側に収納しておくことをおすすめします。

つづく

ライブビュー時のオートフォーカス撮影

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、[LIVE VIEW 時AF]（P120）をコントラスト AF[ ] に設定している場合のみ、顔認識（P69）などの AF モードで撮影することができます。

1 フォーカスモードレバーを [AFS] に合わせる

2 ピントを合わせたい位置に画面を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うとフォーカス音が鳴り、フォーカス表示が点灯（緑）します。
- ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅（緑）します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
- ピントが合いにくい被写体については、43 ページをお読みください。
- 絞り値とシャッタースピードを確認できます。
- AF モードを 9 点、マルチ、3 点または顔認識に設定している場合は、ピントが合うまで AF エリアは表示されません。（P69）
- **ピントの合う範囲は、0.29 m ～∞［DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14– 50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着時］です。**

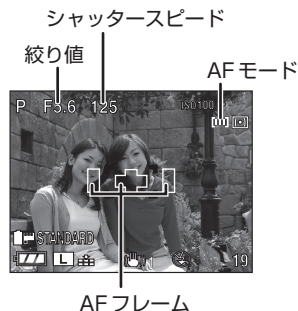
3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- ピントが合うまで、撮影されません。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの［フォーカス優先］を [OFF] に設定してください。（P119）
- 1 枚撮影するためにシャッター音が 2 回鳴ります。1 回目のシャッター音は、シャッターを初期状態の位置に戻すための音で、2 回目のシャッター音が実際に撮影されるときの音です。

◯◯お知らせ◯◯

- コントラスト AF (P67) に対応していないレンズをお使いの場合（P16）は、カスタムメニューの [LIVE VIEW 時 AF](P120) をコントラスト AF [ ]（P67）に設定していても、自動で位相差 AF[ ] に切り換わります。
- 適正露出にならない場合にシャッターボタンを半押しすると、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。(ただし、フラッシュ発光時は赤くなりません)
- 特に暗い場所での撮影は、液晶モニターの明るさと実際に撮影される画像が異なる場合があります。

■ 位相差 AF に切り換える

[MENU/SET] ボタンを押してカスタムメニューを表示し、[LIVE VIEW 時 AF]（P120）を［ ］に設定すると位相差 AF に設定することができます。

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために一度ミラーがダウンアップします。このとき、シャッター音が鳴りますが、記録はされていませんのでお気をつけください。

◯◯お知らせ◯◯

- シャッターボタンを一度に全押しして離すと、シャッター音が鳴りますが、記録はされていませんのでお気をつけください。
- ファインダー撮影時よりも、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間（レリーズタイムラグ）が長くなります。

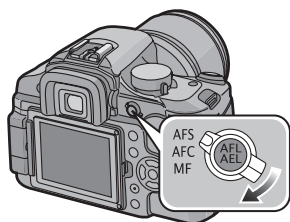
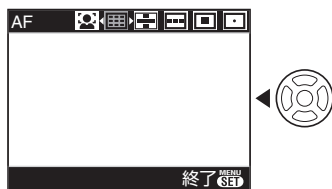
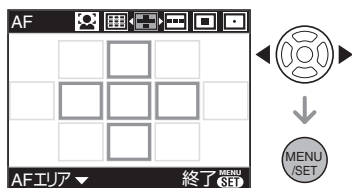
ライブビュー時の AF モード　ピントを合わせる方法を設定する

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

カスタムメニューの［LIVE VIEW 時 AF］（P120）を［ ］に設定していた場合は、［ ］に設定し直してください。
撮影状況や撮りたい構図に合わせて使い分けてください。

1 フォーカスモードレバーを [AFS] に合わせる

2 ◀( ) を押す

3 ◀/▶でAFモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押して終了する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。
- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

項目	効果
（顔認識）	人の顔を自動的に検知します。認識された顔がどの位置にあっても、顔にピントや露出を合わせることができます。
（9 点）	9 点いずれかでピントを合わせます。被写体が中央にない場合に有効です。
（マルチ）	選択したエリアのいずれかでピントを合わせます。被写体が中央にない場合に有効です。

項目	効果
(3 点)	左、中央、右の 3 点いずれかでピントを合わせます。被写体が中央にない場合に有効です。
(1 点)	画面中央のAFエリア内にピントを合わせます。
(スポット)	限られた狭い範囲内にピントを合わせることができます。

■ 顔認識について

撮影画面上にある顔の認識を行い、顔にピントを合わせます。記念撮影などの際、背景にピントが合ってしまうような失敗を防ぐのに有効です。

- カメラが顔を認識すると以下の色のAFエリア枠が表示されます。
  黄色： シャッターボタンを半押しした際、ピントが合うと緑色に変わります。
  白色： 複数の顔を認識すると表示されます。黄色の AF エリア枠内の顔と同じ距離にある顔にはピントが合います。
- 最大で 15 個の AF エリア枠が表示されます。
- 顔認識選択時、測光モードを評価測光 [ ] に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整します。
- 以下の場合、顔認識機能が働かず、顔が検知できないことがあります。その際、AF モードは 9 点に切り換わります。
  ・顔が正面を向いていないとき
  ・顔が傾いているとき
  ・顔が極端に明るいときや暗いとき
  ・顔の陰影が少ないとき
  ・サングラスなどで顔が隠れているとき
  ・画面上の顔が小さく写るとき
  ・動きが速いとき
  ・被写体が人物以外のとき
  ・手ブレしているとき
- デジタルズーム使用時は、顔認識機能が働きません。

○○お知らせ○○

- 暗い場所での撮影時またはデジタルズーム時は、通常よりも大きなAFエリアが表示されます。
- AF エリアが複数（最大 9 個）点灯した場合は、点灯したすべての AF エリアにピントが合っています。カメラが自動的に判断した位置にピントが合うので、ピントが合う位置は決まっていません。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、設定を 1 点またはスポットに切り換えてください。
- AF モードを 9 点、マルチ、3 点または顔認識に設定している場合は、ピントが合うまで AF エリアは表示されません。
- スポットでピントが合いにくいときは、1 点に切り換えてください。
- ライブビュー撮影時のオートモード [A] では、顔認識になります。
- 以下の場合、顔認識は設定できません。
  ・夜景 & 人物モードの [夜景]、[イルミネーション]
  ・シーンモードの [料理]
- コントラスト AF（P67）に対応していないレンズをお使いの場合（P16）は、カスタムメニューの [LIVE VIEW 時 AF]（P120）をコントラスト AF [ ]（P67）に設定していても、自動で位相差 AF[ ]（P68）に切り換わります。

つづく

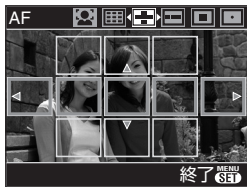
■ AF エリア選択について

マルチ、1 点、スポット選択時に AF エリアを選択することができます。

❶ フォーカスを [AFS] にする

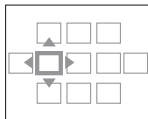
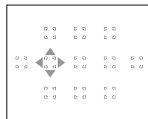
❷ ◀(▪▪▪) を押す

❸ ◀/▶ でAFモードを選び、▼を押す

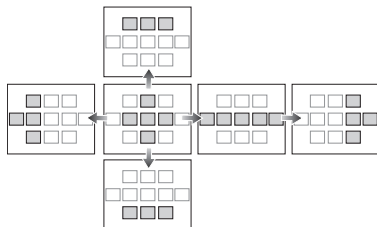
❹ ▲/▼/◀/▶ でAFエリアを移動する

❺ [MENU/SET]ボタンを押して終了する

1 点、スポット選択時

11 点の枠から AF エリアを 1 点選択することができます。

1点選択時

スポット選択時

- スポット測光のときは、測光ターゲットも AF エリアに合わせて移動します。

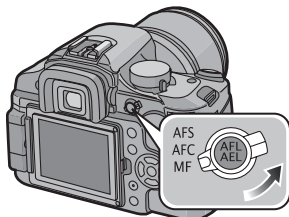
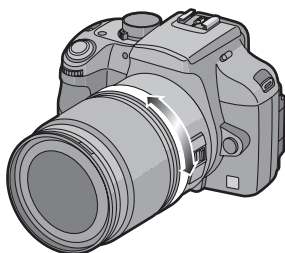
マルチ選択時

▲/▼/◀/▶ を押すと、下図のように AF エリア枠を選択することができます。

◯◯お知らせ◯◯

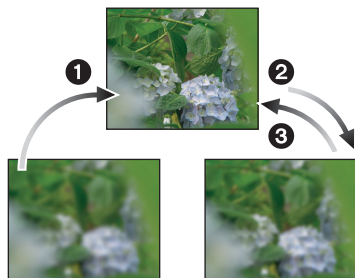
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも AF エリア枠を選択することができます。

ライブビュー時のマニュアルフォーカス撮影

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

1 フォーカスモードレバーを [MF] に合わせる

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる

● マニュアルフォーカス撮影に設定すると、液晶モニターに［MF◀］が約 5 秒間表示されます。

3 撮影する

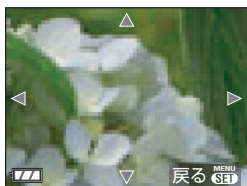
■ マニュアルフォーカスのテクニック

❶ フォーカスリングを回す
❷ さらに少し回す
❸ ゆっくり戻しながら微調整する

■ MF アシストについて

マニュアルフォーカス撮影時に、◀ を押したあと、[MENU/SET] ボタンを押すと、MF アシストの画面が約 8 倍に拡大表示され、ピントを合わせやすくなります。

1 ◀ でMFアシスト画面を表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で位置を移動する

3 [MENU/SET] ボタンを押して、MF アシスト画面を拡大する

- フォーカスリングを回してピントを合わせてください。
- ▲/▼/◀/▶ で拡大位置を移動させることができます。

4 [MENU/SET] ボタンを押して、MF アシストを終了する

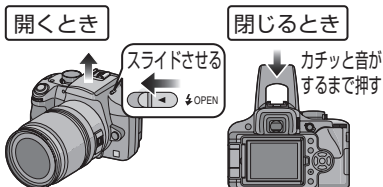
- 元の画面に戻ります。

○○お知らせ○○

- 以下のときは、MF アシストは消えます。
  - ・フォーカスリング、▲/▼/◀/▶ の操作を停止して、約 10 秒経過したとき
  - ・シャッターボタンを半押ししたとき
- MF アシストの拡大位置は、電源を入れ直すと中央の位置に戻ります。
- デジタルズーム使用時は、MF アシストは使えません。

内蔵フラッシュを使って撮る

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

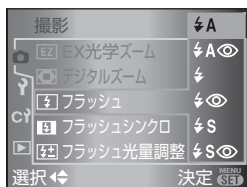
■ フラッシュを開く / 閉じる

- フラッシュの発光部分はきれいな状態にしておいてください。汚れた場合は、乾いた柔らかい布で軽くふいてください。
- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュが閉じているときは、発光禁止 [ ] に固定されます。

■ フラッシュ設定を切り換える

撮影内容に合わせて、内蔵フラッシュの発光のしかたを設定します。

1 [MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー［ ］の［フラッシュ］を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET］ボタンを押す

- 選択できるフラッシュ設定については、76 ページの「撮影モード別フラッシュ設定」をお読みください。
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 [MENU/SET］ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

○○お知らせ○○

- フラッシュを開くと、ファインダーには [ ] と表示されます。
- [FUNC] ボタンでも設定できます。（P104）

つづく

項目	設定内容
⚡A： **オート**	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。
⚡A◎： **赤目軽減オート**	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。人の瞳が赤く写る（赤目現象）のをおさえるため、フラッシュが予備発光し、そのあと撮影のために再び発光します。 ● **暗い場所で人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡： **強制発光**	フラッシュを強制的に発光させます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡◎： **赤目軽減強制発光**	フラッシュを強制的に発光させます。同時に赤目現象をおさえます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡S： **スローシンクロ**	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡S◎： **赤目軽減スローシンクロ**	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。同時に赤目現象をおさえます。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**

項目	設定内容
⊘： **発光禁止**	フラッシュが閉じているときは、発光禁止［⊘］に固定されます。 どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● **フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。**

※フラッシュは 2 回発光します。特に赤目軽減オート［⚡A◎］、赤目軽減強制発光［⚡◎］、赤目軽減スローシンクロ［⚡S◎］に設定した場合は、間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって異なります。
(○：設定可、×：設定不可、◎：初期設定)

	⚡A	⚡A◉	⚡	⚡◉	⚡S	⚡S◉	⊘
A	◎	○	○	×	×	×	○
P	◎	○	○	○	○	○	○
A	◎	○	○	○	○	○	○
S	◎	○	○	○	×	×	○
M	×	×	◎	○	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	○	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	○	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	×	×	×	×	×	◎	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	◎	×	○	×	×	×	○
1	○	◎	○	×	×	×	○
2	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○

- [後幕]設定時は、赤目軽減オート[⚡A◉]、赤目軽減強制発光［⚡◉］、赤目軽減スローシンクロ[⚡S◉]に設定できません。
- 撮影モードを変更すると、フラッシュの設定が変わることがあります。変更が必要な場合には、再度フラッシュ設定をしてください。
- 設定したフラッシュ設定は電源を[OFF]にしても記憶していますが、アドバンスシーンモードまたはシーンモードを変更して使用すると、アドバンスシーンモードまたはシーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。

■ フラッシュで撮影できる範囲
[DMC-L10K(キット商品)に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着時]

フラッシュで撮影できる範囲は、ISO感度の設定によって異なります。

ISO 感度	フラッシュ撮影可能範囲	
	W 端時	T 端時
AUTO	約 2.0 m ～ 約 5.5 m	約 1.0 m ～ 約 3.7 m
ISO100	約 2.0 m ～ 約 2.8 m	約 1.0 m ～ 約 1.9 m
ISO200	約 2.0 m ～ 約 3.9 m	約 1.0 m ～ 約 2.6 m
ISO400	約 2.0 m ～ 約 5.5 m	約 1.0 m ～ 約 3.7 m
ISO800	約 2.0 m ～ 約 7.8 m	約 1.0 m ～ 約 5.3 m
ISO1600	約 2.0 m ～ 約 11.0 m	約 1.0 m ～ 約 7.5 m

- ISO 感度については 91 ページをお読みください。

つづく

- ピントが合う範囲については 43、99 ページをお読みください。
- 被写体との距離が 2.0 m 以内でフラッシュ撮影すると、レンズでフラッシュ光がさえぎられ、撮影画像の一部が暗くなります。被写体との距離を確認しながら撮影してください。
- ノイズが気になるときは、ISO 感度を低くして撮影することをおすすめします。

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡A ：オート ⚡A◎ ：赤目軽減オート	1/30※1～1/4000秒
⚡ ：強制発光 ⚡◎ ：赤目軽減強制発光	1/30※2～1/160 秒
⚡S ：スローシンクロ ⚡S◎ ：赤目軽減スローシンクロ	1 ～ 1/4000 秒

※ 1 [S] モード時は 60 秒となります。
※ 2 [S] モード時は 60 秒、[M] モード時は B（バルブ）となります。

- フラッシュ発光時は、シャッタースピードが 1/160 秒より速い設定はできません。

○○お知らせ○○

- **フラッシュが発光中に至近距離（数 cm）でフラッシュ発光部を直接見ないでください。**
- **フラッシュに物を近づけたり、発光中にフラッシュを閉じないでください。熱や光で変形、変色する場合があります。**
- **フラッシュ発光部を指などでふさがないでください。**
- 開いた内蔵フラッシュを持って、持ち運びしないでください。
- 赤目軽減オートなどの予備発光の直後にフラッシュを閉じないでください。故障の原因となります。
- フラッシュが発光する場合、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターのフラッシュアイコンが赤に変わります。
- フラッシュ撮影可能範囲外で撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮影される場合や暗くなる場合があります。
- フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。（P88）
- 撮影を繰り返すと、フラッシュが発光しても撮影できない場合があります。アクセス表示が消えてから撮影してください。
- 赤目軽減の効果には個人差があり、被写体までの距離や被写体の人が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくい場合があります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュアイコンが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- 連写およびオートブラケット撮影時でフラッシュが発光する場合、1 枚しか撮影できません。
- **レンズフードが付いた状態でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がフードでさえぎられることがあります。**
- 外部フラッシュ装着時は、外部フラッシュが優先されます。外部フラッシュについては 143 ページをお読みください。

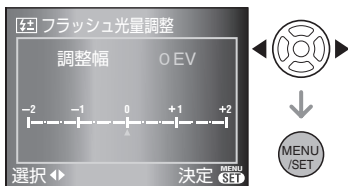
フラッシュの発光量を調整する

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

被写体が小さい、反射率が極端に高い、低いときは、フラッシュの発光量を調整してください。

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー［ ］の［フラッシュ光量調整］を選び、▶ を押す

3 ◀/▶ でフラッシュの発光量を調整し、[MENU/SET] ボタンを押す

- フラッシュ発光量を調整しない場合は、“0” を選んでください。
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも設定できます。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

〇〇(お知らせ)〇〇

- −2 EVから+2 EVの範囲で 1/3 EVごとに調整できます。
- フラッシュの発光量を調整すると、液晶モニターにフラッシュ光量調整値が表示されます。また、ファインダーには [ ] と表示されます。
- 設定したフラッシュ発光量は、電源を [OFF] にしても記憶しています。

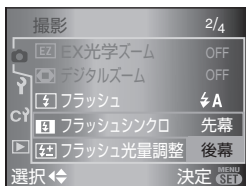
後幕シンクロに設定する

モードダイヤル設定：P A S M C

後幕シンクロとは、車など動きのある被写体をスローシャッターでフラッシュ撮影する場合、シャッターが閉じる直前に発光する撮影方法です。

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー［📷］の［フラッシュシンクロ］を選び、▶ を押す

3 ▼ で［後幕］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

項目	効果
先幕（さきまく）	一般的なフラッシュ撮影の方法です。
後幕（あとまく）	被写体の後ろに光源が写り、躍動感が出ます。

○○お知らせ○○

- 通常は [先幕] に設定してください。
- [後幕] に設定すると、液晶モニターのフラッシュアイコンに [2nd] が表示されます。
- フラッシュシンクロの設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。（P143）
- シャッタースピードが速いときは、後幕シンクロの効果が十分に得られない場合があります。
- [後幕] 設定時は、赤目軽減オート［⚡A◎］、赤目軽減強制発光［⚡◎］、赤目軽減スローシンクロ［⚡S◎］に設定できません。

応用撮影・

露出やピントを固定して撮る（AF/AE ロック）

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

被写体のコントラストが強すぎて適正露出が得られない場合（AE ロック）や、被写体が AF フレームから外れた構図で撮りたい場合（AF ロック）などに便利です。

■ 露出のみを固定する

1 露出を合わせたい被写体に画面を合わせる

ファインダー表示

2 [AFL/AEL]ボタンを押したままにし、露出を固定する

ファインダー表示　ライブビュー撮影時

- 絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
- [AFL/AEL] ボタンを離すと、ロックは解除されます。

3 [AFL/AEL] ボタンを押したまま、撮りたい構図に本機を動かす

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しする

ファインダー表示

■ピントまたはピント•露出を固定するには

1 **[MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する**

2 **▲/▼/◀/▶ でカスタムメニュー［C🔧］の［AF/AE ロック切替］を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ で [AF] または [AF/AE] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 **[MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する**

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

[AF] 選択時
（ピントのみを固定する場合）

❶ 被写体に AF フレームを合わせる

❷ [AFL/AEL] ボタンを押したままにし、ピントを固定する
- ピントが合うと、フォーカス表示が点灯します。
- [AFL/AEL] ボタンを離すと、ロックは解除されます。

❸ [AFL/AEL] ボタンを押したまま、撮りたい構図に本機を動かし、シャッターボタンを全押しする

[AF/AE] 選択時
（ピント・露出を固定する場合）

❶ 被写体に AF フレームを合わせる

❷ [AFL/AEL] ボタンを押したままにし、ピントと露出を固定する
- ピントと露出が合うと、フォーカスおよび絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
- [AFL/AEL] ボタンを離すと、ロックは解除されます。

❸ [AFL/AEL] ボタンを押したまま、撮りたい構図に本機を動かし、シャッターボタンを全押しする

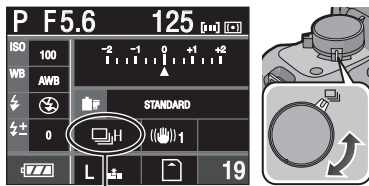
○○(お知らせ)○○

- カスタムメニューの[AF/AEロック維持]を[ON] に設定すると、[AFL/AEL] ボタンを押したあと、離してもピントや露出を固定することができます。（P118）
- マニュアル露出モード時は、AF ロックのみ有効です。
- マニュアルフォーカス時は、AE ロックのみ有効です。
- オートモード［A］時は、AE ロックに固定されます。

応用・撮る

連写する

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

1 ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

連写[H(高速)設定時]

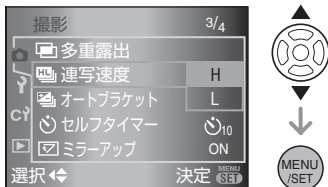
2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。

■ 連写速度を変更する場合

1 [MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー[ ]の[連写速度]を選び、▶を押す

3 ▲/▼ で[H](高速)または[L](低速)を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

■ 連写速度

	H(高速)	L(低速)
連写速度	3 コマ / 秒	2 コマ / 秒

- カードの転送速度に関係なく、連写速度は一定です。
- 連写速度は、シャッタースピードが 1/60 秒より速く、フラッシュを発光させないときの値です。
- 連写速度は、以下の設定によって低下することがあります。
  - · ISO 感度（P91）
  - · 記録画素数（P107）
  - · クオリティ（P107）
  - · フォーカス優先（P119）
  - · フォーカスモード
- 暗いところでは、シャッタースピードが遅くなるため、連写速度（コマ / 秒）が遅くなることがあります。

■ 連写枚数

	RAWファイルあり	RAWファイルなし
連写枚数	3 コマ	カードの空き容量による

● RAW ファイルについては、108 ページをお読みください。
● RAW ファイルなしのときは、カードの空き容量がいっぱいになるまで撮影されますが、途中から連写速度が遅くなります。遅くなるタイミングは記録画素数、クオリティの設定、使用するカードによって異なります。

■ 連写とピントについて

ピント合わせは、フォーカスモードとカスタムメニューの[フォーカス優先]（P119）の設定によって異なります。

フォーカスモード	フォーカス優先	ピント合わせ
AFS	ON	1 枚目
	OFF	
AFC ※1	ON	常時ピント※2
	OFF	予測ピント※3
MF	―	マニュアルで設定したフォーカス

※1 ライブビュー撮影時は[AFS]になるので、ピントは1枚目で固定されます。
※2 常時ピントを合わせながら連写するので、連写速度は遅くなることがあります。
※3 フォーカス優先 [ON] より連写速度は遅くなりません。

◯◯お知らせ◯◯

● シャッターボタンを押したまま連続撮影するときは、シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては 146 ページをお読みください。
● 露出、ホワイトバランスは、連写設定によって変わります。高速［H］設定時は、最初の 1 枚に対する設定に固定されます。低速［L］設定時は、1 枚ごとに露出、ホワイトバランスを調整します。
● オートレビューの設定にかかわらずオートレビューされます。（拡大はされません）
● フラッシュが発光するときは、1 枚しか撮影できません。
● オートモード［A］時は、連写速度が高速［H］に固定されます。

応用・撮る

露出を自動的に変えながら撮る
（オートブラケット撮影）

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

シャッターボタンを押すごとに、露出の補正幅に従って露出を変えながら、3枚撮影します。
露出が異なる画像の中からお好きな露出の画像を選ぶことができます。

補正幅：　　　　　[１EV]
ブラケット順序：[0/−/+]
設定時の例

±０ EV

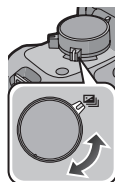
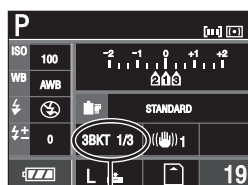
１枚目

－１ EV

２枚目

＋１ EV

３枚目

1 ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

オートブラケット
（[1/3EV]設定時）

ファインダー表示　　ライブビュー撮影時

- ファインダー（ライブビュー撮影時は液晶モニター）に[ ]が表示されます。

2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。
- 設定枚数分（３枚）がすべて撮影されるまでオートブラケット表示が点滅します。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでにオートブラケットの設定やドライブモードを変更したり、電源を[OFF]にした場合は、１枚目からの撮影になります。

■ オートブラケットの補正幅、撮影順序を変更する場合

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー [📷] の [オートブラケット] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で [補正幅] または [ブラケット順序] を選び、▶ を押す

4 ▲/▼ で設定内容を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。

3 の画面で［補正幅］選択したとき

項目	設定内容
補正幅	1/3EV
	2/3EV
	1EV
	1 1/3EV
	1 2/3EV
	2EV

3 の画面で［ブラケット順序］選択したとき

項目	設定内容
ブラケット順序	0/−/+
	−/0/+

5 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

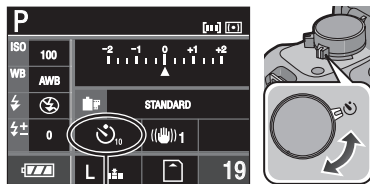
- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

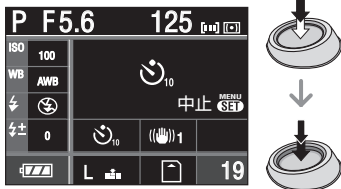
○○お知らせ○○

- 露出補正をしてからオートブラケット撮影をする場合は、補正された露出値を基準にして撮影されます。
- オートレビューの設定にかかわらずオートレビューされます。（拡大はされません）
- 被写体の明るさによっては、オートブラケットで露出補正できない場合があります。
- フラッシュが発光するときや記録可能枚数が 2 枚以下のときは、1 枚しか撮影できません。
- オートモード［A］時は［補正幅］が［1/3EV］、［ブラケット順序］が［0/−/+］に固定されます。

セルフタイマーを使って撮る

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

1 ドライブモードレバーを[⏲]に合わせる

セルフタイマー（10秒設定時）

2 ピントを合わせて撮影する

- ピントが合うまで、撮影されません。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの［フォーカス優先］を[OFF]に設定してください。(P119)
- セルフタイマーランプが点滅し、10秒（または2秒）後に撮影動作が開始されます。

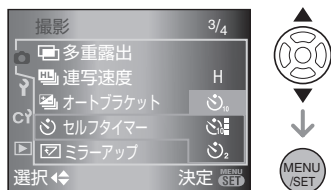
セルフタイマーランプ

- [⏲10連写]選択時は、1枚目および2枚目撮影後にセルフタイマーランプが再度点滅し、2秒後に撮影動作を開始します。
- セルフタイマー動作中に[MENU/SET] ボタンを押すと、セルフタイマーが中断されます。

■ セルフタイマーの時間を変更する場合

1 [MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー［📷］の［セルフタイマー］を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	設定内容
⏲10	10 秒
⏲10連写	10 秒 /3 枚
⏲2	2 秒

- [⏲10連写] に設定すると、10 秒後に約 2 秒間隔で 3 枚撮影します。
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

◯◯(お知らせ)◯◯

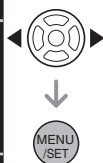
- セルフタイマーを 2 秒に設定すると、三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐのに便利です。
- 撮影メニューの[ミラーアップ]を[ON]に設定すると、ミラーによる振動を避け、カメラブレを防ぐことができます。(P116)
- オートモード [A] 時は、セルフタイマーが 10 秒に固定されます。
- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。(三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください)
- [⏱10] 選択時、撮影状況によっては撮影間隔が2秒以上になることがあります。
- [⏱10] 選択時、フラッシュ発光量は一定にならない場合があります。

ホワイトバランスを調整する

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、撮影状況に合った項目に設定することで見た目に近い白色に調整します。

1 ▼（WB）を押す

2 ◀/▶でホワイトバランスを選び、[MENU/SET] ボタンを押して決定する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。
- **シャッターボタン半押しでも決定できます。**

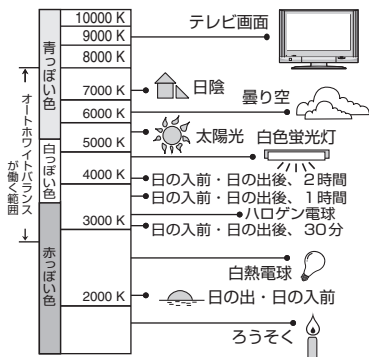
項目	撮影状況
AWB（オートホワイトバランス）	自動で設定するとき
☼（晴天）	屋外晴天下で撮影するとき
（曇り）	屋外曇天下で撮影するとき
（日陰）	屋外晴天下の日陰で撮影するとき
（白熱灯）	白熱灯下で撮影するとき
（フラッシュ）	フラッシュ光のみで撮影するとき
（ホワイトセット1）	あらかじめセットしている設定を使用するとき
（ホワイトセット2）	
K（色温度設定）	あらかじめセットしている色温度設定を使用するとき

○○お知らせ○○

- ホワイトバランスを［AWB］以外に設定すると、ファインダーには［ WB ］と表示されます。
- ［FUNC］ボタンでも設定できます。（P104）

つづく

■ **オートホワイトバランスについて**

オートホワイトバランスが働く範囲は、下図のとおりです。範囲外での撮影では、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、図の範囲内にあっても、光源が複数の場合や白に近い色がない場合、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合は、ホワイトバランスを調整してください。

○○お知らせ○○

- ホワイトバランスを微調整することができます。(P90)
- 蛍光灯下では、その種類によって最適なホワイトバランスは異なりますので、[AWB]、[ ] または [ ] をご使用ください。
- フラッシュ撮影時は、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- 以下の場合、[ホワイトバランス] の設定はできません。
  - ・オートモード [A]
  - ・人物モードの [屋外人物]/[屋内人物]
  - ・風景モード
  - ・スポーツモードの [屋外スポーツ]/[屋内スポーツ]
  - ・夜景 & 人物モード
  - ・シーンモードの [夕焼け]/[料理]

新しくホワイトバランスを設定する(ホワイトセット)

手動でホワイトバランスを設定したいときに使用します。

1 88 ページ手順 2 で [ ] または [ ] を選び、▲ を押す

2 白い紙などに本機を向けて、画面の中央の枠内に白いものだけが写るようにし、[MENU/SET] ボタンを押す

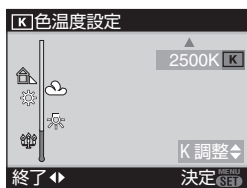
○○お知らせ○○

- 被写体が明るすぎたり、暗すぎる場合は、新しくホワイトバランスを設定できないことがあります。そのときは、適切な明るさに調整して、再度設定し直してください。

手動で色温度を設定する（色温度設定）

撮影場所のいろいろな光に合わせて自然な色合いの撮影ができるよう、手動で色温度を設定することができます。色温度とは、光の色を数値［単位：K（ケルビン）］で表したもので、温度が高いほど青っぽく、低いほど赤っぽくなります。（P89）

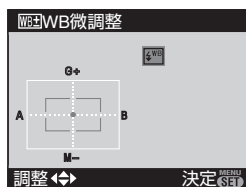
1 88 ページ手順 2 で［K］を選び、▲ を押す

2 ▲/▼ で色温度を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- ［2500K］～［10000K］まで設定できます。
- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。

ホワイトバランスを微調整する（WB 微調整）

ホワイトバランスを設定しても、思いどおりの色合いにならないときに、微調整することができます。

1 88 ページ手順 2 でホワイトバランスを選び、▼ を押す

2 ▲/▼/◀/▶ でホワイトバランスを微調整し、[MENU/SET] ボタンを押す

◀：A（アンバー：オレンジ系）
▶：B（ブルー：青系）
▲：G+（グリーン：緑系）
▼：M−（マゼンタ：赤系）

- ホワイトバランスを A（アンバー）または B（ブルー）方向に微調整すると、液晶モニターに表示されるホワイトバランスアイコンが微調整した色に変わります。

- ホワイトバランスをG+（グリーン）またはM−（マゼンタ）方向に微調整すると、液晶モニターに表示されるホワイトバランスアイコンに[+]（グリーン）または[−]（マゼンタ）が表示されます。
- [FUNC] ボタンを押すと中心点に戻ります。
- ホワイトバランスを微調整しない場合は、中心点を選んでください。

◯◯お知らせ◯◯

- ホワイトバランスの各項目で独立して微調整することができます。
- ホワイトバランスの微調整は、フラッシュ撮影にも反映されます。
- 設定したホワイトバランス微調整は、電源を[OFF]にしても記憶しています。
- 以下の場合、微調整レベルは標準（中心点）に戻ります。
  - ・ホワイトセット（P89）で新しくホワイトバランスを設定し直したとき（[1]または[2]）
  - ・色温度設定（P90）で手動で色温度を設定し直したとき（[K]）
- 以下の場合、[WB微調整]の設定はできません。
  - ・オートモード［A］
  - ・人物モードの[屋外人物]/[屋内人物]
  - ・風景モード
  - ・スポーツモードの[屋外スポーツ]/[屋内スポーツ]
  - ・夜景＆人物モード
  - ・シーンモードの[夕焼け]/[料理]

ISO感度を設定する

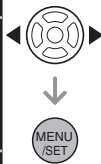
つづく

モードダイヤル設定：
P A S M C

ISO感度とは、光に対する敏感さを数値で表したもので、高い数値に設定するほど、暗い場所での撮影に適しています。

1 ▲（ISO）を押す

ファインダー表示　　ライブビュー撮影時

2 ◀/▶でISO感度を選び、[MENU/SET]ボタンを押して決定する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。
- **シャッターボタン半押しでも決定できます。**

ISO 感度	100	1600
屋外など明るい場所での撮影	適している	適していない
暗い場所での撮影	適していない	適している
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い

ISO 感度	設定内容
AUTO	明るさに応じて、自動的に ISO 感度を調整します。
iISO ※（インテリジェント）	被写体の動きと明るさに応じて、ISO 感度を調整します。
100	それぞれの ISO 感度に固定します。
200	
400	
800	
1600	

※ライブビュー撮影時のみ

- 感度上限設定を設定することができます。（P93）
- [AUTO]を選ぶと、明るさに応じてISO感度は [ISO100] ～ [ISO400] まで自動的に高くなります。（感度上限設定を ［ISO200］に設定した場合は、［ISO200］ までしか高くなりません）
- ［iISO］を選ぶと、［ISO800］ まで自動的に高くなります。

■ iISO（インテリジェント ISO 感度コントロール）について（ライブビュー撮影時のみ）

画面内の中央付近にある被写体の動きを検出し、被写体の動きと明るさに応じて最適な ISO 感度とシャッタースピードを設定します。

- 屋内で動きのある被写体を撮影する場合などは、ISO感度を上げてシャッタースピードを速くすることにより、被写体のブレをおさえて撮影します。

1/125 ISO800

- 動きのない被写体を撮影する場合には、ISO 感度を低く設定することにより、ノイズをおさえて撮影します。

1/30 ISO200

- シャッタースピードはシャッターボタン半押し時に固定されず、全押しするまで常に被写体の動きに合わせて変化します。実際のシャッタースピードは再生画像の情報表示でご確認ください。

〇〇お知らせ〇〇

- [FUNC] ボタンでも設定できます。(P104)
- [iISO] を選ぶと、デジタルズームは使えません。
- [iISO] を選んでも、明るさや被写体の動きの速さによっては、被写体ブレをおさえられない場合があります。
- 以下の場合は動きを検出できない場合があります。
  - ・動いている被写体が小さいとき
  - ・動いている被写体が画面の端にあるとき
  - ・シャッターボタンを全押しした瞬間に、被写体が動き出したとき
  - ・AF 動作中
- 以下の場合は [iISO] に固定されます。
  - ・シーンモードの [赤ちゃん] または [ペット]
  - ・アドバンスシーンモードの [屋内人物]、[動体マクロ]、[スポーツ(標準)]、[屋外スポーツ] または [屋内スポーツ]
- [iISO] 選択時は、プログラムシフトは使えません。
- シャッター優先 AE またはマニュアル露出時は、[iISO] の選択はできません。
  また、マニュアル露出時は [AUTO] の選択ができません。
- ノイズが気になるときは、ISO 感度を低くするか、[フィルムモード] の [ノイズリダクション] をプラス方向にする、または [ノイズリダクション] 以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。(P106)

感度上限設定を設定する

モードダイヤル設定：

P A S C

ISO 感度の上限設定をすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に最適な ISO 感度に変更します。

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ でカスタムメニュー [C🔧] の [感度上限設定] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で ISO 感度を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

明るさを測る方法を決める（測光モード）

モードダイヤル設定：P A S M C

1 ▶([⊙])を押す

ファインダー表示　ライブビュー撮影時

2 ◀/▶で測光方式を選び、[MENU/SET]ボタンを押して終了する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。
- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

測光方式	設定内容
[(•)] 評価測光	画面全体の明るさの配分をカメラが自動的に評価して、露出が最適になるように測光する方式です。通常はこの方式に合わせて使用することをおすすめします。
[( )] 中央重点測光	画面中央部の被写体に重点を置いて、画面全体を平均的に測光する方式です。
[•] スポット測光	画面中央部の限られた狭い範囲内の被写体に対して測光する方式です。

○○お知らせ○○

- オートモード［A］では、評価測光［[(•)]］に固定されます。
- AFモードを顔認識に設定すると、評価測光［[(•)]］選択時のみ人の顔に合わせて露出を調整します。
- スポット測光［[•]］選択時、AFモードを1点またはスポットに設定すると、測光ターゲットもAFエリアに合わせて移動します。

お好みのメニュー設定を登録する
（カスタムセット登録）

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

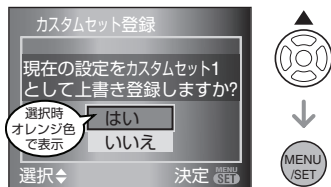
現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして３つまで登録しておくことができます。

あらかじめ、保存したい状態のモードダイヤルに合わせ、本機でメニュー設定をしておいてください。

1 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ でカスタムメニュー［C🔧］の［カスタムセット登録］を選び、▶ を押す

3 ▲/▼で[C1 SET1]、[C2 SET2]または [C3 SET3] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [はい] を選ぶと前に保存していた設定が上書きされます。
- 時計設定はすべての撮影モードに反映されるため、保存できません。

5 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

カスタムモードで撮る（C：カスタムモード）

モードダイヤルを C に合わせてください。

あらかじめカスタムセットで保存した登録パターンから、撮影状況などに合わせてカスタムセットを選択することができます。

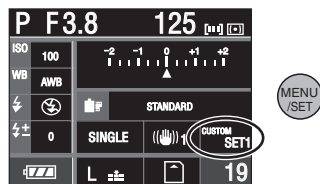
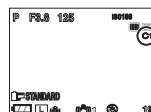
1 [MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼で[C1 SET1]、[C2 SET2]または[C3 SET3]のいずれかを選ぶ

- ▶を押すと、メニューの設定内容が表示されます。（◀を押すと選択画面に戻ります）

- 一部のメニュー項目のみ表示されます。（表示されるメニュー項目については下記を参照してください）

AFL AEL AF/AEロック切替	LIVE AF LIVE VIEW時AF
AFL·AEL HOLD AF/AEロック維持	HL 連写速度
AF +MF AF+MF	オートレビュー・オートズーム
FOCUS フォーカス優先	NR 長秒ノイズ除去
AF✳ AF補助光	レンズ無しレリーズ

3 [MENU/SET]ボタンを押して決定する

ライブビュー撮影時

- 選択されているカスタムセット表示が画面に表示されます。

■ メニュー設定を変更する場合は

[C1 SET1]、[C2 SET2]、[C3 SET3]のいずれかを選択した状態で一時的にメニュー設定を変更しても、登録内容は変更されません。
登録内容を変更する場合は、カスタムメニューの［カスタムセット登録］（P95）で登録内容を上書きしてください。

○○お知らせ○○

- カスタムモードでシーンモード（P101）の[赤ちゃん]、[ペット]を登録している場合、誕生日設定を変更しても登録はされません。変更した設定を登録したい場合は、再度カスタムメニューの［カスタムセット登録］より登録し直してください。
- お買い上げ時、[C1 SET1]、[C2 SET2]および[C3 SET3]にはプログラムAEモード[P]での初期設定が登録されています。

人物や風景を表現豊かに撮る
（アドバンスシーンモード）

つづく

モードダイヤル設定：

人物、スポーツ、マクロ、風景、夜景 & 人物などの被写体では、撮影状況に合わせてより効果的な撮影ができます。

1 ◀/▶ でアドバンスシーンモードを選ぶ

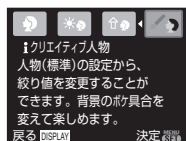
（ 選択時の画面）

ライブビュー撮影時

2 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

- **シャッターボタン半押しでも決定できます。**
- 選択したアドバンスシーンモードの撮影画面になります。
- アドバンスシーンモードを変更したい場合は、▶ を押して上記手順 **1**、**2** の操作を行ってください。

■ インフォメーションについて

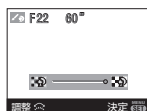
- 手順 **1** でアドバンスシーンモードを選んだときに［DISPLAY］ボタンを押すと、選択されているアドバンスシーンモードの説明が表示されます。（もう一度押すと、手順 **1** の画面に戻ります）

〇〇お知らせ〇〇

- アドバンスシーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため、以下の設定はできません。
  - ・ISO 感度
  - ・測光モード
  - ・フィルムモードの［スタンダード］、［スタンダード B&W（白黒）］以外の項目

■ クリエイティブ設定時の絞り・シャッタースピードについて

- アドバンスシーンモードのクリエイティブを選択すると、絞り値・シャッタースピードを変更できます。前ダイヤルを回して適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値および選択カーソルが赤くなります。

ライブビュー撮影時

撮る・応用

人物モード

人物を引き立て、肌色を健康的に出します。

人物（標準）
背景をぼかし、肌色をきれいに写します。
屋外人物
明るい屋外で顔が暗くなるのを防ぎます。
屋内人物※
屋内での被写体ブレを防ぐため、最適なISO 感度設定を行います。(インテリジェント ISO)
クリエイティブ人物
絞り値（P46）を変更することで、背景のボケ具合を変えることができます。

※ ライブビュー撮影時のみインテリジェント ISO が働きます。

■ 撮影のテクニック

- ズームの位置はできるだけ T 側（望遠）にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。

○○お知らせ○○

- [屋内人物]では、インテリジェントISOが働き、最高 ISO 感度が［ISO400］になります。その他では ISO 感度が [ISO100] に固定されます。
- [人物(標準)]、[クリエイティブ人物]は、ホワイトバランスの設定ができます。
- ライブビュー撮影時の AF モード初期設定は顔認識になります。
- デジタルズームは使えません。

風景モード

広がりのある風景を撮影できます。

風景（標準）
遠くにある被写体に優先的にピントを合わせます。
自然
自然の風景を撮るのに適しています。
建物
建物がシャープに写る設定です。ガイドラインを表示します。(P63)
クリエイティブ風景
［風景（標準)］の設定で、シャッタースピード（P46）の変更ができます。

○○お知らせ○○

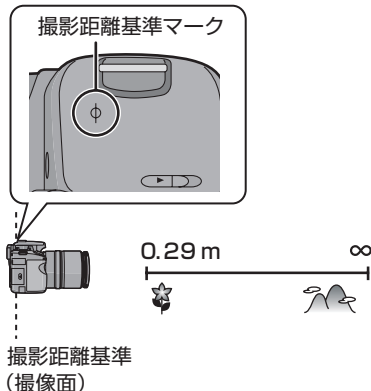
- フラッシュは発光禁止 [ ] に固定されます。
- AF 補助光の設定は無効になります。
- ホワイトバランスの設定はできません。

マクロモード

花などの被写体に近づいて撮りたいときに合わせてください。
(近接して撮影できる距離は、使用するレンズにより異なります)

通常マクロ
近くにある被写体に優先的にピントを合わせます。
動体マクロ※
被写体の動きを認識して、被写体ブレがおきないように最適なISO感度に設定します。(インテリジェント ISO)
クリエイティブマクロ
［通常マクロ］の設定で、絞り値（P46）を変更することができます。

※ ライブビュー撮影時のみインテリジェント ISO が働きます。

■ ピントの合う範囲
[DMC-L10K(キット商品)に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S.の場合]

◯◯お知らせ◯◯

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- 被写体が近い場合は、ピントの合っている範囲（被写界深度）が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
- 撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示が点灯していても、ピントが合っていない場合があります。
- ライブビュー撮影のコントラスト AF 時は近距離側を優先するので、遠くの被写体を撮影する場合は、ピントが合うのに時間がかかります。
- フラッシュで撮影できる範囲は、約 2.0 m ～約 5.5 m です。(W 端、[ISO AUTO] 設定時）近距離で撮影する場合は、フラッシュを発光禁止[ ]にすることをおすすめします。
- 近距離で撮影する場合は、画像の周辺部の解像度が少し低下する場合がありますが、故障ではありません。
- レンズに指紋やほこりなどの汚れがついていると、レンズにピントが合ってしまい被写体にピントが合わない場合がありますのでお気をつけください。
- デジタルズームは使えません。

スポーツモード

スポーツシーンなど、動きの速い場面を撮りたいときに合わせてください。

	スポーツ（標準）※
	速めのシャッタースピードで動きを止めながら、ISO 感度もコントロールします。(インテリジェント ISO)
	屋外スポーツ※
	天気の良い屋外撮影で動きを止めるために、速いシャッタースピードになります。(インテリジェント ISO)
	屋内スポーツ※
	屋内撮影でのブレを防ぐため、ISO 感度を高くしてシャッタースピードを速くします。(インテリジェント ISO)
	クリエイティブスポーツ
	[スポーツ（標準)] の設定で、シャッタースピード（P46）の変更ができます。

※ ライブビュー撮影時のみインテリジェント ISO が働きます。

◯◯お知らせ◯◯

- [クリエイティブスポーツ] 以外は、インテリジェント ISO が働きます。
- [スポーツ(標準)]、[クリエイティブスポーツ] 選択時は、ホワイトバランスの設定ができます。
- デジタルズームは使えません。

つづく

夜景 & 人物モード

人物とともに背景も見た目に近い明るさに撮影できます。

夜景 & 人物
夜景を背景に人物を撮る際に使います。
夜景
スローシャッターにより、夜景が鮮やかに写ります。
イルミネーション
イルミネーションをきれいに写します。
クリエイティブ夜景
[夜景] の設定で、絞り値（P46）を変更することができます。

■ 撮影のテクニック

- **[夜景&人物]選択時は、フラッシュを開いてください。**
- シャッタースピードが遅くなるため、三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- [夜景&人物]選択時は、被写体の人に撮影後約 1 秒間は動かないように伝えてください。
- [夜景 & 人物] 選択時は、ズームを W 端（広角）にして、被写体から約 2 m ほど離れたところから撮影することをおすすめします。

お知らせ

- フラッシュの撮影可能範囲については76 ページをお読みください。
- 使わないときは、必ずフラッシュを閉じておいてください。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。
- [夜景&人物]以外では、フラッシュの設定ができません。
- [夜景 & 人物] 選択時のフラッシュ設定は赤目軽減スローシンクロ [⚡S◎] になり、強制発光します。
- [夜景] 選択時はISO感度が[ISO100]に固定されます。
- [夜景 & 人物] 以外では、AF 補助光の設定が無効になります。
- ホワイトバランスの設定はできません。
- [夜景 & 人物] 選択時はライブビュー撮影時のAF モード初期設定が顔認識になります。

撮影シーンに合わせて撮る（SCN：シーンモード）

つづく

モードダイヤルを SCN に合わせてください。

被写体や撮影状況に合わせてシーンモードを選択すると、カメラが最適な露出や色調を設定し、シーンに合った撮影ができます。

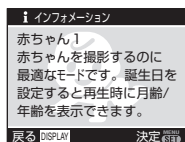
- 各シーンモードについては以下の「iインフォメーションについて」と 102 ～ 103 ページをあわせてお読みください。

1 ◀/▶ でシーンモードを選ぶ

2 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

- 選択したシーンモードの撮影画面になります。
- シーンモードを変更したい場合は、[MENU/SET] ボタンを押してメニューを表示し、◀/▶/▲/▼ でシーンモードメニュー［SCN］のシーンモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。

■ iインフォメーションについて

- 手順 1 でシーンモードを選んだときに[DISPLAY] ボタンを押すと、選択されているシーンモードの説明が表示されます。（もう一度押すと、シーンモードのメニュー画面に戻ります）

○○お知らせ○○

- 設定したフラッシュ設定は電源を [OFF] にしても記憶していますが、シーンモードを変更して使用すると、シーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。
- シーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。
- 手順 1 で[夕焼け]を選んだときに◀を押すと、シーンモードメニュー［SCN］が選択されている状態になります。そのまま ▼ を押して、撮影メニュー［📷］、セットアップメニュー［🔧］またはカスタムメニュー［C🔧］を選ぶとそれぞれの設定ができます。
- シーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため、以下の設定はできません。
  - ・ISO 感度
  - ・測光モード
  - ・フィルムモードの［スタンダード］、［スタンダード B&W（白黒）］以外の項目

MENU/SET を押してシーンモードメニューを表示し、シーンモードを選んでください。(P101)

夕焼け

夕焼けの風景を撮りたいときに合わせてください。赤色を鮮やかに撮影できます。

○○お知らせ○○

- フラッシュは発光禁止[ ]に固定されます。
- AF 補助光の設定は無効になります。
- ホワイトバランスの設定はできません。

料理

レストランなどで、周囲の光に影響されずに料理を自然な色調にします。

○○お知らせ○○

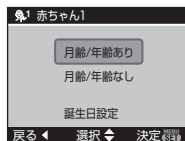
- ホワイトバランスの設定はできません。

赤ちゃん 1 赤ちゃん2

赤ちゃんの肌を健康的に出し、フラッシュ使用時にはフラッシュの光が通常より弱めに発光します。
赤ちゃん 1 と 2 のそれぞれに、異なる誕生日を設定できます。再生時に月齢/年齢を表示させることができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」(ルミックス シンプル ビューワー)または「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」(フォトファンスタジオ ビューワー)を使って月齢/年齢をプリントすることができます。[プリントについては、ソフトウェアの取扱説明書(PDF ファイル)をお読みください]

■ 月齢/年齢表示設定

- 月齢 / 年齢を表示させるために、はじめに誕生日設定を行い、撮影前に必ず [月齢 / 年齢あり] に設定してください。

■ 誕生日設定

1. ▲/▼ で [誕生日設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
2. メッセージが表示されたら、◀/▶で項目(年月日)を選び、▲/▼ で設定する
3. [MENU/SET]ボタンを押して終了する
   - 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも設定できます。

○○お知らせ○○

- [赤ちゃん] ではインテリジェント ISO(ライブビュー撮影時のみ)が働き、最高 ISO 感度は [ISO400] になります。
- [赤ちゃん] で起動した場合に約5秒間、月齢/年齢が現在日時とともに画面に表示されます。
- 月齢/年齢の表示は、撮影時の言語設定によって異なります。
- 月齢/年齢が正しく表示されないときは、時計設定または誕生日設定を確認してください。
- [月齢/年齢なし] に設定していると、時計設定、誕生日設定をしていても月齢/年齢は記録されません。撮影後に [月齢/年齢あり] に設定しても表示されません。
- [設定リセット] で誕生日設定のリセットができます。
- デジタルズームは使えません。
- ライブビュー撮影時の AF モード初期設定は顔認識になります。

ペット

犬や猫などのペットを撮りたいときに合わせてください。
ペットの誕生日を設定できます。再生時に月齢 / 年齢を表示させることができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」または「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使って月齢/年齢をプリントすることができます。[プリントについては、ソフトウェアの取扱説明書(PDF ファイル)をお読みください]

月齢/年齢表示設定、誕生日設定については、102 ページの [赤ちゃん] をお読みください。

◯◯お知らせ◯◯
- AF 補助光の初期設定は [OFF] になります。(P120)
- 月齢 / 年齢の設定は 2000 年より前には設定できません。
- [ペット] ではインテリジェント ISO(ライブビュー撮影時のみ)が働き、最高 ISO 感度は [ISO800] になります。
- ライブビュー撮影時の AF モード初期設定は 9 点になります。
- その他のお知らせについては、[赤ちゃん] をお読みください。

撮影メニューを使う

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

色合いや画質調整などを設定すると、撮影のバリエーションが広がります。
撮影モードにより、設定できるメニューが異なります。

■ メニュー画面から設定する

[MENU/SET] ボタンを押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。（P30）

設定できる項目

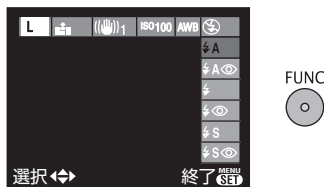
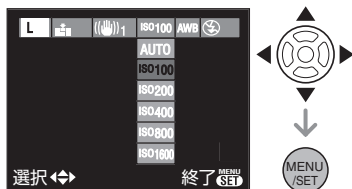
（プログラム AE モード [P] 時）

画面	項目
1/4 画面	フィルムモード（P105）
	画像アスペクト（P107）
	記録画素数（P107）
	クオリティ（P107）
	OIS モード（P109）
2/4 画面	EX 光学ズーム（P110）
	デジタルズーム（P112）
	フラッシュ（P113）
	フラッシュシンクロ（P113）
	フラッシュ光量調整（P113）
3/4 画面	多重露出（P114）
	連写速度（P116）
	オートブラケット（P116）
	セルフタイマー（P116）
	ミラーアップ（P116）
4/4 画面	色空間（P117）
	長秒ノイズ除去（P117）

■ FUNCTION 設定を使う

撮影時に [FUNC] ボタンを使って、以下の項目を簡単に設定することができます。（プログラム AE モード [P] 時）

- ホワイトバランス（P88）
- ISO 感度（P91）
- 記録画素数（P107）
- クオリティ（P107）
- OIS モード（P109）
- フラッシュ（P74）

1 撮影状態で、[FUNC] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶でメニュー項目と設定内容を選び、[MENU/SET] ボタンを押して終了する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも項目を選択することができます。
- **[FUNC] ボタンを押して終了することもできます。**
- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

つづく

フィルムモード　撮影する画像の色調などを選択する

モードダイヤル設定: P A S M SCN

[SCN、、、、、モード時はスタンダード、スタンダード B&W (白黒)のみ]

フィルムカメラで使用するフィルムの種類には、発色やコントラストなどの画質に個性があります。フィルムモードでは、フィルムを使い分けるように画像の色調を9種類から選択できます。
撮影状況、撮影イメージに合わせてフィルムモードを使い分けてください。

1 ◀/▶ または後ダイヤルで項目を選ぶ

- 上図の画面で [DISPLAY] ボタンを押すと、各フィルムモードの説明が表示されます。(もう一度押すと前の画面に戻ります)

2 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**

項目	効果
スタンダード (カラー)	標準的な設定です。
ダイナミック (カラー)	彩度高め、コントラスト高め、記憶色よりの設定です。
ネイチャー (カラー)	青、緑、赤などを明るく、自然をより美しく撮る設定です。

項目	効果
スムーズ (カラー)	コントラスト低め、穏やかですっきりとした設定です。
ノスタルジック (カラー)	彩度低め、コントラスト低め、年月の経過をイメージした設定です。
バイブラント (カラー)	ダイナミックよりさらに彩度高め、コントラスト高め、より鮮烈な色設定です。
スタンダード B&W (白黒)	標準的な設定です。
ダイナミック B&W (白黒)	コントラスト高めの設定です。
スムーズ B&W (白黒)	階調重視で、肌の質感を残す設定です。
MY FILM 1 (マイフィルム)	登録したフィルムを呼び出します。
MY FILM 2 (マイフィルム)	

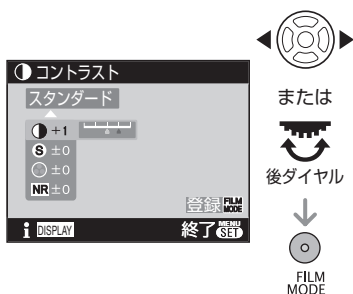
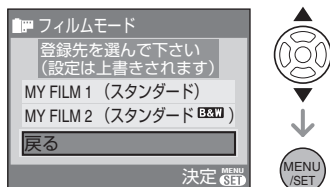
お知らせ

- フィルムモードでは、特有の画質を生成するため、カメラ内部で減感または増感に相当する処理を行うことがあります。その際は、シャッタースピードが通常と異なることがあります。
- [FILM MODE] ボタンを押すとライブビューに切り換わり、フィルムモードの設定ができます。その際は、ライブービューの露出や色調は、撮影結果と異なることがあります。

応用・撮る

■ 各フィルムモードの設定をお好みに応じて調整する

1 105 ページ手順 1 の画面で、▲/▼ または前ダイヤルで項目を選ぶ

2 ◀/▶ または後ダイヤルで調整し、[FILM MODE] ボタンを押す

3 ▲/▼ で項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 設定を 2 種類 ([MY FILM 1]、[MY FILM 2]) 登録できます。
  （登録後は、前回登録したフィルムモード名が表示されます）
- お買い上げ時は、[MY FILM1] にスタンダード、[MY FILM2] にスタンダード B&W（白黒）が登録されています。

4 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

項目		効果
コントラスト	＋	画像の明暗差を大きくします。
	－	画像の明暗差を小さくします。
シャープネス	＋	画像の輪郭を強調します。
	－	画像の輪郭を柔らかくします。
彩度	＋	派手で鮮やかな色になります。
	－	落ち着いた色になります。
ノイズリダクション	＋	ノイズリダクションの効果を強め、ノイズを軽減します。 解像感がわずかに低下する場合があります。
	－	ノイズリダクションの効果を弱め、より解像感のある画質を得ることができます。

○○お知らせ○○

- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、[ノイズリダクション] をプラス方向にするか、[ノイズリダクション] 以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。
- フィルムモードを調整すると、液晶モニターに表示されるフィルムモード名に「+」が表示されます。
- 白黒のフィルムモードは、[彩度] を調整できません。
- アドバンスシーンモード、シーンモード時はフィルムモードを調整することはできません。

MENU/SETを押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

つづく

画像アスペクト
画面の横縦比を設定する
(ライブビュー撮影時のみ)

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

アスペクト(画像の横縦比)を変えると、被写体に合わせて画角を選択できます。

- [LIVE VIEW] ボタンを押してライブビューに切り換えてから操作してください。(P61)

項目	効果
4:3	4:3 のテレビやパソコンの画面と同じ横縦比で撮影できます。
3:2	一般のフィルムカメラと同じ3:2 の横縦比で撮影できます。
16:9	風景など被写体のワイド感を表現したいときや、ワイドテレビ、ハイビジョンテレビなどで再生する場合に適しています。

お知らせ

- 撮影した画像は、プリント時に端が切れる場合がありますので、事前にご確認ください。(P161)

記録画素数 / クオリティ
用途に合わせて画素数、画質を設定する

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

デジタル画像は画素という点が集まって作られています。本機の液晶モニターではその違いはわかりませんが、画素が多いと大きな用紙にプリントしたときやパソコンの画面で見たときでも、きめ細かな画像になります。クオリティはデジタル画像を保存するときの圧縮率です。

画素が多い
(きめ細か)

画素が少ない
(粗い)

※画像は効果を説明するためのイメージです。

■ 記録画素数
大きい記録画素数 [L] (1000 万画素相当) に設定すると、より鮮明にプリントすることができます。
小さい記録画素数 [S] (300 万画素相当) に設定すると、データ容量が小さいのでより多くの画像が記録できます。

- 画像アスペクトによって、設定できる記録画素数は異なります。

応用・撮る

画像アスペクトが [4:3] のとき

項目	記録画素数
L	3648×2736 画素（1000 万画素相当）
M	2816×2112 画素（600 万画素相当）
S	2048×1536 画素（300 万画素相当）

画像アスペクトが [3:2] のとき（ライブビュー撮影時のみ）

項目	記録画素数
L	3648×2432 画素（900 万画素相当）
M	2816×1880 画素（530 万画素相当）
S	2048×1360 画素（280 万画素相当）

画像アスペクトが [16:9] のとき（ライブビュー撮影時のみ）

項目	記録画素数
L	3648×2056 画素（750 万画素相当）
M	2816×1584 画素（450 万画素相当）
S	1920×1080 画素（200 万画素相当）

■ クオリティ

クオリティをスタンダードに設定すると、記録画素数を変えずに記録可能枚数を増やすことができます。

項目	効果
（ファイン）	画質を優先し、高画質に記録します。（低圧縮）
（スタンダード）	記録可能枚数を優先し、画質は標準で記録します。（高圧縮）
RAW（RAW＋ファイン）	[RAW] の設定に加えて、ファインの JPEG 画像が同時に作られます。
RAW（RAW＋スタンダード）	[RAW] の設定に加えて、スタンダードの JPEG 画像が同時に作られます。
RAW（RAW）	パソコンで画像を高画質で加工したいときに設定します。各アスペクト設定の最大記録画素数に固定されます。 JPEG 画像は作られません。

- RAW ファイルを利用すると、より高度な画像の編集が可能です。編集した画像はパソコンなどで表示できるファイル形式（JPEG、TIFF など）で保存できます。
  RAW ファイルの現像や編集には、CD-ROM（付属）のソフトウェア（市川ソフトラボラトリーの「SILKYPIX Developer Studio」）をお使いください。

〇〇お知らせ〇〇

- ライブビュー撮影時に [EX 光学ズーム]（P110）を [ON] に設定している場合は、各画像アスペクトの [L] 以外の記録画素数に [EZ] が表示されます。EZ とは「Ex. optical Zoom」の略で、EX 光学ズームを表します。
- 記録可能枚数については、167 ページをお読みください。
- クオリティを [RAW+ ファイン]、[RAW+ スタンダード] または [RAW] に設定しているときは、以下の機能は使えません。
  ・EX 光学ズーム
  ・デジタルズーム
  ・リサイズ
  ・トリミング
  ・アスペクト変換

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

つづく

OIS モード
手ブレを補正して撮る

モードダイヤル設定：

手ブレを感知して補正します。

● レンズのOISスイッチが[ON]になっていることを確認してください。

項目	効果
MODE1 (1)	撮影モード時、常に手ブレを補正します。望遠などで構図を決めて撮影するときに安定して撮影することができます。
MODE2 (2)	シャッターボタンを押すと手ブレを補正します。より高い補正効果が得られます。
MODE3 (3)	上下の動きに対する手ブレを補正します。流し撮り（一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせて、本機を振りながら撮影する方法）するときに適しています。

○○お知らせ○○

● 以下の場合、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。
　・手ブレが大きいとき
　・ズーム倍率が高いとき
　・デジタルズーム使用時
　・動きのある被写体を追いながら撮影するとき
　・室内や薄暗い場所での撮影で、シャッタースピードが遅くなるとき
　シャッターボタンを押し込む際は、手ブレにお気をつけください。
● 以下の場合、[OIS モード] は選択できません。
　・手ブレ補正機能のないレンズを使用した場合
　・オートモード［A］時
● 以下の場合、[MODE3] での流し撮りの効果が出にくくなります。
　・夏の日中など、明るいところ
　・シャッタースピードが 1/100 より速い場合
　・被写体の動きが遅く、本機を振る速度があまりにも遅い場合（背景が流れません）
　・本機が被写体の動きにうまく追いつけていない場合
● [MODE3] での流し撮りは、ファインダー撮影をおすすめします。

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

EZ EX 光学ズーム 画像を劣化させずに拡大する（ライブビュー撮影時のみ）

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

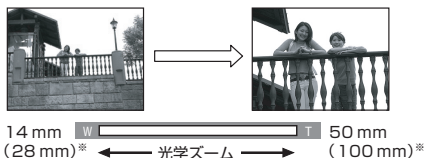
通常、DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. で光学ズームを使うと、50 mm（35 mm フィルムカメラ換算：100 mm）の焦点距離まで撮影できますが、各画像アスペクト（4:3 / 3:2 / 16:9）で [L] 以外の記録画素数設定時に、[EX 光学ズーム] を [ON] に設定すると、画質を劣化させずに最大焦点距離 89 mm（35 mm フィルムカメラ換算：178 mm）まで撮影することが可能になります。

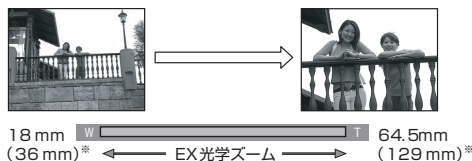
- [LIVE VIEW] ボタンを押してライブビューに切り換えてから操作してください。(P61)

■ EX 光学ズームの仕組み

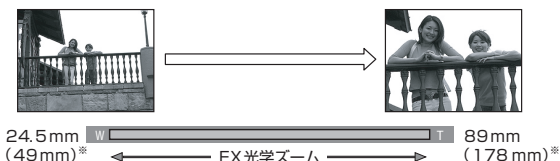
例えば [S EZ]（300 万画素相当）に設定すると、撮像素子の持つ 1000 万画素相当の領域のうち、300 万画素相当分の中央部を切り取って撮影するので、より望遠効果の高い写真が撮影できます。（※は 35 mm フィルムカメラ換算値です）

- EX光学ズーム［OFF］　例：[S]（300万画素相当）

14 mm（28 mm）※　W　T　50 mm（100 mm）※　光学ズーム

- EX光学ズーム［ON］　例：[M EZ]（600万画素相当）

18 mm（36 mm）※　W　T　64.5mm（129 mm）※　EX光学ズーム

- EX光学ズーム［ON］　例：[S EZ]（300万画素相当）

24.5 mm（49 mm）※　W　T　89 mm（178 mm）※　EX光学ズーム

つづく

■ 記録画素数とEX光学ズームの関係（※は35 mmフィルムカメラ換算値です）

アスペクト設定	記録画素数	EX光学ズームの倍率拡大分	DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S.の焦点距離
4:3	L（1000 万画素相当）	設定不可	14 mm ～ 50 mm（28 mm ～ 100 mm）※
3:2	L（900 万画素相当）		
16:9	L（750 万画素相当）		
4:3	MEZ（600 万画素相当）	1.3 倍	18 mm ～ 64.5 mm（36 mm ～ 129 mm）※
3:2	MEZ（530 万画素相当）		
16:9	MEZ（450 万画素相当）		
4:3	SEZ（300 万画素相当）	1.8 倍	24.5 mm ～ 89 mm（49 mm ～ 178 mm）※
3:2	SEZ（280 万画素相当）		
16:9	SEZ（200 万画素相当）		

◯◯(お知らせ)◯◯

- 画像アスペクト、記録画素数については 107 ページをお読みください。
- EZ とは「Ex. optical Zoom」の略で、EX 光学ズームを表します。
- EX 光学ズームは、デジタルズームより画質の劣化を気にすることなく、ズーム倍率を拡大することができます。
- [EX光学ズーム]を[ON]に設定すると、EX光学ズームが働く記録画素数に[EZ]が表示されます。
- クオリティを [RAW+ ファイン]、[RAW+ スタンダード] または [RAW] に設定すると、EX光学ズームは働きません。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合う前の状態で画像が一瞬静止することがありますが、故障ではありません。

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

デジタルズーム　さらに拡大する(ライブビュー撮影時のみ)

モードダイヤル設定: P A S M C SCN

光学ズーム（EX 光学ズーム含む）を使ったときの倍率から、さらに [2x] または [4x] に設定することができます。
DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ ASPH./MEGA O.I.S. では、最大焦点距離 200 mm（35 mm フィルムカメラ換算：400 mm）まで撮影することが可能になります。また、EX 光学ズームが働く記録画素数では、最大焦点距離 356 mm（35 mm フィルムカメラ換算：712 mm）まで撮影することが可能になります。

- [LIVE VIEW] ボタンを押してライブビューに切り換えてから操作してください。(P61)

※は 35 mm フィルムカメラ換算値です。

- [OFF]:

14 mm (28 mm)※ ←光学ズーム→ 50 mm (100 mm)※

- [2x]:

28 mm (56 mm)※ W ←デジタルズーム→ T 100 mm (200 mm)※

- [4x]:

56 mm (112 mm)※ W ←デジタルズーム→ T 200 mm (400 mm)※

■ デジタルズームと EX 光学ズームの併用

例：デジタルズーム [4x] と EX 光学ズーム [S EZ]（300 万画素相当）併用時

98 mm (196 mm)※ W ←デジタルズーム＋EX光学ズーム→ T 356 mm (712 mm)※

お知らせ

- デジタルズーム領域では、大きな AF エリア（P70）が表示されます。また、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。
- デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。
- デジタルズーム使用時は三脚を使用し、セルフタイマー（P86）を使って撮影することをおすすめします。
- 以下の場合、デジタルズームは働きません。
  - ・オートモード [A]
  - ・インテリジェント ISO を設定しているとき
  - ・アドバンスシーンモードの [人物]、[マクロ]、[スポーツ]
  - ・シーンモードの [赤ちゃん]、[ペット]
  - ・クオリティを[RAW＋ファイン]、[RAW＋スタンダード]または[RAW]に設定しているとき
- デジタルズーム使用時は、AF モードが 1 点に固定されます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合う前の状態で画像が一瞬静止することがありますが、故障ではありません。

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

フラッシュ
フラッシュの設定を切り換える

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

フラッシュの設定を切り換えることができます。
詳しくは、74 ページをお読みください。

フラッシュシンクロ
後幕シンクロに設定する

モードダイヤル設定：
P A S M C

後幕シンクロの設定をすることができます。
詳しくは、79 ページをお読みください。

フラッシュ光量調整
フラッシュの発光量を調整する

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

フラッシュの発光量を調整することができます。
詳しくは、78 ページをお読みください。

MENU/SETを押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

多重露出　画像を重ねて撮影する

モードダイヤル設定: P A S M C

1枚の画像に2回または3回の露光を行ったような効果を得ることができます。
- ライブビュー機能を使うと、写真全体の構図を確認しながら撮影できます。
- ファインダーで撮影する場合は、レビュー画像で構図を確認できます。
- 撮影間隔が長くなる場合は、パワーセーブの設定を確認し、途中で電源が切れないようにしてください。

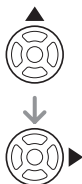
1 ▲で[開始]を選び、▶を押す

2 構図を決めて1枚目を撮影する

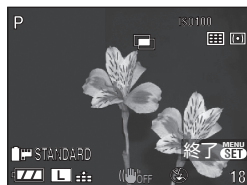
ファインダー撮影時

ライブビュー撮影時

1枚撮影後

- 撮影後、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影に進みます。

- ▲/▼で[次の撮影]、[撮り直し]または[完了]を選び、[MENU/SET]ボタンを押すと以下のようになります。
  - ・[次の撮影]：次の撮影に進む
  - ・[撮り直し]：1枚目の撮影に戻る
  - ・[完了]：1枚目の撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了する

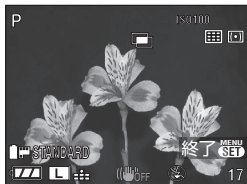
3 構図を決めて2枚目を撮影する

ライブビュー撮影時

- 撮影後、1枚目と2枚目の撮影画像が重なって表示されます。
- 撮影後、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影に進みます。

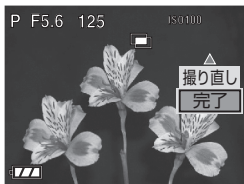
つづく

- ▲/▼ で [次の撮影]、[撮り直し] または [完了] を選び、[MENU/SET] ボタンを押すと以下のようになります。
  - ・[次の撮影]：次の撮影に進む
  - ・[撮り直し]：２枚目の撮影に戻る
  - ・[完了]：２枚目までの撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了する

4 構図を決めて 3 枚目を撮影する

ライブビュー撮影時

- 撮影後、1 枚目、2 枚目、3 枚目の撮影画像が重なって表示されます。
- ▲/▼ で [撮り直し] を選び、[MENU/SET] ボタンを押すと、3 枚目の撮影に戻ります。

5 ▼ で [完了] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

３枚撮影後

- **シャッターボタン半押しでも終了できます。**
- 3 枚目までの撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了します。

■ 自動ゲイン補正設定について

手順 1 の画面で［自動ゲイン補正］を選んで設定してください。

- [ON]： 撮影枚数に応じて明るさのレベルを調整して重ね合わせます。
- [OFF]：すべての露光結果をそのまま重ね合わせます。被写体によっては必要に応じて露出補正を行ってください。

○○お知らせ○○

- 多重露出で撮影した画像の撮影情報は、最後に撮影した画像の情報になります。
- 撮影時に[MENU/SET]ボタンを押すと、撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了します。
- 多重露出で撮影される場合は、レンズの OIS スイッチを [OFF] にし、三脚の使用をおすすめします。
- 以下の場合は、多重露出の設定が解除されます。
  - ・電源を [OFF] にしたとき（パワーセーブを含む）
  - ・カードを交換したとき
  - ・本機と USB 接続ケーブルを接続したとき
- 以下の機能が使えなくなるなど、一部、機能制限があります。
  - ・連写
  - ・オートブラケット撮影
  - ・EX 光学ズーム
  - ・デジタルズーム

MENU/SETを押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

連写速度
連写速度を設定する

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

連写時の速度を [H]（高速）または [L]（低速）から選択できます。
詳しくは、82 ページをお読みください。

オートブラケット
露出を自動的に変えながら撮る

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

シャッターボタンを押すごとに、露出の補正幅に従って露出を変えながら、3 枚撮影します。
露出の補正幅、撮影順序を設定することができます。
詳しくは、84 ページをお読みください。

セルフタイマー
セルフタイマーの時間を設定する

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

セルフタイマーの時間を 10 秒、10 秒/3 枚または2秒から選択できます。
詳しくは、86 ページをお読みください。

ミラーアップ
ミラーによる振動を防ぐ

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

セルフタイマー（P86）設定時に、ミラーによる振動を避け、カメラブレを防ぎます。
- [ON] に設定すると、セルフタイマーのカウントダウン前にミラーが上がります。ミラーアップによりカメラブレを防ぎます。
- [OFF] に設定すると、セルフタイマーのカウントダウン終了後、撮影時にミラーが上がります。

MENU/SET を押して撮影メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

色空間
色空間を設定して撮る

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

撮影した画像をパソコンの画面やプリンターなどで再現する場合に、色再現を正しく行うための方式を設定します。

項目	効果
sRGB	sRGB 色空間に設定します。パソコンを中心とした機器で広く使われています。
AdobeRGB	AdobeRGB 色空間に設定します。AdobeRGB 色空間は sRGB 色空間よりも色再現の範囲が広いため、主に商用印刷などの業務用途で使われています。

お知らせ

- 色空間の設定によって、撮影した画像のファイル名は以下のように変わります。

  P1000001.JPG
  P：sRGB
  _：AdobeRGB

- AdobeRGB についての専門的な知識がない方は、sRGB に設定してください。

NR 長秒ノイズ除去
ノイズを除去して撮る

モードダイヤル設定：
P A S M C SCN

[ON] に設定すると、夜景撮影など、シャッタースピードを遅くして撮影することで発生するノイズを、カメラが自動的に取り除き、きれいな画像を撮影することができます。
ノイズ除去中は、信号処理のために選択したシャッタースピードと同じ時間「しばらくお待ちください」と表示されます。
シャッタースピードを遅くして撮影する場合は、三脚の使用をおすすめします。

カスタムメニューを使う

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

カスタムメニューから、ボタンの働きや表示方法などの各機能を変更できます。また、変更した設定内容を登録しておくことができます。(P95)

- 必要に応じて設定してください。
- メニュー設定をお買い上げ時の状態に戻すには、セットアップメニューの[設定リセット]を実行してください。(P33)

MENU/SET を押してカスタムメニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

▶ はお買い上げ時の設定です。

カスタムセット登録(P95)

現在のカメラの設定内容を、カスタムセット 1/ カスタムセット 2/ カスタムセット 3 のいずれかに登録します。

▶ C1 SET1
C2 SET2
C3 SET3

AF/AE ロック切替

ピントや露出を固定して撮影する際に [AFL/AEL] ボタンの設定を [AE]、[AF] または [AF/AE] から選択できます。(P80)

▶ AE
AF
AF/AE

AF/AE ロック維持

▶ OFF：[AFL/AEL] ボタンを押している間だけピントや露出が固定されます。(P80)
[AFL/AEL] ボタンを離すと、ロックが解除されます。

ON：[AFL/AEL] ボタンを押したあと、離してもピントや露出が固定されます。
もう一度 [AFL/AEL] ボタンを押すと、ロックが解除されます。

感度上限設定(P93)

ISO 感度の上限設定をすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に最適な ISO 感度に変更します。

▶ OFF
200
400
800
1600

○○お知らせ○○

- ISO 感度を高い数値に設定するほど、被写体ブレをおさえる効果が得られますが、ノイズは増加します。
- 以下のモードのみ設定が有効です。
  - ・プログラム AE モード [P]
  - ・絞り優先 AE モード [A]
  - ・シャッター優先 AE モード [S]
  - ・カスタムモード [C]

を押してカスタムメニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

つづく

前後ダイヤル設定

前ダイヤルまたは後ダイヤルのダイヤル動作を設定することができます。

▶ 露出補正
露出補正
絞り
シャッタースピード

■ ダイヤル動作について

[露出補正] 選択時

後ダイヤルに露出補正を優先的に割り当てた設定

P	プログラムシフト	露出補正
A	絞り	
S	シャッタースピード	
M	絞り	シャッタースピード
SCN	–	露出補正
/ / / /	アドバンス選択等	

[露出補正] 選択時

前ダイヤルに露出補正を優先的に割り当てた設定

P	露出補正	プログラムシフト
A		絞り
S		シャッタースピード
M	シャッタースピード	絞り
SCN	露出補正	–
/ / / /		アドバンス選択等

[絞り] 選択時

後ダイヤルに絞りを優先的に割り当て、他は露出補正とした設定

P	プログラムシフト	露出補正
A	露出補正	絞り
S	シャッタースピード	露出補正
M		絞り
SCN	–	露出補正
/ / / /	アドバンス選択等	

[シャッタースピード] 選択時

後ダイヤルにシャッタースピードを優先的に割り当て、他は露出補正とした設定

P	プログラムシフト	露出補正
A	絞り	
S	露出補正	シャッタースピード
M	絞り	
SCN	–	露出補正
/ / / /	アドバンス選択等	

フォーカス優先

OFF：シャッターチャンスを優先させるため、シャッターボタンを全押しすると、撮影されます。

▶ ON：ピントが合うまで撮影できません。

お知らせ

- [OFF] に設定すると、フォーカスモードを [AFS] または [AFC] に設定していても、ピントが合っていない場合がありますのでお気をつけください。

MENU/SET を押してカスタムメニューを表示し、設定する項目を選んでください。（P30）

AF 補助光

撮影場所が暗くピントが合いにくいときに、光を当ててピントを合わせやすくすることができます。

OFF：AF 補助光は光りません。
▶ ON：暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたときに、AF 補助光（フラッシュまたは AF 補助光ランプ）が光ります。

○○お知らせ○○

- ファインダー撮影時やライブビュー撮影の位相差 AF 時にフラッシュを使用しているときは、フラッシュが AF 補助光として光ります。フラッシュを閉じている時は、AF 補助光は働きません。（AF 補助光ランプも光りません）
- ライブビュー撮影のコントラスト AF 時は、フラッシュを使用していても AF 補助光ランプが光ります。
  補助光の有効距離は約 1.0 m ～約 3.0 m です。
  [DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着、W 端時]
- AF 補助光使用時は以下の点にお気をつけください。
  ・近くで発光部を見ない
  ・レンズフードを付けない
  ・AF 補助光ランプを指などでふさがない
- 暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所で AF 補助光を光らせたくない場合は、[OFF] に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。
- オートモード［A］では、[ON] に固定されます。
- AF 補助光ランプを隠す大口径レンズをお使いの場合は、補助光がケラレるため、十分な性能を発揮できないことがあります。
- [風景] モード、[夜景&人物] モードの [夜景]、[イルミネーション]、[クリエイティブ夜景]、シーンモードの [夕焼け] では、[OFF] に固定されます。

AF+MF

[ON] に設定すると、AF ロックしている間（シャッターボタン半押しまたは [AFL/AEL] ボタンでの AF ロック）にフォーカスリングを回して手動でピントを微調整することができます。

▶ OFF
ON

AF-LED 表示

[ON] に設定すると、ファインダー内の AF フレームのピントが合った場所にランプが点灯します。（P41）

OFF
▶ ON

LIVE VIEW 時 AF

ライブビュー撮影時のオートフォーカスの方式を設定します。
[コントラスト AF アイコン] に設定すると、AF モード設定で顔認識などを選択できます。（P69）
また、ファインダー撮影と同じ位相差 AF に設定することもできます。

[位相差 AF アイコン]：位相差 AF
▶ [コントラスト AF アイコン]：コントラスト AF

○○お知らせ○○

- コントラスト AF（P67）に対応していないレンズをお使いの場合（P16）は、カスタムメニューの [LIVE VIEW 時 AF]（P120）をコントラスト AF［コントラスト AF アイコン］に設定していても、自動で位相差 AF［位相差 AF アイコン］（P68）に切り換わります。

MENU/SET を押してカスタムメニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P30)

ピクセルリフレッシュ

撮像素子と画像処理の最適化を行います。お買い上げ時は最適な状態に設定されていますので、お買い上げ後、1 年に一度を目安に行ってください。
終了後は、電源を入れ直してください。

表示設定

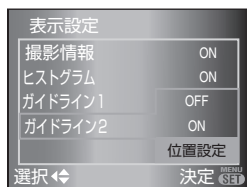
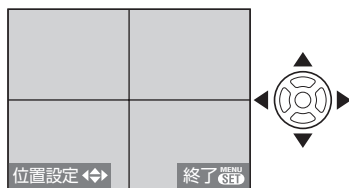
ライブビュー撮影時の液晶モニターに表示させる情報を設定します。
[DISPLAY]ボタンを押して液晶モニターの表示を切り換えると、[ON] に設定した情報のみが表示されます。(P62)

撮影情報	OFF	▶ ON	
ヒストグラム	OFF	▶ ON	
ガイドライン1	OFF	▶ ON	
ガイドライン2	OFF	▶ ON	位置設定

■ [ガイドライン 2]で位置設定をする

[ガイドライン 2] では、あらかじめラインの位置を設定しておくことができます。

1 ▼ で [ガイドライン 2] を選び、▶ を押す

2 ▼ で [位置設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼/◀/▶ でラインを設定する

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでも設定できます。

4 [MENU/SET] ボタンを押して終了する

- ライブビュー撮影の画面に切り換わります。

メニュー位置メモリー

[ON] に設定すると、電源を [OFF] にしても最後に操作したメニューの位置を記憶しています。

OFF
▶ ON

レンズ無しレリーズ

[OFF] に設定すると、本体にレンズを取り付けていないときやレンズが正しく取り付けられていないときには、シャッターが切れません。

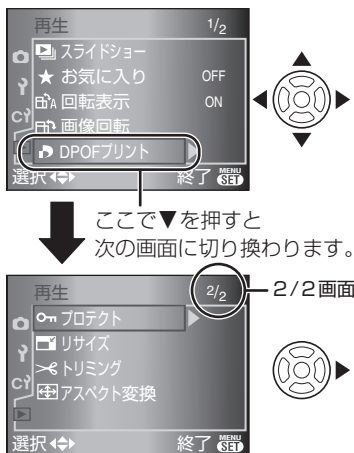
▶ OFF
ON

再生メニューを使う

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

撮影した画像の回転表示やプロテクト設定など、いろいろな再生機能を使うことができます。

1 **[MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する**

2 **▲/▼/◀/▶ で再生メニュー [▶] の設定したい項目を選び、▶ を押す**

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルでもメニュー項目を選択することができます。
- **手順 1、2 の操作を行ったあとは、各メニュー項目の説明ページを読んで設定を行ってください。**

設定できる項目

画面	項目
1/2 画面	スライドショー（P123）
	★ お気に入り（P124）
	回転表示（P125）
	画像回転（P125）
	DPOF プリント(P127)
2/2 画面	プロテクト（P129）
	リサイズ（P131）
	トリミング（P132）
	アスペクト変換（P133）

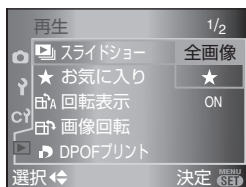
- [リサイズ]、[トリミング]または[アスペクト変換] 時は、編集した画像を新しく作成します。カードの空き容量がない場合には、新しい画像を作成することができませんので、容量に余裕があることを確認してから画像の編集を行うことをおすすめします。

MENU/SET を押して再生メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P122)　つづく

スライドショー　画像を一定間隔で順番に再生する

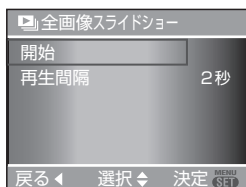
テレビに接続して画像を見るときにおすすめの再生方法です。[お気に入り] 設定（P124）しておけば不要な画像を飛ばして見ることができます。

- [お気に入り]を[ON]に設定しているときは 1 から、[OFF] に設定しているときは2から操作をしてください。

1 ▲/▼ で [全画像] または [★] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

全画像：すべての画像を表示します。
★：　お気に入り設定した画像（P124）のみ表示します。

- [お気に入り]を[ON]に設定していても、[★] の付いた画像が 1 枚もない場合は、[★] を選択できません。

2 ▲ で [開始] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

([全画像] 選択時の画面)

- スライドショー中、またはスライドショー一時停止中、[MANUAL] スライドショー中に表示されるカーソルは、▲/▼/◀/▶ に対応しています。

スライドショー中

スライドショー一時停止中

[MANUAL] スライドショー中

- スライドショー中に ▲ を押すと、一時停止します。もう一度 ▲ を押すと一時停止が解除されます。
- 一時停止中に ◀/▶ を押すと前後の画像を表示できます。

3 ▼ を押してスライドショーを終了する

■ 再生間隔の設定について

2の画面で［再生間隔］を選んで設定してください。

再生間隔：　1、2、3、5 秒、MANUAL（マニュアル）（手動再生）の中から設定できます。

- [MANUAL] は、1 の画面で [★] を選んだときのみ選択できます。
- [MANUAL] を選んだ場合は、◀/▶ を押して前後の画像を表示してください。

○○(お知らせ)○○

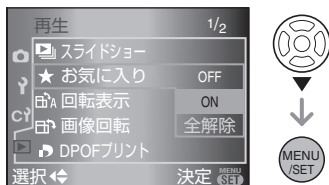
- スライドショー中は、パワーセーブは働きません。（ただし、スライドショー一時停止中または [MANUAL] スライドショー中は10 分固定でパワーセーブが働きます）

MENU/SETを押して再生メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P122)

★ お気に入り　お気に入りの画像を設定する

画像にマークを付け、お気に入り画像として設定しておくと、以下のことができます。

- お気に入りに設定した画像以外を削除する。([★以外全削除])(P56)
- お気に入りに設定した画像のみスライドショーする。(P123)

1 ▼で[ON]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- [OFF]に設定するとお気に入り設定できません。また、すでにお気に入り設定をしている場合も、お気に入り表示[★]は表示されません。
- [★]の付いた画像が1枚もない場合は、[全解除]を選択できません。

2 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

3 ◀/▶で画像を選び、▲で設定する

- この手順を繰り返します。
- お気に入り表示[★]が表示されているときに▲を押すと、[★]が消え、お気に入り設定が解除されます。
- お気に入り設定は999枚まで設定できます。

■ お気に入り設定を全解除する

❶ 1の画面で[全解除]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

❷ ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

❸ [MENU/SET]ボタンを押してメニューを終了する

○○お知らせ○○

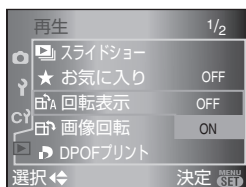
- お店にプリントを依頼するときに、[★以外全削除](P56)の機能を利用すると、プリントに出したい画像だけをカードに残しておけるので便利です。
- CD-ROM(付属)のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」または「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使って、お気に入りの画像の設定や確認、解除をすることができます。[詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書(PDFファイル)をお読みください]
- 他機で撮影された画像では、お気に入り設定ができない場合があります。
- [クオリティ]を[RAW]にして撮影された画像は、お気に入りに設定できません。

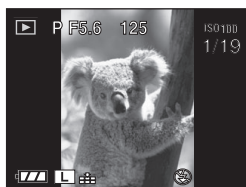
つづく

回転表示 / 画像回転　画像を回転して表示する

本機を縦に構えて撮影した画像を自動で縦向きに表示させたり、画像を手動で90°ごとに回転させることができます。

■ 回転表示（画像を自動で回転して表示する）

1 ▼ で [ON] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● [OFF]に設定すると画像は回転されずに表示されます。

2 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

● 本機を縦に構えて撮影した画像が自動で縦向きに表示されます。

■ 画像回転（画像を手動で回転させる）

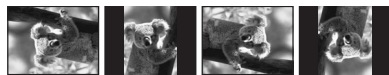
1 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

● [回転表示] が [OFF] になっていると、画像回転できません。
● プロテクトされた画像は回転できません。

2 ▲/▼で回転方向を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

↷ : 時計回りに 90° 回転します。
↶ : 反時計回りに90° 回転します。

3 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

■ 画像回転の例
[時計回り(↷)の場合]

0°（元画像）　90°　180°　270°

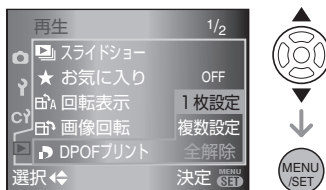
◯◯お知らせ◯◯

- [回転表示]を[ON]にしていると､本機を縦に構えて撮影したときに縦向き（回転されて）に表示されます。
  （縦位置検出機能（P38）に対応したレンズ（P16）を使用しているときのみ使えます）
- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、画像を縦向きに表示できない場合があります。（P38）
- ビデオケーブル（付属）を使用して本機をテレビに接続し、画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- パソコンで再生するとき、Exif に対応した OS またはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。[Exif とは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです]
- 回転された画像を再生または再生ズームした場合は回転表示されますが、マルチ再生で再生した場合は、回転表示はされません。
- 他機で撮影された画像は回転できない場合があります。

つづく

DPOF プリント　プリントしたい画像と枚数を設定する

DPOF プリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。

▲/▼で[1枚設定]、[複数設定]または [全解除] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- DPOF プリント設定された画像が 1 枚もない場合は、[全解除] を選択できません。

■ [1 枚設定] 選択時

1 ◀/▶ で画像を選び、▲/▼ でプリント枚数を設定する

- プリント枚数は 0 ～ 999 枚まで設定できます。このとき、プリント枚数を 0 にすると、DPOF プリント設定が解除されます。

2 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

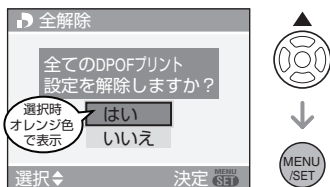
■ [複数設定] 選択時

1 ◀/▶ で画像を選び、▲/▼ でプリント枚数を設定する

- この手順を繰り返します。(一括設定することはできません)
- プリント枚数は 0 ～ 999 枚まで設定できます。このとき、プリント枚数を 0 にすると、DPOF プリント設定が解除されます。

2 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

■ [全解除] 選択時

1 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、[DISPLAY] ボタンを押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

- お店にデジタルプリントを依頼するときは、日付プリントすることをお店に別途指定してください。
- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

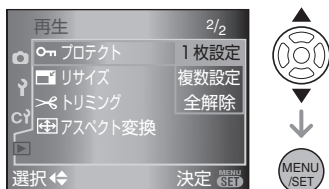
◯◯(お知らせ)◯◯

- DPOF とは Digital Print Order Format の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるようにプリント情報を書き込むことができるようにしたものです。
- DPOF プリント設定すると、PictBridge 対応のプリンターで出力するときにも便利です。日付プリントの設定は、プリンター側の設定が優先される場合がありますので、プリンター側の日付プリント設定も確認してください。(P137)
- 他機で設定されたDPOF情報は利用することができない場合があります。その場合、DPOF 情報を全て解除してから本機で再度設定してください。
- DCF規格に準拠していないファイルはDPOFプリント設定できません。
  [DCF とは Design rule for Camera File system の略で、(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) のファイルシステム規格に準拠した記録方式です]
- [クオリティ] を [RAW] にして撮影された画像は、DPOF プリントできません。

つづく

プロテクト　画像の誤消去を防止する

画像を誤って削除することがないように、削除したくない画像にプロテクトを設定することができます。

▲/▼で[1枚設定]、[複数設定]または [全解除] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

■ [1枚設定] 選択時

1 ◀/▶ で画像を選び、▼ で設定 / 解除する

設定：プロテクト表示が出ます。
解除：プロテクト表示が消えます。

2 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

■ [複数設定] 選択時

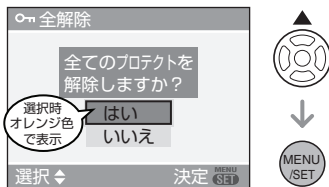
1 ◀/▶ で画像を選び、▼ で設定 / 解除する

設定：プロテクト表示が出ます。
解除：プロテクト表示が消えます。

● この手順を繰り返します。

2 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

■ [全解除] 選択時

1 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● 全解除中に[MENU/SET]ボタンを押すと途中で全解除が中止されます。

2 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

応用・見る

◯◯(お知らせ)◯◯

- プロテクト設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気をつけください。
- プロテクトされた画像は削除できません。ファイルを削除したいときは、プロテクト設定を解除してください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。（P35）
- プロテクト設定をしていなくても、SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、画像の削除はできません。

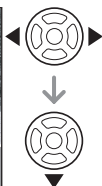
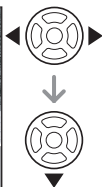
書き込み禁止
スイッチ

- 画像をプロテクトすると画像回転できません。

つづく

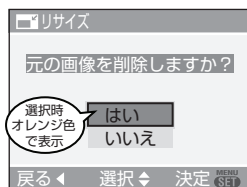
リサイズ　画像サイズ(画素数)を小さくする

撮影した画像の容量を小さくすることができます。

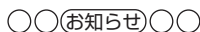
1 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

2 ◀/▶ でサイズを選び、▼ を押す

- 撮影した画像のサイズよりも、小さなサイズが表示されます。

画像アスペクト	記録画素数
4:3	M / S
3:2	M / S
16:9	M / S

- 「元の画像を削除しますか？」とメッセージが表示されます。

3 ▲/▼ で [はい] または [いいえ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [はい]を選ぶと画像が上書きされます。リサイズされた画像が上書きされると、元に戻すことができません。
- [いいえ]を選ぶとリサイズされた画像が新しく作成されます。
- 元の画像がプロテクトされている場合は上書きできません。[いいえ]を選んでリサイズされた画像を新しく作成してください。

4 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

〇〇お知らせ〇〇

- 以下の画像はリサイズできません。

画像アスペクト	記録画素数
4:3	S
3:2	S
16:9	S

・[RAW+ ファイン]、[RAW+ スタンダード] または [RAW] で撮影された画像

- Eメール添付やホームページ用に、さらに画像を小さくしたい場合は、CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」でサイズの変更を行ってください。
- 他機で撮影された画像はリサイズできない場合があります。

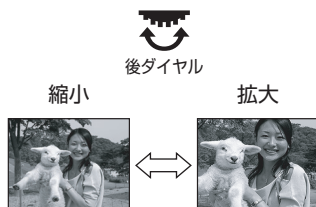
MENU/SET を押して再生メニューを表示し、設定する項目を選んでください。(P122)

トリミング　画像を拡大して切り抜く

撮影した画像の必要な部分を拡大して切り抜くことができます。

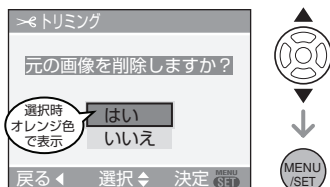
1 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

2 後ダイヤルと ▲/▼/◀/▶ で切り抜く部分を選ぶ

縮小　　拡大

位置を移動

3 シャッターボタンを押す

- 「元の画像を削除しますか？」とメッセージが表示されます。

4 ▲/▼ で [はい] または [いいえ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [はい] を選ぶと画像が上書きされます。トリミングされた画像が上書きされると、元に戻すことができません。
- [いいえ] を選ぶとトリミングされた画像が新しく作成されます。
- 元の画像がプロテクトされている場合は上書きできません。[いいえ] を選んでトリミングされた画像を新しく作成してください。

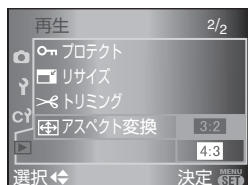
5 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

○○お知らせ○○

- 以下の画像はトリミングできません。
  ・[RAW+ ファイン]、[RAW+ スタンダード] または [RAW] で撮影された画像
- トリミングを行うと、切り取るサイズによっては元の画像より記録画素数が小さくなる場合があります。
- トリミングを行うと画質が劣化します。
- 他機で撮影された画像はトリミングできない場合があります。

アスペクト変換　16:9 の画像の横縦比を変える

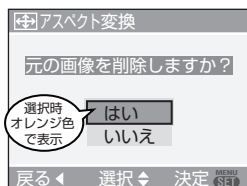
[16:9] で撮影した画像を、プリント用に [3:2] または [4:3] に変換することができます。

1 ▲/▼ で [3:2] または [4:3] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

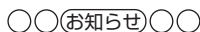
- [16:9] 以外の画像を選んで決定すると、「この画像には設定できません」とメッセージが表示されます。

3 ◀/▶ で左右の位置を決定し、シャッターボタンで決定する

- 縦に回転されている画像は▲/▼で枠移動を行い決定します。
- 「元の画像を削除しますか？」とメッセージが表示されます。

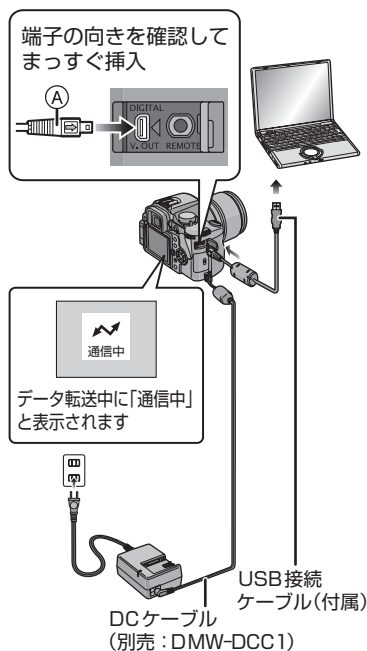
4 ▲/▼ で [はい] または [いいえ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [はい] を選ぶと画像が上書きされます。アスペクト変換された画像が上書きされると、元に戻すことができません。
- [いいえ] を選ぶとアスペクト変換された画像が新しく作成されます。
- 元の画像がプロテクトされている場合は上書きできません。[いいえ] を選んでアスペクト変換された画像を新しく作成してください。

5 [MENU/SET] ボタンを 2 回押してメニューを終了する

○○(お知らせ)○○

- 以下の画像はアスペクト変換できません。
  ・[RAW+ ファイン]、[RAW+ スタンダード] または [RAW] で撮影された画像
- DCF 規格に準拠してないファイルはアスペクト変換できません。
  [DCF とは Design rule for Camera File system の略で、(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) のファイルシステム規格に準拠した記録方式です]
- 他機で撮影された画像はアスペクト変換できない場合があります。

パソコンと接続する

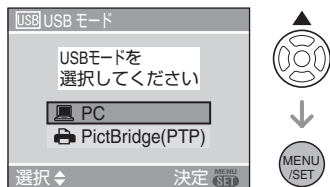
モードダイヤル設定：

本機をパソコンと接続すると、画像を取り込むことができます。
また、CD-ROM（付属）のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」または「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」（Windows® 用）を使うと、パソコンに画像を取り込んで印刷したり、メールで送ることが簡単にできます。
Windows 98/98SE をご使用の方のみ、USB ドライバーのインストールを行ってから接続してください。
CD-ROM（付属）のソフトウェアやインストールなど詳しくは、別冊の「パソコン接続編取扱説明書」をお読みください。

- 十分に充電されたバッテリー（P23）または AC アダプター（P147）を使用してください。
- 本機の電源を [OFF] にしてから、AC アダプター（P147）のケーブルを抜き差ししてください。

1 本機とパソコンの電源を入れる

2 USB 接続ケーブル（付属）で、本機とパソコンを接続する

- USB 接続ケーブルの [➡] マークが端子部の [◀] マークに合うように接続してください。
- USB 接続ケーブルは、Ⓐ 部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。（斜めや裏向きにして無理に挿入すると、端子が変形して本機や接続する機器の故障の原因になります）

3 ▲ で [PC] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- セットアップメニューで[USBモード] を [PC] に設定しておくと、接続のたびに設定する必要はありません。（P34）

- [USBモード]を[PictBridge(PTP)]にして接続した場合、パソコンの画面にメッセージが表示される場合があります。[キャンセル]（中止）を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。[USB モード] を [PC] に設定し直してください。

Windows の場合

[マイ コンピュータ] フォルダーにドライブが表示されます。

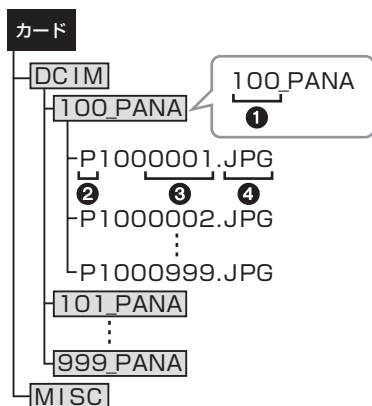
- はじめて接続したときは、Windows のプラグアンドプレイにより、本機を認識するために必要なドライバーが自動的にインストールされ、そのあと [マイ コンピュータ]フォルダーにドライブが表示されます。

Macintosh の場合

画面上にドライブが表示されます。

- 画面上に [NO_NAME] または [名称未設定] と表示されます。

■ フォルダー構造について

フォルダーは下図のように表示されます。

❶ フォルダー番号
❷ 色空間
P：sRGB
_：AdobeRGB
❸ ファイル番号
❹ JPG ：画像
RAW ：RAW ファイルの画像

MISC： DPOF プリント
お気に入り

各フォルダーの内容は以下のとおりです。

DCIM	100_PANA ～ 999_PANA
100_PANA～ 999_PANA	画像 / RAW ファイルの画像
MISC	DPOF 設定が記録されたファイル/お気に入り

- 本機で記録した場合は、１つのフォルダーにつき最大999枚の画像データが入ります。それを超えると次のフォルダーが作成されます。
- ファイル番号やフォルダー番号をリセットする場合は、セットアップメニューの [番号リセット] を行ってください。（P33）

■ フォルダー番号が変更される条件について

下記の条件で撮影を行った場合、画像ファイルは直前に記録されたフォルダーとは異なる、新しい番号のフォルダーの中に記録されます。

1 直前に記録されたフォルダーの中にファイル番号999の画像ファイル(例:P1000999.JPG)がある場合。
2 直前に記録されたカードの中に、例えばフォルダー番号 100 のフォルダー(100_PANA)があるときに、そのカードを抜いて新たに他社のカメラで撮影した、フォルダー番号 100 の フォルダー(100XXXXX、XXXXXはメーカー名など)があるカードを挿入して撮影した場合。
3 セットアップメニューから[番号リセット](P33)を選び、実行したあとに撮影した場合。(直前に記録されたフォルダーの続きの番号の新しいフォルダーに記録されます。フォーマット直後など、カードの中にフォルダーや画像がない状態で [番号リセット] を実行すると、フォルダー番号を 100 に戻すこともできます。)

■ PictBridge(PTP)設定について

Windows XP、Windows Vista、Mac OS X のみ [USB モード] を [PictBridge (PTP)] にしても接続できます。

- 本機からは、画像の読み出しのみ行うことができます。カードへの書き込みや、削除はできません。
- カードの中に 1000 枚以上画像があると、取り込めない場合があります。

〇〇(お知らせ)〇〇

- 付属の USB 接続ケーブル以外は使わないでください。
- 「通信中」と表示されている間は、USB 接続ケーブルを抜かないでください。
- 通信中にバッテリー残量がなくなると、データが破壊される恐れがあります。接続するときは十分に残量のあるバッテリー(P23)または AC アダプター(P147)を使用してください。
- 通信中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し警告音が鳴りますので、すぐにパソコン側で通信を中止してください。
- **Windows 2000 を使用して USB 接続した場合には、接続したままでカードの交換を行わないでください。カード内の情報を破壊する恐れがあります。カードの交換をするときは、パソコン側でタスクトレイの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」の操作を行ってください。**
- パソコンで回転された画像や編集された画像は、再生モード時(P54)、マルチ再生時(P59)、カレンダー再生時(P60)に黒く表示されることがあります。
- 詳しくは、別冊の「パソコン接続編取扱説明書」をお読みください。
- パソコンの説明書もお読みください。

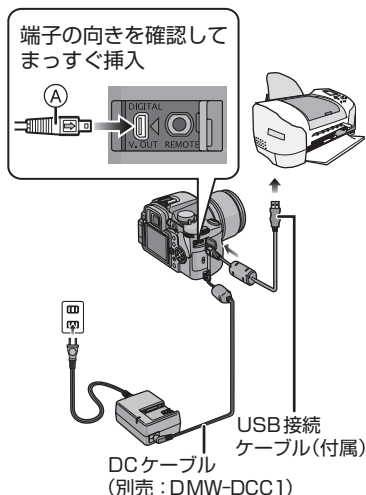
プリントする

つづく

PictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンターに接続してプリントする

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

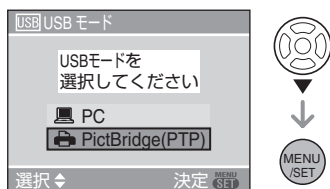
USB 接続ケーブル（付属）を使って本機を PictBridge に対応したプリンターに直接接続し、本機の液晶モニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。
あらかじめプリンター側で印字品質などのプリントの設定をしてください。（プリンターの説明書をお読みください）

■ 接続する

- プリントに時間がかかる場合がありますので、接続するときは十分に充電されたバッテリー（P23）または AC アダプター（P147）を使用してください。
- 本機の電源を [OFF] にしてから、AC アダプター（P147）のケーブルを抜き差ししてください。

1 本機とプリンターの電源を入れる

2 USB 接続ケーブル（付属）で、本機とプリンターを接続する

- USB 接続ケーブルの [➡] マークが端子部の [◀] マークに合うように接続してください。
- USB 接続ケーブルは、Ⓐ 部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。

3 ▼ で [PictBridge (PTP)] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- セットアップメニューで [USB モード] を [PictBridge (PTP)] に設定しておくと、接続のたびに設定する必要はありません。（P34）

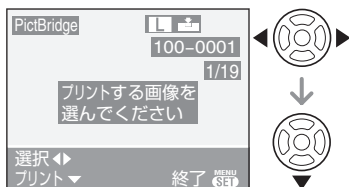
○○お知らせ○○

- 付属の USB 接続ケーブル以外は使わないでください。

- シーンモードの[赤ちゃん]や[ペット]の月齢/年齢をプリントしたい場合は、CD-ROM（付属）のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」または「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使ってパソコンからプリントしてください。

■ 選択画像

1 ▲で[選択画像]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

- メッセージは約 2 秒後に消えます。

3 ▲ で [プリント開始] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 途中でプリントを中止したい場合は[MENU/SET]ボタンを押してください。

4 プリント終了後、USB 接続ケーブルを抜く

■ 日付プリント、プリント枚数、用紙サイズ、レイアウトの設定について

3の画面でそれぞれの項目を選んで設定してください。

- プリンターが対応していない項目はグレーで表示され、選択することができません。
- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定でプリントしたい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を [🖶] にして、プリンター側で設定してください。（詳しくは、プリンターの説明書をお読みください）

日付プリント

🖶	プリンターの設定が優先されます。
OFF	日付プリントされません。
ON	日付プリントされます。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。

プリント枚数

プリントする枚数を設定してください。

つづく

用紙サイズ

（本機で設定可能な用紙サイズ）
1/2と2/2に分かれて表示されます。
▼を押して選択してください。

1/2	
🖶	プリンターの設定が優先されます。
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm
はがき	100 mm×148 mm
A4	210 mm×297 mm

2/2 ※	
カード	54 mm×85.6 mm
10×15cm	100 mm×150 mm
4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
8″×10″	203.2 mm×254 mm
レター	216 mm×279.4 mm

※プリンターが対応していない場合は、これらの項目は表示されません。

レイアウト

（本機で設定可能なレイアウト）

🖶	プリンターの設定が優先されます。
	1面ふちなし印刷
	1面ふちあり印刷
	2面印刷
	4面印刷

- プリンターが対応していない場合は、選択できない項目があります。

■ DPOF

- あらかじめ本機でDPOFプリントの設定をしておく。（P127）

1 ▼で[DPOF]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ▲で[プリント開始]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- DPOFプリントの設定をしていない場合は、[プリント開始]を選択できません。[DPOF設定]を選び、DPOFプリントの設定をしてください。（P127）
- 途中でプリントを中止したい場合は[MENU/SET]ボタンを押してください。

3 プリント終了後、USB接続ケーブルを抜く

■ レイアウト印刷について

- **１枚の用紙に同じ画像を印刷する場合**
  例えば、１枚の用紙に同じ画像を４枚印刷する場合、[レイアウト] を 4 面印刷 [ ] に設定し、印刷したい画像の [プリント枚数]を４枚に設定してください。
- **１枚の用紙に異なる画像を印刷する場合 (DPOF プリントのみ)**
  例えば、１枚の用紙に異なる画像を 4 枚印刷する場合、[レイアウト]を4面印刷[ ]に設定し、DPOF プリント設定 (P127) で４つの画像の [プリント枚数] を 1 枚に設定してそれぞれ選択してください。

〇〇(お知らせ)〇〇

- ケーブル切断禁止アイコン [ ] が表示されているときは、USB 接続ケーブルを抜かないでください。(プリンターによって表示されない場合があります)
- 接続中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し警告音が鳴ります。プリント中の場合は、[MENU/SET] ボタンを押して、すぐにプリントを中止してください。プリント中以外のときは、USB 接続ケーブルを抜いてください。
- プリント中にオレンジ色の[●]のアイコンが表示されているときは、プリンターからエラーメッセージを受け取っています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- DPOF プリントでは、プリント枚数の合計やプリント設定された画像が多い場合、複数回に分けてプリントされることがあります。このとき、残り枚数の表示が設定枚数と異なりますが、故障ではありません。
- 日付プリントの設定は、プリンター側の設定が優先される場合がありますので、プリンター側の日付プリント設定も確認してください。
- RAW ファイルをプリントする場合、本機で同時に記録されたJPEG画像がプリントされます。JPEG 画像がない場合はプリントできません。

日付プリントについて

日付プリントを設定する

DPOFプリント設定のプリント枚数設定時に[DISPLAY]ボタンを押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

お店に依頼する場合

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。(シーンモードの[赤ちゃん]や[ペット]の月齢/年齢のプリントはお店では依頼できません)

自宅でプリントする場合

日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、プリントするだけで日付プリントができます。

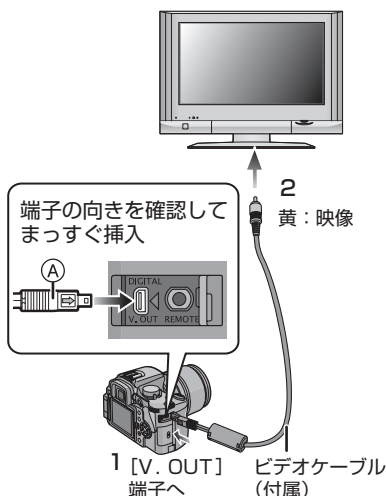
> CD-ROM (付属) のソフトウェア「LUMIX Simple Viewer」または「PHOTOfunSTUDIO-Viewer-」をお使いの場合は、印刷設定で日付入りに設定すると日付および [赤ちゃん] や [ペット] の月齢/年齢をプリントできます。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書 (PDFファイル) をお読みください。

※日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

テレビで見る

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

■ ビデオケーブル(付属)を使って見る

- ［TV アスペクト］を設定する。（P34）
- 本機の電源を[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

1 本機の［V. OUT］端子にビデオケーブルを確実に接続する

- ビデオケーブルの［➡］マークが端子部の［◀］マークに合うように接続してください。
- ビデオケーブルは、Ⓐ部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。

2 テレビの映像入力端子にビデオケーブルを接続する

3 テレビの電源を入れ、外部入力にする

4 本機の電源を［ON］にし、［▶］ボタンを押す

〇〇お知らせ〇〇

- 付属のビデオケーブル以外は使わないでください。
- ［▶］ボタンを押して、液晶モニターに画像を表示しているときのみ、テレビに画像を表示させることができます。
- テレビの特性上、画像の上下や左右が多少切れて表示されます。
- ワイドテレビやハイビジョンテレビに接続した場合、テレビ側の画面モードの設定によって、画像が縦や横に伸びたり、画像の上下や左右が切れて表示されることがありますので、その場合は画面モードの設定を変更してください。
- テレビの説明書もお読みください。
- 画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- 画面が流れたり色が付かない場合は、［ビデオ出力］が［NTSC］に設定されているか確認してください。（P34）
- 海外で見るときは 148 ページをお読みください。

■ SD カードスロット付テレビで見る

SD カードスロット付テレビに撮影した SD メモリーカードを入れて、静止画を再生することができます。

〇〇お知らせ〇〇

- テレビの機種によって、画像がテレビの全画面で表示されないことがあります。
- マルチメディアカードは再生できないことがあります。

別売品のご紹介

品番／品名	
品番： DMW-BLA13 **品名：** バッテリーパック	
品番： DMW-FL500 DMW-FL360 **品名：** フラッシュライト	
品番： DMW-LMCH67 **品名：** MC プロテクター※	
品番： DMW-LPL67 **品名：** PL フィルター※ （サーキュラータイプ）	
品番： DMW-RSL1 **品名：** シャッターリモコン	
品番： DMW-BAL1 **品名：** 本革バッグ	

品番／品名	
品番： DMW-SSTL1 **品名：** ショルダーストラップ	
品番： DMW-DCC1 **品名：** DC ケーブル	
品番： L-ES014050 L-X025 **品名：** 交換レンズ （その他、使用できるレンズについては 16 ページをお読みください）	

※ MC プロテクターまたは PL フィルターは DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. でお使いください。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

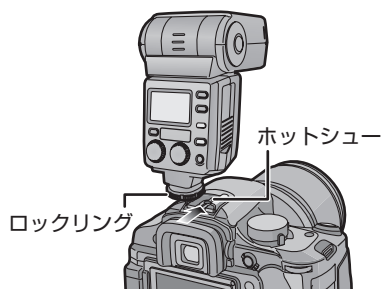
http://www.sense.panasonic.co.jp/

外部フラッシュを使う

つづく

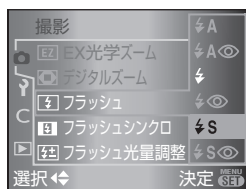
外部フラッシュを使うと、内蔵フラッシュに比べてフラッシュ撮影可能範囲が広がります。

■ 専用フラッシュライト(別売:DMW-FL500)を使う場合

1 ホットシューに専用フラッシュライトを取り付け、本機と専用フラッシュライトの電源を入れる

● 専用フラッシュライトのロックリングは、確実に締め込んでください。

2 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを表示する

3 ▲/▼/◀/▶ で撮影メニュー［📷］の［フラッシュ］を選び、▶ を押す

4 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

⚡ ：外部フラッシュ強制発光
⚡S ：外部フラッシュスローシンクロ

5 [MENU/SET] ボタンを押して、メニューを終了する

● シャッターボタン半押しでも終了できます。

■ 本体（DMC-L10）との通信機能のない市販の外部フラッシュを使う場合

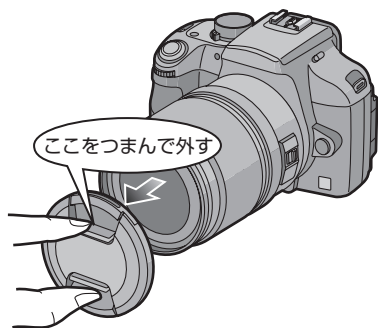
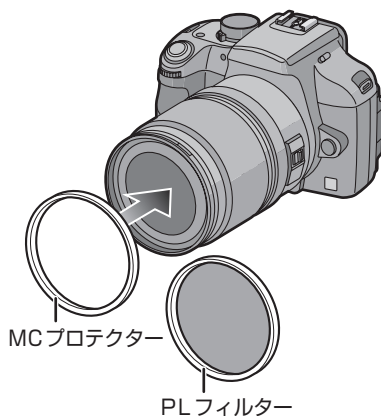
- 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で設定する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、本体側で設定されている絞り値と ISO 感度に合わせることのできる製品をお使いください。
- 絞り優先 AE [A] またはマニュアル露出モード [M] にして使用し、本機で設定した絞り値と ISO 感度を外部フラッシュ側でも設定してください。（シャッター優先 AE モード [S] では絞り値が変化するので適正露出が得られません。またプログラム AE モード [P] では絞り値が固定できないので、外部フラッシュの調光が適切に働きません。）

◯◯お知らせ◯◯

- [FUNC] ボタンでも設定できます。（P104）
- 外部フラッシュ装着時も本機の絞り値やシャッタースピード、ISO 感度を設定できます。
- 市販の外部フラッシュには、シンクロ端子が高圧のものや、極性が逆のものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、本機を故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。
- 専用フラッシュライト以外の通信機能のある外部フラッシュを使用すると正常に動作しないだけでなく、故障の原因になる場合がありますので、使用しないでください。
- **外部フラッシュの電源が [OFF] でも、装着すると外部フラッシュモードになるものがあります。外部フラッシュを使用しないときは、外部フラッシュを外してください。**
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュは使えません。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
- 外部フラッシュ装着時は、置いたときに不安定になります。
- 持ち運びするときは、外部フラッシュを取り外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、脱落の恐れがありますので、外部フラッシュのみを持たないようにしてください。
- 外部フラッシュ使用時にホワイトバランスを [⚡WB]（フラッシュ）に設定した場合、撮影結果によってはホワイトバランスを微調整してください。（P90）
- 広角時に近くで撮影すると、画面の下部がケラレる場合があります。
- **詳しくは、外部フラッシュの取扱説明書をお読みください。**

MC プロテクター /PL フィルターを使う

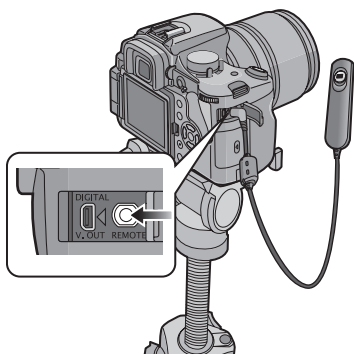
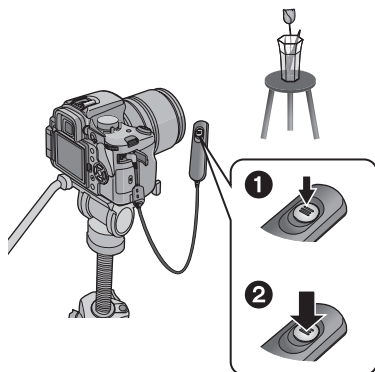
MC プロテクターは、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。また、PL フィルターは、光の乱反射をおさえ、コントラストを強調する写真を撮影できます。

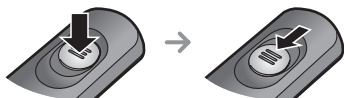
1 レンズキャップを外す

2 MCプロテクターまたはPLフィルターを取り付ける

お知らせ

- MCプロテクターとPLフィルターを同時に取り付けることはできません。
- MCプロテクターやPLフィルターを強く締めすぎると、外れなくなる場合がありますので、強く締めつけないようにしてください。
- MCプロテクターやPLフィルターが落下すると、壊れる恐れがあります。取り付けるときなどは、落とさないようお気をつけください。
- MCプロテクターやPLフィルターを付けたまま、レンズキャップやレンズフードを取り付けることができます。
- 詳しくは、MC プロテクターまたは PL フィルターの取扱説明書をお読みください。
- DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. では MC プロテクター（別売：DMW-LMCH67）や PL フィルター（別売：DMW-LPL67）をお使いください。

シャッターリモコンを使う

シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）を使用すると、三脚使用時に手ブレを防いだり、B（バルブ）撮影時や連写時にシャッターボタンを全押しした状態で固定することができます。本体のシャッターボタンと同様の働きをします。

1 本機の [REMOTE] 端子にシャッターリモコンを奥まで確実に接続する

2 撮影する
❶ 軽く押して半押しする
❷ 全押しで撮影する（奥まで押し込む）

■ シャッターボタンの [LOCK] について

- シャッターボタンを全押しした状態で、固定することができます。
  B（バルブ）撮影時（P48）や連写時（P82）に有効です。
- シャッターボタンを全押ししたまま、[LOCK] 側にスライドさせてください。

- [LOCK]を解除するときは[LOCK]と反対側にスライドさせてください。

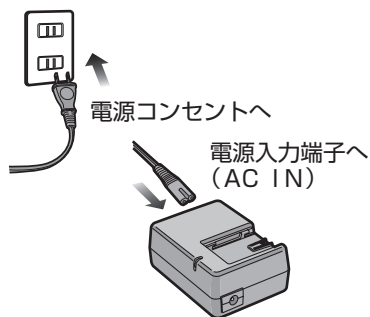
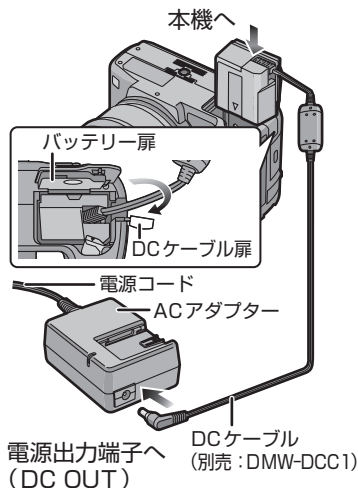
○○お知らせ○○

- 以下の場合、シャッターリモコンでは操作できません。
  ・パワーセーブを解除するとき

AC アダプターを使う

DC ケーブル（別売：DMW-DCC1）を使ってバッテリーチャージャー/AC アダプター（付属）に接続し電源コンセントにつなぐと、本機をパソコンやプリンターに接続するときに、バッテリーの消耗を気にせず使うことができます。

- 電源が [OFF] になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

1 電源コードをつなぐ

2 DC ケーブルをつなぐ

- DC ケーブル扉を引っ張り出してからDCケーブルをバッテリーと同じ手順で本体へ入れ（P24）、左図のようにケーブルを外に出し、バッテリー扉を閉じてください。
- バッテリー扉を閉じるときに、ケーブルを挟まないようにお気をつけください。
- DC ケーブル（別売：DMW-DCC1）をつなぐとバッテリーの充電はできなくなります。

◯◯お知らせ◯◯

- DC ケーブル（別売：DMW-DCC1）を使用してください。それ以外の DC ケーブルを使用すると、故障の原因になります。
- 使用中は本機が温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリーチャージャー/AC アダプターは海外でも使うことができます。（P148）
- 必要がない場合はバッテリーチャージャー/ACアダプターとDCケーブルを抜いておいてください。

電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

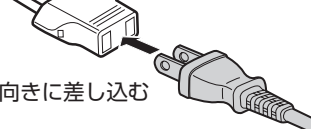
海外旅行先で使う

チャージャーは、日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での一時的な使用は問題ありません。

- 電源電圧（100 V ～ 240 V）、電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけます。
- 市販の変圧器などを使用すると、故障する恐れがあります。

ただし、国、地域によって電源コンセントの形状は異なるため変換プラグが必要です。

■ 変換プラグの付けかた

- **ご使用にならないときは変換プラグをACコンセントから外してください。**

■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A	ハワイ	A						
ヨーロッパ											
イギリス	BF,B3	イタリア	C	オーストリア	C,SE	オランダ	C,SE	ギリシャ	A,B,B3,C,SE	スイス	A,B,C,SE
スウェーデン	B,C,SE	スペイン	A,C,SE	デンマーク	C	ドイツ	A,C,SE	ノルウェー	C	ハンガリー	C
フィンランド	B,C	フランス	A,C,SE	ベルギー	B,C,SE	ロシア	A,C,SE				
アジア											
インド	B,BF,B3,C	インドネシア	B,B3,C,SE	シンガポール	B,BF,B3	タイ	A,BF,C	大韓民国	A,C,SE	台湾	A,C,O
中華人民共和国	すべて	フィリピン	A,O	ベトナム	A,BF,C, SE	香港特別行政区	B,BF,B3,C	マカオ特別行政区	B,BF,B3,C	マレーシア	B,BF,B3,C
オセアニア											
オーストラリア	O	グァム島	A	サイパン島	A	トンガ	O	ニュージーランド	O	フィジー	A,B,C,O
中南米											
アルゼンチン	BF,C,SE	プエルトリコ	A,BF,C	ブラジル	A,C,SE	メキシコ	A,C,SE				
中東・アフリカ											
アラブ首長国連邦	B,BF,B3	エジプト	BF,B3,C,SE	クウェート	B,B3,C	トルコ	A,B,C,SE	南アフリカ共和国	B,BF,B3,C	モロッコ	A,C,SE

タイプ	A	B	BF	B3	C	SE	O
	アメリカンタイプ	U.K. タイプ			ヨーロピアンタイプ		オーストラリアンタイプ
コンセント形状							
プラグ形状	不要です						

■ 海外のテレビで画像を見る

セットアップメニューの [ビデオ出力] で [NTSC] または [PAL] に設定してください。

つづく

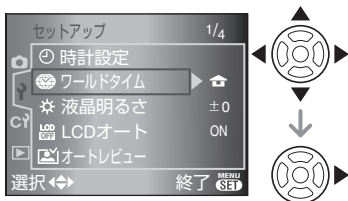
旅行先の時刻を表示する（:ワールドタイム）

モードダイヤル設定：P A S M C SCN

お住まいの地域と海外などの旅行先を選ぶことで、旅行先の時刻を表示し、撮影画像に記録することができます。

● あらかじめ［時計設定］（P28）で、現在の時刻を合わせておいてください。

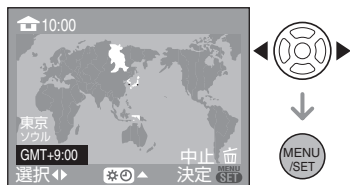
1 [MENU/SET]ボタンを押して、メニューを表示する

2 ▲/▼/◀/▶ でセットアップメニュー[ ]の［ワールドタイム］を選び、▶ を押す

● はじめてワールドタイムを設定される場合や、お買い上げ時の状態の場合、「ホームエリアを設定してください」とメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、[MENU/SET] ボタンを押し、「お住まいの地域（ホーム）を設定する」の ❷ の画面から設定してください。

■ お住まいの地域(ホーム)を設定する

（左記手順 1、2 の操作を行ってください）

❶ ▼ で［ホーム］を選び、[MENU/SET] ボタンで決定する

❷ ◀/▶ でお住まいの地域を選択し、[MENU/SET] ボタンで決定する

● 画面左上に、現在時刻が表示され、画面左下には GMT（グリニッジ標準時）に対する時差が表示されます。

● ホームがサマータイム［ ］（夏時間）を採用している場合は、▲ を押してください。もう一度押すと元に戻ります。

● ホームでのサマータイム設定は、現在の日時は進みませんので、時計設定（P28）を1時間進めてください。

ホームエリアの設定を終了するには

- はじめてホームを設定した場合は、ホームエリアを選択し、[MENU/SET] ボタンを押し決定すると、❶ の画面に戻りますので、続けて旅行先エリアの設定をすることができます。「旅行先エリアを設定する」の ❶ の画面へ進んでください。しばらく旅行の予定がない場合は、◀ を押して 2 の画面に戻り、[MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了してください。
- ２回目以降設定する場合、[MENU/SET] ボタンを押してホームを決定すると、2 の画面に戻ります。メニューを終了する場合は、もう一度 [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了してください。

■ 旅行先エリアを設定する

（149 ページ手順 1、2 の操作を行ってください）

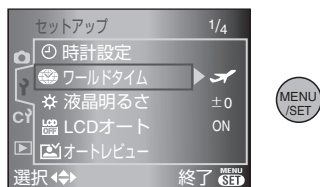
❶ ▲ で [旅行先] を選び、[MENU/SET] ボタンで決定する

「旅行先」または「ホーム」の選ばれているほうの時間を表示します

- はじめて旅行先エリアを設定する場合、時計表示はバー表示になります。

❷ ◀/▶ で旅行先のあるエリアを選択し、[MENU/SET] ボタンで決定する

- 画面右上に、選んだ旅行先エリアの現在時刻が表示され、画面左下には、ホームに設定したエリアとの時差が表示されます。
- 旅行先がサマータイム [☼◷]（夏時間）を採用している場合は、▲ を押してください。（時計が 1 時間進みます）もう一度 ▲ を押すと元に戻ります。
- 選んだエリアにある主要な都市名とホームエリアからの時差が画面左下に表示されます。

❸ [MENU/SET] ボタンを押してメニューを終了する

- 旅行先の設定を行うと、アイコンが [🏠] から [✈] に変わります。

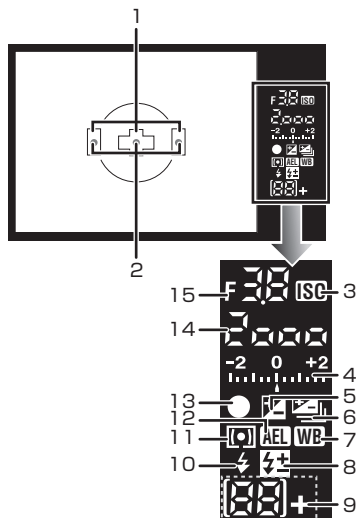
○○お知らせ○○

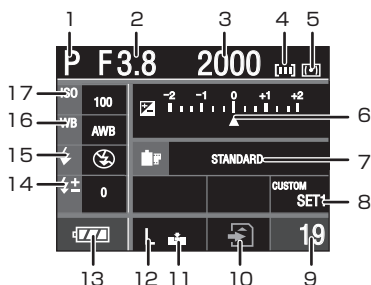
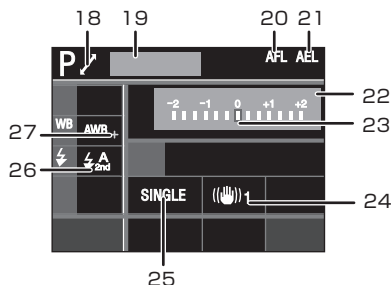
- 旅行から戻ったら、149 ページ手順 1 、2 の操作と、「お住まいの地域（ホーム）を設定をする」の ❶、❷ の操作をして、設定をホームに戻してください。
- 画面に表示されるエリアで旅行先が見つからない場合は、ホームエリアからの時差を参考に設定してください。

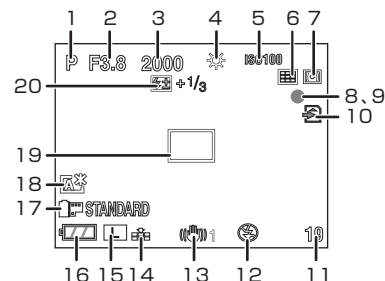
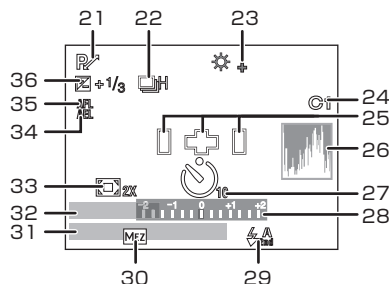
ファインダー / 液晶モニターの表示

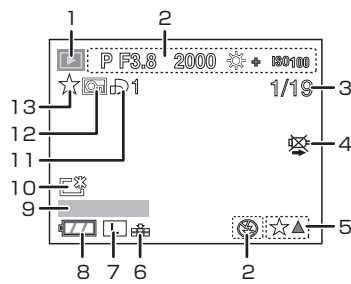
つづく

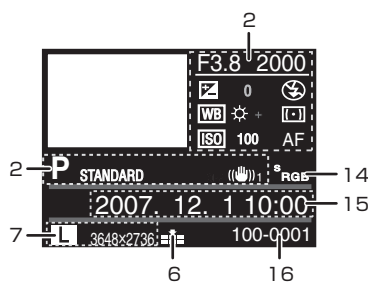
ファインダー / 液晶モニターの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

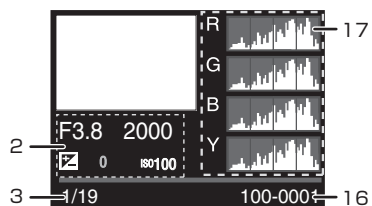
■ ファインダー表示

1 AF フレーム(P39、40、41)
2 AF-LED(P120)
3 ISO 感度(P91)
ISOがAUTO以外のときに点灯します。
4 露出補正値(P49)/
マニュアル露出アシスト(P47)/
オートブラケット補正幅(P84)
5 露出補正(P49)
6 オートブラケット(P84)
7 ホワイトバランス(P88)
8 フラッシュ光量調整(P78)
9 記録可能枚数
(+:100枚以上のとき表示されます)
10 フラッシュ設定(P74)
11 測光モード(P40、94)
12 AE ロック(P80)
13 フォーカス(P40)
14 シャッタースピード(P40、46、47)
15 絞り値(P40、46、47)

■ 液晶モニターの情報表示(ファインダー撮影時)

1 撮影モード(P29)
2 絞り値(P46、47)
3 シャッタースピード(P46、47)
4 AF フレーム設定(P41)
5 測光モード(P94)
6 露出補正(P49)/
オートブラケット補正値(P84)
7 フィルムモード(P105)
8 カスタムセット(P96)
9 記録可能枚数
10 カードアクセス(P26)
11 クオリティ(P107)
12 記録画素数(P107)
13 バッテリー残量(P23)
14 フラッシュ光量調整(P78)
15 フラッシュ設定(P74)
16 ホワイトバランス(P88)
17 ISO 感度(P91)

18 プログラムシフト(P42)
19 月齢 / 年齢(P102)
シーンモードの[赤ちゃん]や[ペット]で起動した場合に約5秒間表示されます。
20 AF ロック(P80)
21 AE ロック(P80)
22 現在日時
起動時 / 時計設定後 / 再生モードから撮影モードへ切り換え後、約5秒間表示されます。
23 マニュアル露出アシスト(P47)
24 手ブレ補正(P18、109)
25 単写 (P40):SINGLE
連写(P82):
オートブラケット(P84): 3BKT 1/3
セルフタイマー(P86):
26 後幕(P79)
27 ホワイトバランス微調整(P90)

■ 液晶モニターのライブビュー表示(P61)

1 撮影モード(P29)
2 絞り値(P46、67)
3 シャッタースピード(P46、67)
4 ホワイトバランス(P88)
5 ISO 感度(P91)
6 AF モード(P69)
7 測光モード(P94)
8 記録動作
赤点滅します。
9 フォーカス(P67)
緑点灯します。
10 カードアクセス(P26)
赤点灯します。
11 記録可能枚数
12 フラッシュ設定(P74)
13 手ブレ補正(P18、109)
14 クオリティ(P107)
15 記録画素数(P107)
16 バッテリー残量(P23)
17 フィルムモード(P105)
18 オートパワーLCD モード(P64)
パワーLCD モード(P64):
19 AF エリア(P67、69)
20 フラッシュ光量調整(P78)

21 プログラムシフト(P42)
22 連写(P82):
オートブラケット(P84):
セルフタイマー(P86):
23 ホワイトバランス微調整(P90)
24 カスタムセット(P96)
25 AF フレーム(P68)
26 ヒストグラム(P63)
27 セルフタイマー(P86)
カウントダウン中に表示されます。
28 マニュアル露出アシスト(P47)
29 後幕(P79)
30 EX 光学ズーム(P110)
31 現在日時
起動時 / 時計設定後 / 再生モードから撮影モードへ切り換え後、約 5 秒間表示されます。
32 月齢 / 年齢(P102)
シーンモードの[赤ちゃん]や[ペット]で起動した場合に約 5 秒間表示されます。
33 デジタルズーム(P112)
34 AE ロック(P80)
35 AF ロック(P80)
36 露出補正(P49)

■ 液晶モニターの再生表示

1 再生モード(P54)
2 撮影情報
3 画像番号 / トータル枚数
4 ケーブル切断禁止アイコン(P140)
PictBridge 対応プリンターに接続し、プリントしているときに表示されます。(プリンターによっては表示されない場合があります)
5 お気に入り設定(P124)
6 クオリティ(P107)
7 記録画素数(P107)
8 バッテリー残量(P23)
9 月齢 / 年齢(P102)
10 パワーLCD モード(P64)
11 DPOF プリント枚数(P127)
12 プロテクト(P129)
13 お気に入り表示(P124)

（詳細情報表示）

14 色空間(P117)
15 撮影日時
16 フォルダー・ファイル番号(P135)

（ヒストグラム表示）

17 ヒストグラム(P55、63)

メッセージ表示

つづく

確認 / エラー内容を液晶モニターに文章で表示します。
ここではその主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	実行していただきたいこと
このメモリーカードはロックされています	SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの書き込み禁止スイッチの「LOCK」を解除してください。(P26、35、130)
表示できる画像がありません	画像を記録する、または画像が記録されたカードを入れてから再生してください。
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから(P129)削除や上書きをしてください。
削除できない画像があります / この画像は削除できません	DCF 規格に準拠していない画像は削除できません。削除したい場合は、パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P35)してください。
設定枚数をこえました	複数削除で一度に設定できる枚数を超えています。一度削除してから、複数削除を続けてください。
	お気に入り設定が 999 枚を超えています。
この画像には設定できません	DCF 規格に準拠していない画像は DPOF 設定できません。
メモリーカードエラー・フォーマットしますか?	本機では認識できないフォーマットです。パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P35)し直してください。
メモリーカードエラー カードのパラメータが異常です	本機に対応したカードをお使いください。(P9、26) ● 4 GB 以上のメモリーカードは SDHC メモリーカードのみ使用できます。
電源を入れ直してください	レンズが正しく装着されているか確認し、再度電源を入れ直してください。
メモリーカードエラー カードを確認してください	カードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。 以下のような場合にもこの表示が出ます。 ● アダプターにminiSDカードやmicroSDカードを入れずに本機に挿入したとき 必ずアダプターにカードを入れてお使いください。
リードエラー カードを確認してください	データの読み込みに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。 カードが確実に挿入されていることを確認してから、もう一度再生してください。

メッセージ	実行していただきたいこと
ライトエラー カードを確認してください	データの書き込みに失敗しました。カードを取り出すか、一度電源を [OFF] にしてから、再度 [ON] にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。
フォルダーを作成できません	使用できるフォルダー番号がなくなったため、フォルダーを作成できません。(P135) パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット（P35）してください。フォーマットを行ったあとにセットアップメニューの［番号リセット］を実行すると、フォルダー番号が 100 にリセットされます。(P33)
4:3TV 用で出力します / 16:9TV 用で出力します	● 本機にビデオケーブルが接続されました。メッセージをすぐに消したい場合は、[MENU/SET] ボタンを押してください。 ● [TV アスペクト] を変更したい場合は、セットアップメニューで変更してください。(P34) ● USB 接続ケーブルが本機のみに接続された場合も、メッセージが表示されます。 USB 接続ケーブルのもう一方をパソコンやプリンターに接続すると、このメッセージは消えます。(P134、137)
ライブビューモードを解除します / ライブビューモードは使えません	ライブビューで、温度の高い場所で使用したり、長時間使用すると、撮像素子の温度が上昇し、ライブビューでの使用ができなくなる場合があります。ファインダーを使って撮影するか、しばらく電源を [OFF] にしてから使用してください。
プリンタービジー プリンターを確認してください	プリンター側が印刷できない状態です。 プリンターを確認してください。
レンズが正しく装着されていません	レンズを正しく付けていますか？ レンズを一度外し、再度付け直してください。 (P18)

Q & A　故障かな？と思ったら

メニュー設定をお買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善する場合があります。
セットアップメニューの [設定リセット] を実行してください。（P33）
これらの処置をしても直らないときは、175、177 ページをお読みください。

■ バッテリー、電源について

Q（質問）	A（回答）
電源を [ON] にしても動作しない。	バッテリーは正しく入っていますか？また、AC アダプター（P147）は正しく接続されていますか？
	バッテリーは十分に充電されていますか？ バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを入れてください。
電源を [ON] にしているのに、液晶モニターが消灯している。 勝手に電源が切れる。	パワーセーブ（P32）が働いていませんか？ シャッターボタンを半押しして、解除してください。
	バッテリーが消耗していませんか？ バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを入れてください。
電源を [ON] にしてもすぐに切れる。	● バッテリーが消耗していませんか？ バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを入れてください。 ● 電源を入れたまま放置しているとバッテリーは消耗します。パワーセーブ（P32）を使うなどして、こまめに電源を切ってください。

■ 撮影について

Q（質問）	A（回答）
画像が撮れない。 シャッターが切れない。	カードは入っていますか？
	カードのメモリー残量はありますか？ 撮影する前にいくつかの画像を削除してください。（P56）
	ピントは合っていますか？ お買い上げ時は、ピントが合うまで撮影されない設定になっています。ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの [フォーカス優先] を [OFF] に設定してください。（P119）
コントラスト AF に設定できない。	同梱レンズをお使いですか？
	● コントラスト AF（P67）に対応していないレンズをお使いの場合（P16）は、カスタムメニューの [LIVE VIEW 時 AF]（P120）をコントラスト AF [ ]（P67）に設定していても、自動で位相差 AF[ ]（P68）に切り換わります。

■ 撮影について

Q（質問）	A（回答）
ピントが合わない。	ピントが合う範囲から外れていませんか？（P43）
	ピントではなく、画像のブレではありませんか？
	カスタムメニューの [フォーカス優先] が [OFF] になっていませんか？（P119） この場合、フォーカスモードを [AFS] または [AFC] に設定していても、ピントが合っていないことがあります。
撮影した画像が白っぽい。 レンズが汚れている。	レンズに指紋などの汚れが付くと画像が白っぽくなることがあります。汚れたときは、電源を [OFF] にし、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。
撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎる。	露出が正しく補正されているか確認してください。（P49）
撮影した画像がブレている。 手ブレ補正が効かない。	特に暗い場所で撮影すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレ補正が十分に働かないことがあります。このようなときは、本機を両手でしっかり持って撮影することをおすすめします。（P38、62） また、スローシャッターで撮影するときは三脚を使用し、セルフタイマー（P86）を使って撮影することをおすすめします。
撮影した画像が粗い。 ノイズが出る。	ISO 感度が高い、またはシャッタースピードが遅くないですか？ ● ISO 感度を低くしてください。（P91） ● [フィルムモード] の [ノイズリダクション] をプラス方向にするか、[ノイズリダクション] 以外の各項目をマイナス方向に調整してください。（P106） ● 明るい場所で撮影してください。
	撮影メニューの [長秒ノイズ除去] が [OFF] になっていませんか？（P117）
ライブビューでの撮影ができない。	温度の高い場所で使用したり、長時間使用すると、撮像素子の温度が上昇します。画面にメッセージが表示され、ライブビューでの使用ができなくなる場合がありますので、その場合はファインダーを使って撮影するか、しばらく電源を [OFF] にしてから使用してください。
ライブビュー撮影時にシャッター音が2回鳴る。	シャッターボタンを全押しすると、1 枚撮影するためにシャッター音が 2 回鳴ります。1 回目のシャッター音は、シャッターを初期状態の位置に戻すための音で、2 回目のシャッター音が実際に撮影されるときの音です。

つづく

■ 撮影について

Q（質問）	A（回答）
ライブビュー撮影時にシャッター音が 1 回鳴るのに、撮影されていない。	オートフォーカス時は、シャッターボタンを半押しして、ピント合わせのために一度ミラーがダウンアップしたときや、シャッターボタンを一度に全押ししてすぐに指を離したときなどにシャッター音が鳴ります。シャッター音が 1 回しか鳴らなかったときは、記録はされていませんのでお気をつけください。

■ 液晶モニターについて

Q（質問）	A（回答）
蛍光灯下で液晶モニターに横しま状のちらつきが出る。	これは、本機の撮像素子である MOS センサーの特徴であり、異常ではありません。撮影する画像には影響しません。
液晶モニターが明るすぎたり、暗すぎる。	液晶モニターの明るさを正しく調整してください。（P33）
	パワー LCD モードになっていませんか？（P64）
液晶モニターの画面上に黒、赤、青、緑の点が現れる。	これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。（P164）
液晶モニターにノイズが出る。	暗い場所では、液晶モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。撮影する画像には影響しません。

■ フラッシュについて

Q（質問）	A（回答）
フラッシュが発光しない。	フラッシュを閉じていませんか？ [⚡OPEN] レバーをスライドさせて、フラッシュを開いてください。
	[風景] モード、[夜景 & 人物] モードの [夜景]、[イルミネーション]、[クリエイティブ夜景]、シーンモードの [夕焼け] を選択しているときは、発光しません。
フラッシュが2回発光する。	フラッシュは 2 回発光します。特に赤目軽減オート [⚡A◎]、赤目軽減強制発光 [⚡◎]、赤目軽減スローシンクロ [⚡S◎] に設定した場合は、間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。
フラッシュが連続で発光する。	フラッシュ発光時に、フラッシュが連続的に発光する場合があります。位相差 AF 時に AF 補助光として発光しています。（P120）

■ 再生について

Q（質問）	A（回答）
再生した画像が回転しない / 意図しない方向に回転して表示される。	本機では縦に構えて撮影した画像を自動的に回転して表示する機能があります。（本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、本機が縦に構えて撮影したと認識する場合があります） ● [回転表示]（P125）を [OFF] にすると画像は回転せずに表示されます。 ● [画像回転]（P125）で画像を回転することができます。 ● 縦位置検出機能（P38）に対応したレンズ（P16）のみ [回転表示] を [ON] にすると画像が回転されて表示できます。
再生できない。	[▶] ボタンを押しましたか？
	カードは入っていますか？
	カードに再生できる画像はありますか？
フォルダー・ファイル番号が［－］で表示され、画面が黒くなる。	パソコンで編集した画像、または当社製以外のデジタルカメラで撮影された画像ではないですか？ 撮影直後にバッテリーを取り出したり、消耗したバッテリーで撮影すると、まれに左記のような画像が記録されることがあります。 ● 左記のような画像を削除するにはフォーマット（P35）してください。（他の画像も含めてすべてのデータは一度フォーマットすると元に戻すことができません。よく確認してからフォーマットしてください。）
	パソコンで回転された画像や編集された画像は、再生モード時（P54）、マルチ再生時（P59）、カレンダー再生時（P60）に黒く表示されることがあります。
カレンダー再生をすると、撮影した日付と異なる日付に画像が表示される。	パソコンで編集した画像または他機で撮影した画像ではないですか？ このような画像は、カレンダー再生時、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。（P60）
	本機の時計設定を正しい日時に設定していますか？（P28） 例えば、本機の時計設定がパソコンに設定されている日時と異なる場合、一度パソコンにコピーした画像をカードに書き戻して、本機でカレンダー再生などをすると、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。

つづく

■ 再生について

Q（質問）	A（回答）
撮影した画像にシャボン玉のような白く丸い点が写り込んでいる。	室内や暗い場所でフラッシュを使い撮影した場合に、空気中のほこりがフラッシュに反射して白く丸い点として写り込む場合（オーブ）がありますが、異常ではありません。 撮影ごとに丸い点の位置や数が変化するのが特徴です。

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q（質問）	A（回答）
テレビに画像が出ない。 テレビ画面が流れたり色が付かない。	正しく接続されていますか？
	テレビの入力切換を外部入力にしてください。
	本機の[ビデオ出力]を[NTSC]に設定してください。(P34)
テレビ画面と本機の液晶モニターの表示される領域が違う。	テレビの機種によっては、表示される領域が狭く、画像が縦や横に伸びたり、画像の上下や左右が切れて表示されることがあります。異常ではありません。
パソコンに接続して画像を転送できない。	正しく接続されていますか？
	パソコンが本機を正常に認識していますか？
	本機の[USBモード]を[PC]に設定してください。(P34、134)
パソコンにカードが認識されない。	USB 接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態で USB 接続ケーブルを接続し直してください。
プリンターに接続して、プリントができない。	プリンターは PictBridge に対応していますか？ 対応していないプリンターではプリントできません。(P137)
	本機の [USB モード] を [PictBridge (PTP)] に設定してください。(P34、137)
プリントすると、画像の端が切れる。	● トリミングや「ふちなし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミングまたは「ふちなし」の設定を解除してお試しください。(プリンターの説明書をお読みください) ● お店によっては、[画像アスペクト] (P107) を [16:9] に設定して撮影した画像を 16：9 のサイズでプリントできる場合がありますので、事前にお店にお尋ねください。
テレビ画面いっぱいに画像が表示されない。	本機の [TV アスペクト] の設定を確認してください。(P34)

■ その他

Q（質問）	A（回答）
メニューの言語が英語の表示になっている。	[MENU/SET] ボタンを押してセットアップメニュー[ ] を表示し、[ ] アイコンを選んで、言語設定をしてください。（P34）
電源を [ON] または [OFF] にすると、「カタカタ」などの音がする。	これはレンズ移動や絞り動作の音で故障ではありません。
画像の一部が白と黒に点滅する。	白とびが起こっている部分を示す、ハイライト表示機能です。（P34） [ハイライト表示] が [ON] になっていませんか？
AF補助光が点灯しない。	カスタムメニューの [AF 補助光] 設定をご確認ください。（P120）
	暗い場所での撮影ですか？明るい場所では AF 補助光は点灯しません。
本機が熱くなる。	ご使用中、本機表面や液晶の裏側が多少熱くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。
時計が合っていない。	本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計の設定をしてください。（P28）
	時計設定をしない状態で撮影すると、[0. 0. 0 0:00] の日付が記録されます。
画像の周囲に、実際にはない色が付いている。	画像はズーム倍率によって被写体の輪郭などにわずかに着色して撮影されることがあります。これを色収差といいます。望遠にしたときに色収差は目立つことがありますが、異常ではありません。
ファイル番号が連続して記録されない。	特定の操作を行ったあとに操作を行うと、それまでとは異なった番号のフォルダーの中に画像が記録されることがあります。（P136）
ファイル番号がさかのぼって記録される。	電源を [OFF] にせずバッテリーを抜き差しした場合、撮影していたフォルダー番号を記憶することができません。従って、再度電源を [ON] にして撮影すると、前回撮影していたフォルダー番号と異なるフォルダー番号で記録されることがあります。

使用上のお願い

つづく

■ 本機について

**本機を落としたり、ぶつけたりしない
また、本機に強い圧力をかけない**

- 強い衝撃が加わると、レンズや液晶モニター、外装ケースが壊れ、故障の原因になります。
- 本機を入れたかばんを落としたり、ぶつけたりすると、本機に衝撃が加わりますのでお気をつけください。

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ（電子レンジ、テレビやゲーム機など）からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーを取り出したりACアダプター（P147）を一度抜いてから、あらためて挿入または接続し、電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像が悪くなることがあります。

**付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。**

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

■ お手入れについて

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを取り出す、または電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- 柔らかい乾いた布でほこりや指紋をふいてください。
- ズームリングやフォーカスリングに付いたほこりや汚れは、ほこりの出にくい乾いた布でふいてください。
- 台所用洗剤や化学ぞうきんは使用しないでください。

撮像素子のごみの付着について

本機はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際に本体の内部にごみが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子に付着したごみが写り込む場合があります。本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外して本体を保管するときは、必ずボディキャップを付けてください。その際、ボディキャップのごみも必ず除去してください。
撮像素子に付着したごみは、P164 の手順でクリーニングしてください。

撮像素子のごみの除去

撮像素子にごみやほこりが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいので、やむを得ずご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順を必ずお守りください。

- クリーニングするときは、十分に充電されたバッテリー（P23）または AC アダプター（P147）をご使用ください。バッテリーをお使いの場合、クリーニング中にバッテリー残量がなくなると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。

1　**レンズを取り外す（P18）**

2　**電源を [ON] にする**

3　**[LIVE VIEW] ボタンを押してライブビュー撮影画面に切り換える**
- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

4　**撮像素子をクリーニングする**
- ブロワー（市販）で撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。強く吹きすぎないようにお気をつけください。
- ブロワーをレンズマウントより中に入れないでください。
- ブロワーが撮像素子に触れないようにしてください。万一、ブロワーが撮像素子に触れると傷が付きます。
- ブロワー以外のものは使用しないでください。

5　**電源を [OFF] にする**
- シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。ブロワーがシャッター幕に挟まらないようにお気をつけください。

■ 液晶モニターについて

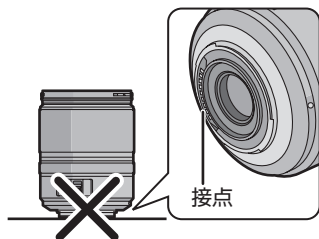
- **液晶モニターを強く押さえないでください。画面にむらが出たり、故障の原因になります。**
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニターの画素については 99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けするものがあります。またこれらの点は、カードの画像には記録されませんのでご安心ください。

■ レンズについて

- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、集光により故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気をつけください。
- レンズ表面に汚れ（水、油、指紋など）が付いた場合、画像に影響を及ぼすことがあります。撮影前後は、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。

つづく

- レンズ取付部を下にして置かないでください。また、レンズの接点を汚さないようにお気をつけください。

■ バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

出かけるときは予備のバッテリーを準備する
- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気をつけください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにチャージャー（付属）も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。(P148)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する
- 端子部が変形したまま本機に入れると、本機をいためます。

不要になった電池（バッテリー）は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

使用済み充電式電池の届け先
最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
- ホームページ
  http://www.jbrc.net/hp

使用済み充電式電池の取り扱いについて
- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

充電式
リチウムイオン
電池使用

■ チャージャーについて

- ラジオ（特に AM 受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は 1 m 以上離してください。
- 使用中、チャージャーの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしておくと、最大約 0.1 W の電力を消費しています）
- チャージャーの端子部を汚さないでください。汚れた場合は、乾いた布でふいてください。

■ カードについて

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない
また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない
- カードが破壊される恐れがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失する恐れがあります。

- 使用後や保管、持ち運びするときはケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。

廃棄 / 譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。
メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

■ 長期間使用しないときは

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
  (推奨温度 :15 ℃～ 25 ℃、推奨湿度 : 40%～ 60%です)
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを入れたままにしておくと、本機の電源が [OFF] であっても、絶えず微少電流が流れています。
  これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなる恐れがあります。
- 長期間保管する場合、1 年に 1 回は充電し、バッテリー残量がなくなったあと、本機から取り出して再保管することをおすすめします。
- 押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に入れることをおすすめします。
- **長期間使用していないときは、撮影前に各部を点検してから使用してください。**

■ 画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 三脚について

- 三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。
- 三脚使用時は、バッテリーが取り出せないことがあります。
- 三脚の取り付けまたは取り外し時に、ねじが斜めにならないようお気をつけください。無理な力で回すと本機のねじを損傷する恐れがあります。締めすぎると本体や定格ラベルを傷つけたり、はがしたりすることがありますので、お気をつけください。
- 三脚の説明書もよくお読みください。

■ ストラップについて

- 本体に重いレンズ（約 1 kg 以上）を付けた場合、ストラップだけを持ってつり下げないでください。本体とレンズを持って持ち運びしてください。

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

記録可能枚数

- 記録可能枚数は目安です。（撮影条件、カードの種類によって変化します）
- 被写体により記録可能枚数は変動します。

画像アスペクト		4:3			
記録画素数		L：3648×2736 画素（1000 万画素相当）			
クオリティ		ファイン	スタンダード	RAW ファイン	RAW スタンダード
カード	16 MB	1 枚	4 枚	0 枚	0 枚
	32 MB	4 枚	10 枚	1 枚	1 枚
	64 MB	11 枚	23 枚	3 枚	4 枚
	128 MB	24 枚	48 枚	6 枚	8 枚
	256 MB	48 枚	96 枚	13 枚	16 枚
	512 MB	96 枚	190 枚	27 枚	32 枚
	1 GB	195 枚	380 枚	56 枚	65 枚
	2 GB	390 枚	770 枚	110 枚	130 枚
	4 GB	770 枚	1520 枚	220 枚	260 枚
	8 GB	1580 枚	3100 枚	450 枚	530 枚
	16 GB	3180 枚	6250 枚	910 枚	1070 枚

画像アスペクト		4:3			
記録画素数		M：2816×2112 画素（600 万画素相当）			
クオリティ		ファイン	スタンダード	RAW ファイン	RAW スタンダード
カード	16 MB	3 枚	8 枚	0 枚	0 枚
	32 MB	8 枚	18 枚	1 枚	2 枚
	64 MB	19 枚	39 枚	3 枚	4 枚
	128 MB	41 枚	82 枚	8 枚	9 枚
	256 MB	81 枚	160 枚	15 枚	17 枚
	512 MB	160 枚	320 枚	31 枚	35 枚
	1 GB	320 枚	640 枚	63 枚	70 枚
	2 GB	650 枚	1270 枚	125 枚	140 枚
	4 GB	1290 枚	2510 枚	250 枚	280 枚
	8 GB	2630 枚	5110 枚	510 枚	570 枚
	16 GB	5310 枚	10290 枚	1040 枚	1140 枚

画像アスペクト		4:3			
記録画素数		S：2048×1536 画素（300 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	7 枚	16 枚	0 枚	1 枚
	32 MB	17 枚	35 枚	2 枚	2 枚
	64 MB	37 枚	74 枚	4 枚	4 枚
	128 MB	77 枚	150 枚	8 枚	9 枚
	256 MB	150 枚	290 枚	17 枚	18 枚
	512 MB	300 枚	590 枚	34 枚	37 枚
	1 GB	600 枚	1180 枚	70 枚	74 枚
	2 GB	1220 枚	2360 枚	140 枚	150 枚
	4 GB	2410 枚	4640 枚	270 枚	290 枚
	8 GB	4910 枚	9440 枚	560 枚	600 枚
	16 GB	9880 枚	19000 枚	1140 枚	1210 枚

画像アスペクト		3:2			
記録画素数		L：3648×2432 画素（900 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	2 枚	5 枚	0 枚	0 枚
	32 MB	5 枚	12 枚	1 枚	2 枚
	64 MB	12 枚	26 枚	3 枚	4 枚
	128 MB	27 枚	55 枚	7 枚	9 枚
	256 MB	54 枚	105 枚	15 枚	18 枚
	512 MB	105 枚	210 枚	31 枚	36 枚
	1 GB	210 枚	430 枚	63 枚	73 枚
	2 GB	440 枚	870 枚	125 枚	145 枚
	4 GB	870 枚	1720 枚	250 枚	290 枚
	8 GB	1770 枚	3500 枚	510 枚	590 枚
	16 GB	3570 枚	7050 枚	1030 枚	1200 枚

画像アスペクト		3:2			
記録画素数		M：2816×1880 画素（530 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	4 枚	9 枚	0 枚	1 枚
	32 MB	10 枚	21 枚	2 枚	2 枚
	64 MB	22 枚	44 枚	4 枚	4 枚
	128 MB	46 枚	91 枚	9 枚	10 枚
	256 MB	91 枚	180 枚	17 枚	19 枚
	512 MB	180 枚	350 枚	35 枚	39 枚
	1 GB	360 枚	710 枚	71 枚	79 枚
	2 GB	730 枚	1420 枚	145 枚	160 枚
	4 GB	1450 枚	2800 枚	280 枚	310 枚
	8 GB	2950 枚	5710 枚	580 枚	640 枚
	16 GB	5950 枚	11490 枚	1160 枚	1290 枚

画像アスペクト		3:2			
記録画素数		S：2048×1360 画素（280 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	9 枚	18 枚	1 枚	1 枚
	32 MB	20 枚	39 枚	2 枚	2 枚
	64 MB	42 枚	82 枚	4 枚	5 枚
	128 MB	87 枚	165 枚	10 枚	10 枚
	256 MB	170 枚	330 枚	19 枚	20 枚
	512 MB	340 枚	650 枚	39 枚	41 枚
	1 GB	680 枚	1310 枚	78 枚	83 枚
	2 GB	1360 枚	2560 枚	155 枚	165 枚
	4 GB	2680 枚	5020 枚	310 枚	330 枚
	8 GB	5450 枚	10230 枚	630 枚	670 枚
	16 GB	10980 枚	20590 枚	1280 枚	1350 枚

画像アスペクト		16:9			
記録画素数		L：3648×2056 画素（750 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	2 枚	6 枚	0 枚	1 枚
	32 MB	6 枚	14 枚	1 枚	2 枚
	64 MB	15 枚	31 枚	4 枚	5 枚
	128 MB	32 枚	65 枚	9 枚	11 枚
	256 MB	64 枚	125 枚	18 枚	21 枚
	512 MB	125 枚	250 枚	37 枚	43 枚
	1 GB	250 枚	510 枚	74 枚	87 枚
	2 GB	520 枚	1020 枚	150 枚	175 枚
	4 GB	1030 枚	2010 枚	290 枚	340 枚
	8 GB	2090 枚	4090 枚	600 枚	700 枚
	16 GB	4220 枚	8230 枚	1210 枚	1410 枚

画像アスペクト		16:9			
記録画素数		M：2816×1584 画素（450 万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	16 MB	5 枚	11 枚	1 枚	1 枚
	32 MB	12 枚	25 枚	2 枚	2 枚
	64 MB	26 枚	53 枚	5 枚	5 枚
	128 MB	55 枚	105 枚	10 枚	11 枚
	256 MB	105 枚	210 枚	21 枚	23 枚
	512 MB	210 枚	420 枚	42 枚	46 枚
	1 GB	430 枚	850 枚	84 枚	93 枚
	2 GB	870 枚	1700 枚	170 枚	185 枚
	4 GB	1720 枚	3350 枚	330 枚	370 枚
	8 GB	3500 枚	6820 枚	680 枚	750 枚
	16 GB	7050 枚	13720 枚	1380 枚	1520 枚

画像アスペクト		16:9			
記録画素数		S：1920×1080 画素（200 万画素相当）			
クオリティ		ファイン	スタンダード	RAW ファイン	RAW スタンダード
カード	16 MB	12 枚	24 枚	1 枚	1 枚
	32 MB	27 枚	52 枚	2 枚	3 枚
	64 MB	56 枚	105 枚	5 枚	6 枚
	128 MB	115 枚	220 枚	12 枚	12 枚
	256 MB	220 枚	430 枚	23 枚	24 枚
	512 MB	440 枚	860 枚	46 枚	49 枚
	1 GB	900 枚	1720 枚	94 枚	99 枚
	2 GB	1800 枚	3410 枚	190 枚	200 枚
	4 GB	3540 枚	6700 枚	370 枚	390 枚
	8 GB	7220 枚	13640 枚	760 枚	800 枚
	16 GB	14530 枚	27450 枚	1530 枚	1610 枚

画像アスペクト		4:3	3:2	16:9
クオリティ		RAW		
カード	16 MB	1 枚	1 枚	1 枚
	32 MB	2 枚	2 枚	3 枚
	64 MB	5 枚	5 枚	6 枚
	128 MB	10 枚	11 枚	13 枚
	256 MB	20 枚	22 枚	26 枚
	512 MB	39 枚	44 枚	52 枚
	1 GB	79 枚	89 枚	105 枚
	2 GB	160 枚	180 枚	210 枚
	4 GB	310 枚	350 枚	410 枚
	8 GB	640 枚	720 枚	850 枚
	16 GB	1290 枚	1450 枚	1710 枚

お知らせ

- ファインダー※ / 液晶モニターに表示される記録可能枚数は、規則正しく減少しない場合があります。
  ※ファインダーには 99 枚までしか表示されません。
- ライブビュー撮影時に [EX 光学ズーム]（P110）を [ON] に設定している場合は、各画像アスペクトの [L] 以外の記録画素数に [EZ] が表示されます。

仕様

電源	DC 9.3 V
消費電力	1.8 W（ファインダー撮影時） 3.3 W（ライブビュー撮影時） 1.9 W（再生時）

カメラ有効画素数	1010 万画素
撮像素子	4/3 型 Live MOS センサー　総画素数 1176 万画素、原色カラーフィルター
デジタルズーム	最大 4 倍
EX 光学ズーム （各画像アスペクトの最大記録画素数以外）	ON/OFF 単純拡大（他社レンズにも対応）
フォーカス **位相差 AF** **コントラスト AF**	 3 点自動選択 / 1 点右固定 / 1 点中央固定 / 1 点左固定 顔認識 /9 点 / マルチ /3 点 /1 点 / スポット
シャッターシステム	フォーカルプレーンシャッター
連写撮影 **連写速度** **連写枚数**	 3 コマ / 秒（高速）、2 コマ / 秒（低速） 3 コマ（RAW ファイルあり） カードの空き容量に依存（RAW ファイルなし）
ISO 感度	オート/インテリジェントISO/100/200/400/800/1600
シャッタースピード	B（バルブ）（最大約 8 分間）、60 ～ 1/4000 秒
測光範囲	EV 0 ～ EV 20（ファインダー撮影時）
ホワイトバランス	オート / 晴天 / 曇り / 日陰 / 白熱灯 / フラッシュ / ホワイトセット 1/ ホワイトセット 2/ 色温度設定
露出	プログラム AE（P）、絞り優先 AE（A）、シャッター優先 AE（S）、マニュアル露出（M）、オート 露出補正（1/3 EV ステップ、−2 EV ～ +2 EV）
測光方式	評価測光 / 中央重点測光 / スポット測光
液晶モニター	2.5 型低温ポリシリコン TFT 液晶（約 20.7 万画素）（視野率約 100%）
ファインダー	ペンタミラー使用アイレベル一眼方式 （視野率約 95%）（視度調整付き－ 3 ～＋ 1diopter）

つづく

フラッシュ	内蔵ポップアップ式 撮影可能範囲：約 2.0 m ～約 5.5 m [DMC-L10K(キット商品)に同梱の交換レンズ14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S. 装着、W 端、[ISO AUTO] 設定時]
	オート / 赤目軽減オート / 強制発光 / 赤目軽減強制発光 / スローシンクロ / 赤目軽減スローシンクロ / 発光禁止
フラッシュ同調速度	1/160 秒以下
記録メディア	SD メモリーカード /SDHC メモリーカード / マルチメディアカード
記録画素数 静止画	 アスペクト [4:3] 設定時 3648×2736 画素 /2816×2112 画素 / 2048×1536 画素 アスペクト [3:2] 設定時 3648×2432 画素 /2816×1880 画素 / 2048×1360 画素 アスペクト [16:9] 設定時 3648×2056 画素 /2816×1584 画素 / 1920×1080 画素
クオリティ（圧縮率）	RAW/RAW ＋ファイン /RAW ＋スタンダード / ファイン / スタンダード
記録画像ファイル形式	JPEG（DCF 準拠、Exif2.21 準拠）、DPOF 対応
インターフェース デジタル アナログビデオ	 USB 2.0（Full Speed） NTSC/PAL コンポジット（メニュー切り換え）
端子 REMOTE DIGITAL/V. OUT DC IN	 φ2.5 mm ジャック 専用ジャック（8 pin） 専用 DC ケーブル
寸法	約 幅 134.5 mm× 高さ 95.5 mm× 奥行き 77.5 mm（突起部除く）
質量	約 480 g（本体） 約 973 g [カード、DMC-L10K（キット商品）に同梱の交換レンズ 14–50 mm/F3.8–5.6/ASPH./MEGA O.I.S.、バッテリー含む]
推奨使用温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	10% ～ 80%

専用バッテリーチャージャー /AC アダプター：DE-A38E

定格出力	DC 9.3 V　1.2 A（デジタルカメラ時） DC 8.4 V　0.75 A（充電時）
定格入力	AC100 V－240 V　50/60 Hz
入力容量	25 VA（100 V)、34 VA（240 V）

リチウムイオンバッテリーパック : DMW-BLA13

電圧	7.2 V

交換レンズ
（LEICA D VARIO-ELMAR 14–50 mm/F3.8–5.6 ASPH./MEGA O.I.S.）

焦点距離	f=14 mm ～ 50 mm （35 mm フィルムカメラ換算：28 mm ～ 100 mm）
絞り形式	7 枚羽根　虹彩絞り / 円形絞り
開放絞り	F3.8（W 端時）～ F5.6（T 端時）
レンズ構成	11 群　15 枚（非球面 2 枚）
撮影範囲	0.29 m ～∞（撮像面から）
手ブレ補正	あり
マウント	フォーサーズマウント
最大径	74 mm
全長	約 93 mm（レンズ先端からレンズマウント基準面まで）
質量	約 434 g

つづく

修理を依頼されるときは

まず「Q & A　故障かな？と思ったら」をお読みください。それでも解決しない場合は故障の可能性があります。
お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P178 ～ 180 ）にお問い合わせください。万一、故障が発生し、修理をご依頼される場合は、円滑な対応をさせていただくために、下記内容をご記入のうえ、製品に添付していただきますようお願いいたします。

- 修理の際に、セットアップメニュー、撮影メニュー、再生メニューなどの設定を出荷状態に戻さなければならない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 画質・ピント・手ブレ関連の故障の場合、支障のない範囲でできるだけご指摘の画像を製品に添付していただきますようお願いいたします。

ご記入日：　　　年　　月　　日

きりとり線

■ 商品に関して

機種名	DMC-L10K DMC-L10
お買い上げ日	年　　月　　日
製造番号 （保証書または本体底面に記載）	
保証書添付	□有り　　□無し

■ 確認事項

修理代金の見積もり（有償修理時のみ）	□不要　　□＿＿万円以上必要　　□必要
修理ご依頼時の添付品 （本体以外の添付品をご記入ください）	

裏面につづく

保証とアフターサービス（よくお読みください）

つづく

修理･お取り扱い･お手入れなどのご相談は･･･
まず､お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- **修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！**
- **使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！**

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日･販売店名などの記入を必ず確かめ､お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間 （「本体」にはソフトウェアの内容は含みません）

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は､このデジタルカメラ / レンズキット､デジタルカメラ/ボディの補修用性能部品を､製造打ち切り後８年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ､直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	デジタルカメラ / レンズキット デジタルカメラ / ボディ
品　番	DMC-L10K DMC-L10
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので､恐れ入りますが､製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については､ご要望により修理させていただきます。
下記修理料金の仕組みをご参照のうえ､ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。 また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。 なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。 お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。

http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787

Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区					
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎ (011)894-1251	**帯広**	帯広市西20条北2丁目23-3 ☎ (0155)33-8477	**函館**	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎ (0138)48-6631
旭川	旭川市2条通16丁目1166 ☎ (0166)22-3011				

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修理ご相談窓口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

東北地区

青森	青森市大字浜田 字豊田364 ☎(017)775-0326	岩手	盛岡市厨川5丁目 1-43 ☎(019)645-6130	山形	山形市平清水1丁目 1-75 ☎(023)641-8100
秋田	秋田市外旭川 字小谷地3-1 ☎(018)868-7008	宮城	仙台市宮城野区扇町 7-4-18 ☎(022)387-1117	福島	郡山市亀田1丁目 51-15 ☎(024)991-9308

首都圏地区

栃木	宇都宮市上戸祭 3丁目3-19 ☎(028)689-2555	埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960	山梨	甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5822
群馬	前橋市箱田町325-1 ☎(027)254-2075	千葉	千葉市中央区末広 5丁目9-5 ☎(043)208-6034	神奈川	横浜市港南区日野 5丁目3-16 ☎(045)847-9720
茨城	つくば市筑穂3丁目 15-3 ☎(029)864-8756	東京	東京都世田谷区 宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780	新潟	新潟市東区東明 1丁目8-14 ☎(025)286-0180

中部地区

石川	金沢市横川3丁目20 ☎(076)280-6608	長野	松本市寿北7丁目3-11 ☎(0263)86-9209	岐阜	岐阜市中鶉4丁目42 ☎(058)278-6720
富山	富山市根塚町1丁目 1-4 ☎(076)424-2549	静岡	静岡市葵区千代田 7丁目7-5 ☎(054)287-9000	高山	高山市花岡町3丁目 82 ☎(0577)33-0613
福井	福井市問屋町2丁目 14 ☎(0776)21-0622	愛知	名古屋市瑞穂区 塩入町8-10 ☎(052)819-0225	三重	津市久居野村町 字山神421 ☎(059)254-5520

近畿地区

滋賀	栗東市霊仙寺1丁目 1-48 ☎(077)582-5021	大阪	大阪市城東区関目 2丁目15-5 ☎(06)6359-6225	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
京都	京都市伏見区竹田 中川原町71-4 ☎(075)646-2123	奈良	大和郡山市筒井町 800番地 ☎(0743)59-2770	兵庫	神戸市須磨区弥栄台 3丁目13-4 ☎(078)796-3140

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修理ご相談窓口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

中国地区

地区	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎ (0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎ (0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎ (0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎ (0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎ (0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎ (086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎ (082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎ (083)973-2720

四国地区

地区	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎ (087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎ (088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎ (088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎ (089)905-7544

九州地区

地区	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎ (092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎ (0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎ (095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎ (097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎ (0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎ (096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎ (0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎ (099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎ (0997)53-5101

沖縄地区

地区	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0608

さくいん

?
Q & A その他

お役に立つ、いろいろな情報は次のサイトで！	
■ 撮りかたのコツや新製品情報	http://panasonic.jp/
■ サポート情報	http://panasonic.jp/support/
■ 便利なLUMIX修理サービス	http://lumix.jp/repair/

愛情点検

長年ご使用のデジタルカメラ/レンズキット、デジタルカメラ/ボディの点検を！

こんな症状はありませんか	・電源コードやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・画像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	DMC-L10K DMC-L10
販　売　店　名	☎（　　）		

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571-8504　大阪府門真市松生町１番15号

F0907KD2098 (　00000 Ⓐ)